

コト久シク、僅ニ修理シテ之ヲ保持スルノミ、是ニ於テカ是歲軍艦二隻新造ノ計畫ヲ建テ、一隻ヲ和蘭ニ注文シ、他ノ一隻ヲ英國ニ注文セントノ議ヲ決セシモ果サス。

明治七年佐賀ノ役アリ、征蕃ノ役之ニ次キ、二三軍艦ノ出征ヲ要シ、尋キテ清國トノ紛議起ルニ及ヒ、急ニ軍備増修ノ必要ヲ生シ、或艦船二隻ヲ英國ヨリ購求セント欲セシモ、一時應急ノ爲ニ舊艦ヲ購フハ得策ニ非サルヲ以テ、終ニ議ヲ更ヘ、稍時局ノ定マルニ及ヒ、英國ニ注文シ新ニ堅艦三隻ヲ製造セシムルニ決ス。

明治八年、新製艦ノ計畫ヲ定メ、新式ヲ裁酌シ、一隻ヲ厚鐵トシ、二隻ヲ鐵骨木皮トシ、皆英國造船會社ニ於テ製造セシム、扶桑、金剛、比叻ノ三艦即チ是ナリ、是レ本省設置後外國ニ向ヒ新艦注文ノ始ニシテ我海軍ニ斯クノ如キ有力ノ軍艦ヲ備フルモ亦之ヲ嚆矢ト爲ス。

明治十年鹿兒島ノ役アリ、復タ大ニ兵力ヲ要スルニ會セリ、是ニ於テ艦船概ネ皆出テ、九州ノ沿岸ヲ警備シ、八閏月ノ久シキニ彌リシカ、賊ニ兵艦ナキヲ以テ別ニ軍艦増備ヲ要スルニ至ラザリシモ、修理急ヲ告ケ、益々茲ニ海軍盛備ノ急務タルヲ實驗セシメタリ。

夫レ軍事ノ進ムニ從ヒテ海軍造船工廠モ亦整備ヲ要セリ、初メ明治四年七月石川島ニ造船局製造所ヲ設ケ、尋キテ之ヲ主船寮トナシ、艦船ノ小修理、小船及諸器具ノ製造ニ任セシカ、規模小ニシテ軍備經營ノ用ヲ辨スルニ足ラス、五年十月工部省所屬ノ横須賀造船所ヲ本省ニ管シ、之ヲ主船寮ニ屬シテヨリ、漸次工場ヲ繕治シ、新艦製造及大修理等ニ辨スルニ至レリ。今其著シキモノヲ言ヘハ、六年九月御船迅鯨ノ工ヲ起シ、又十一月軍艦清輝ノ工ヲ起ス、而シテ清輝ハ八年三月進水セリ、是ヨリ先キ文久三年徳川幕府ノ時ニ當リ石川島ニ於テ千代田形ヲ製造セシム、即チ是レ本邦軍艦製造ノ嚆矢ト云フ、然レトモ僅ニ百三十八噸許ノ小艦タルニ過キス、而シテ清輝ハ八百十七噸ヲ有シ、其構造及兵裝迥ニ同シカラス、明治十一年ニ至リ歐洲諸港ヲ回航セリ、蓋シ我國製造ノ軍艦ヲ以テ歐洲諸港ヲ回航セシハ之ヲ權輿トス、是ニ於テカ我海軍ニ一光彩ヲ添ヘタリ。

斯クノ如ク造船ノ業年ヲ逐ヒテ進ムト雖モ、既有ノ舊艦多キヲ以テ修理相尋
キ、又年所ヲ經ルニ隨ヒ、各艦修理ノ部分相次キテ増加シ、且ツ新艦ノ修理モ亦
隨伴シテ勢自ラ修理事業ノ一方ニ趨キ、爲ニ造船費ヲ縮小セシム。

明治十四年十二月新艦製造ノ議ヲ建テ、其計畫タル毎年三隻ヲ新造シ、二十箇
年ヲ期シテ六十隻ヲ備ヘントスルニ在リ、蓋シ當時ノ歲計ニ餘裕ナク、此長歲
月ヲ期スルノ已ムヲ得サルニ出テシナラン、而モ東洋ノ形勢ハ之ヲ許サ、ル
アリ、終ニ翌年一月再議ヲ建テ、八箇年ヲ期シテ四十八隻ヲ完成スルノ計畫ニ
改メタリ、其餘ノ十二隻ハ姑ク現艦ノ中ヲ以テ豫備トナ
ス、八箇年ヲ過クルノ後チ新造シテ完備ヲ期ス。

明治十五年十二月軍備ヲ更張スヘキノ聖諭アリ、又新ニ稅源ヲ開キ、十六年度
以降八箇年間造船費年額三百萬圓及新艦維持費支辨ノ途ヲ得タリ、是ヨリ後
チ新艦遞加ノ經營ニ應シ、軍務モ又與ニ擴張シ、較、進歩ヲ見ルニ至レリ。

抑、海軍皇張ノ議タルヤ尙シ、初メ徳川幕府海軍創業ノ日、當事者海防方策ヲ建
テ、軍艦三百七十隻ヲ建造シ、以テ十五組ニ編シ、之ヲ分配シテ東海江、東北海江、
北海能州別所、西北海能州別所、西海長崎、南海大坂ノ六備ヲ修ムルヲ目途トシ、先ツ東海南

海ノ兩備ヨリ始メント申議セシコトアリキ。明治維新ノ三年ニ及ヒ、兵部省
モ亦大ニ海軍ヲ創立スヘキノ議ヲ建テタリ、其大要軍艦二百隻ヲ以テ海軍ノ
全力ト定メ、毎年十隻ヲ造備シ、二十箇年ノ後チ之ヲ全備シ、十艦隊ヲ編製セン
ト欲スルニ在リ、之ヲ三期ニ分チ、先ツ第一期ノ方略ヲ上リタリキ、而シテ其造
船費大小艦平均一隻三十萬兩ヲ期セシニ過キス、蓋シ當時我學術ノ未タ深カ
ラサル計畫ノ周匝ナラサル論ナシト雖モ、各國軍艦ノ勢力モ亦今日ノ如クナ
ラサリシヲ見ルニ足ランカ。六年一月左院ノ諮詢ニ對シ、復タ軍備ノ計畫ヲ
爲セシコトアリ、其大要ハ常備ト戰備トニ分チ、平時ハ大艦十四隻平均四百五
十馬力、中艦三十二隻平均二百五十馬力、小艦十六隻平均百二十馬力、運送船八隻平均
百五十馬力ヲ整備シ、之ヲ東海、北海、山陽、南海、西海、山陰道ノ要港ヲ配置スルモノ
トシ、戰時ノ用ハ甲鐵艦約二十六隻ノ整備ヲ要シ、之ヲ建造スルニハ毎年六隻
餘トシ、其年費二百四十一萬七千四百圓ヲ供シ、十八箇年ニシテ全備ヲ期スル
ニアリ、而シテ全備ニ及フ比ホヒ漸次軍用ニ堪ヘサルニ至ルモノアルヘキヲ
以テ前ノ比例ニ據リ、新造補充シ、以テ常ニ全力ヲ嚴備スルニアリキ、其造船費

ハ大中小艦平均一隻三十萬八千三百餘圓ニシテ、甲鐵艦ハ六十二萬五千圓ノ割合タルニ過キス。十四年建議ノ時ニ及ヒ、一艦ノ製造費平均五十萬ニシテ、尙ホ兵器費十六萬九千餘圓ヲ要シ、其次ノ計畫ニ至リテハ實ニ一艦ノ總整備費平均八十三萬二千餘圓ヲ要セリ、而ルニ是等ノ艦種モ亦今日ハ二三等ニ位スルニ至レリ、以テ軍艦勢力ノ逐年増大スル經過ノ一斑ヲ察ス可シ。

明治十八年ニ至リ造船費増加ノ議アリ、當時ノ方畧ハ甲鐵艦二隻、巡洋艦七隻、砲艦六隻ヲ以テ編制シ、四艦隊ヲ備ヘ、之ニ水雷艇隊ヲ分屬セシメントスルニ在リキ。

明治十九年海軍公債ノ發行アリ、然モ從前ノ造船費ヲ補續スルニ過キス、是ヨリ先キ増艦ノ計畫ト共ニ海防水雷ノ準備及西海ニ鎮守府設立ノ議ヲ建テ、未タ其費額ヲ得サリシ、是ニ至リテ八箇年ノ造船計畫ヲ改メ、十九年度以降三箇年ヲ以テ一期ト爲シ、其公債ノ一部ヲ分テ、鎮守府設立及海防水雷費等ニ充用シ、其餘ハ專ラ造船費ニ用井、更ニ堅牢強大ノ豫算ヲ以テ了レリ、乃チ十六年度以降二十一年度ニ至ルマテ造船費ノ辨給ニ由ルモノハ十六年度前起工、巡洋

艦浪速、高千穂、敵、千代田、高雄、八重山、天龍、海門、葛城、大海、防艦、島、橋立、砲艦、海、赤城、和、武藏、但、敵、傍、沈没ニ由リ、千代田ハ其代艦ナリ。摩耶、水雷艦小鷹、及練習艦、千代田、等都合二十三隻、其總噸數ハ約四萬三千三百二十五噸許ニシテ、其他水雷艇二十餘隻ナリ。之ヲ當初ノ計畫ニ比スレハ各艦勢力ノ増加スト同時ニ隻數ハ則チ減少セリ、亦已ヲ得サルニ出ツ、是ニ於テ又第二期ノ計畫ヲ爲シ、以テ軍備皇張事業繼續ノ議ヲ建ツ。

明治二十二年七月吳佐世保兩鎮守府成リテ開廳セリ、是ニ於テ軍艦ヲ三分シ之ヲ各鎮守府ニ隸屬セシメ、且ツ橫須賀海兵團ノ兵ヲモ三分シ、其二ヲ以テ吳佐世保兩海兵團ヲ設立セリ。

是歲又三水雷隊ノ設置ニ決シ、五月橫須賀及竹敷ニ之ヲ置キ、翌年三月ニ至リ佐世保ニ設ク、其橫須賀水雷隊ハ東京灣口ノ防禦ニ任シ、竹敷水雷隊ハ對馬ノ警備ニ任シ、佐世保水雷隊ハ佐世保軍港ノ防禦ニ當レリ。是ニ於テ海軍ノ規模漸ク定マリ、海防ノ實亦舉カラントスルニ至ル。

是ヨリ先キ軍備皇張事業繼續ノ議行ハレテ本年度ニ至リ海軍經費百七萬八千餘圓ノ増額アリ、是ニ於テ更ニ巡洋艦一隻、砲艦一隻製造ノ準備ヲ爲ス、是歲

巡洋艦高雄及報知艦八重山ノ二隻落成セリ。
 明治二十三年砲艦赤城、巡洋艦千代田全ク成ル。
 明治二十四年巡洋艦嚴島成リテ佛國ヲ發シ、又明治十九年ヨリ佛獨兩國ニ注
 文セシ水雷艇十九隻ノ艇材今年ニ至ルマテニ前後悉ク達ス、乃チ吳小野濱ノ
 兩造船所ニ於テ之ヲ構成セシム、是歲又水雷艦一隻製造ノ計畫ヲ立ツ。
 明治二十五年巡洋艦松島成リテ佛國ヨリ回航シ嚴島ト前後皆到ル、又水雷砲
 艦千島モ亦落成シ、全シク佛國ヨリ回達シ、内海ニ航入スルニ及ヒ、十一月三十
 日伊豫近海ニ於テ英船ト衝突シテ沈没ス、是歲甲鐵戰艦二隻、巡洋艦一隻及
 報知艦一隻都合四隻新造ノ計畫ヲ建ツ。
 海軍愈増大進歩スルニ從ヒ、海軍一致ノ戰略及戰術ヲ講スルコト亦愈必要ト
 ナレリ、是ニ於テ明治二十二年東京灣ニ春期大演習ヲ行ヘリ、之ヲ海軍大演習
 ノ嚆矢トス。翌二十三年三月ニハ天子親ラ大元帥トシテ參尾ノ野及伊勢灣
 ニ陸海軍聯合大演習ヲ舉行セラル、海軍創制以來未曾有ノ大運動ヲ試メリ。
 越テ二十五年ニハ常備艦隊、各鎮守府常備ノ諸艦、及佐世保海兵ヲ會シ、九州沿

岸ニ春季大演習ヲ行フ、此演習實ニ全一箇月ノ長期ニ亘レリ。
 初メ帝國海軍ノ興ル諸藩ノ獻艦ト其士卒トヨリ成レリ、是ヲ以テ號令軍器等
 動モスレハ齊一ヲ缺ク、明治五年海軍省ノ設立アルニ至ルヤ、今ノ河村伯薩人
 ヲ率井テ省ニ入り、海陸ヲ合シテ其要地ニ當ル、爾來薩人ヲ以テ海軍ヲ組織ス
 ル二十餘年、帝國海軍ヲシテ今日ノ地位ニ至ラシメタルモノ、薩人ノ功尠カラ
 スト雖モ、此間タ黨同伐異ノ弊太甚ク、爲ニ海軍ノ進歩ヲ妨ケタルモ亦一ニシ
 テ足ラス、是ニ於テカ物情服セス、輿論囂然タリ、明治二十五年十一月議會ノ開
 クルヤ、衆議院ハ行政就中海軍軍政ノ不整理ヲ痛斥シ、終ニ新艦製造費ヲ否決
 セリ。
 明治二十六年二月十一日天子聖詔ヲ降シ、政論紛爭ノ爲ニ國運進張ノ機ヲ誤
 ル可カラサルコトヲ議會ニ諭シ、兼ネテ行政整理ノ忽ニス可カラサルコトヲ
 閣員ニ警メ、内帑ノ金百五十萬圓ヲ五年間ニ發出シテ製艦費ニ賜ヒ、又文官武
 官ニ命シ俸給十分ノ一ヲ全年間製艦費ニ納メシム、是ニ於テ議會モ聖旨ヲ奉
 體シ、曩ニ否決セシ製艦費ヲ復活議定シ、終ニ一等甲鐵戰艦二隻、巡洋艦一隻、

報知艦一隻都合四隻ヲ製造スルニ確定セリ、而シテ政府モ亦海軍軍政整理委員ヲ特設シ、宿弊ノ蠶革ニ從事セリ。今年多少ノ冗員ヲ沙汰シ、官局ヲ廢合シ、軍令部ヲ獨立ヲ見シカ如キ即チ其結果ナリトス。

是歲海防艦橋立、巡洋艦秋津洲ノ艤裝成リテ就役シ、巡洋艦吉野モ亦新造成リテ英國ヨリ回航シ、役務ニ就ケリ。

明治二十七年日清兩國ノ國際破レ終ニ征清ノ軍興ル、是ニ於テ帝國海軍ハ常備艦隊ノ外ニ西海艦隊ヲ興シ、兩艦隊ヲ合シテ聯合艦隊トシ、附スルニ水雷艇隊ヲ以テシ、清國ノ海軍ニ當ル。

全七月二十五日彼我ノ海軍始メテ高麗海豐島ノ沖ニ邂逅シ、我軍敵ノ運送船高陞ヲ擊沈シ、亦之ヲ護送シ來ル巡洋艦廣乙ヲ擊沈シ、砲艦操江ヲ捕獲シ、巡洋艦靖遠ヲ走ラス。

全九月十七日我艦隊ハ本隊松島、嚴島、橋立、扶桑、千代田、比叡、第一遊擊、吉野、高千穂、浪速、秋津洲、及赤城、西京丸ノ十二隻ヲ以テ敵ノ艦隊定遠、鎮遠、來遠、致遠、平遠、濟遠、超勇、揚威、廣甲、廣丙、威遠ノ十二隻カ運送船ヲ護送シテ鴨綠江口ニ到

リ、陸兵ヲ上陸セシメテ回去スルヲ躡シ、黃海ノ北東海洋島邊ニ追及シ、鏖戰五時間ノ久シキニ彌リ、終ニ致遠、經遠、超勇、揚威、廣甲ノ五隻ヲ擊沈焚燬シ、大捷ヲ獲タリ。

其他此役起リテヨリ陸軍數萬ノ大兵ヲ載セタル運送船數十隻ヲ掩護シ、釜山ニ元山ニ仁川ニ大同江ニ進ミテハ遼東ノ華園河口ニ前後幾回無事ニ到著上陸スルヲ得セシメタルハ即チ海軍ノ力ナリ、加之九月十六日平壤攻撃ニハ海軍第三遊擊ハ大同江ヲ溯リテ陸ノ第一軍ニ應援シ、十一月七日陸ノ第二軍大連沿岸ノ諸砲臺ヲ陷落スルヤ、全時ニ海軍ハ大連灣ヲ占領シテ根據地トシ、敵ノ艦隊威海衛ニ集マルト聞クヤ、衛口ニ臨ミテ戰ヲ挑ムコト數日ナルモ、敵艦隊畏レテ敢テ出テス、此月二十一、二十二兩日ノ旅順攻撃ニハ海軍ハ海面ヨリカヲ陸ノ第二軍ニ合シ、終ニ之ヲ陷レ、海軍ハ敵ニ代リテ此軍港ニ據レリ、是ニ於テカ我海軍ノ名聲始メテ世界ニ高シ。

明治二十八年清國トノ戰尙ホ解ケス、一月二十日艦隊ハ運送船五十餘隻ヲ護衛シ、山東省ノ一角榮城灣ニ於ケル我陸軍ノ上陸ヲ全カラシメ、敵ノ有力ナル

北洋艦隊ヲシテ威海衛ニ蟄伏セシメ、其レヲシテ衛外一步ノ海ニ艦首ヲ出サシメサルニ至リ、同月三十日ヨリ艦隊ハ衛ノ攻撃ヲ開始シ、二月四日夜ヨリ五日ノ曉夜ニカケテハ我水雷艇隊ハ衛内ヲ襲ヒ、其艦勇ト鍛練トヲ以テ敵ノ甲鐵艦定遠、來遠、砲艦威遠及運送船ヲ轟沈シ、帝國海軍ノ名譽ヲシテ東海ノ上ニ高カラシメ、敵ノ殘艦隊ヲシテ益窘困セシメタリ、爾來數日ノ戰ヒニ敵ノ水雷艇福龍以下十餘隻ヲ或ハ捕獲シ或ハ轟沈シ、同九日ニハ又敵ノ巡洋艦靖遠ヲ擊沈シ、終ニ日島劉公島砲臺ヲシテ沈黙セシムルニ至レリ、同十二日北洋艦隊ノ提督丁汝昌降ヲ乞ヒ、殘艦隊鎮遠、濟遠、平遠、廣丙、康濟、鎮東、鎮西、鎮南、鎮北、鎮中、鎮邊ノ十一隻ヲ擧ケテ我ニ納レ、自盡シテ死セリ、是ニ於テカ敵ノ北洋艦隊ヲ取リ威海衛ヲ占メ全勝ヲ収メタリ、又三月七日ニハ營口ノ河口ニ於テ敵ノ砲艦涇雲ヲ捕獲セリ。

聯合艦隊ノ北洋艦隊ヲ取リ威海衛ヲ占ムルヤ、艦隊ヲ分チテ南ニ下リ、三月二十三日澎湖島ヲ攻撃シテ之レヲ占領シ、以テ全臺ヲ震蕩ス、會、四月下、關條約調印成リ、臺灣澎湖ヲ合シテ皆我版圖ニ入ル、然レトモ臺北ニハ清ノ前巡撫唐景

崧ノ共和政ヲ僞稱シテ我ニ抗スルアリ、臺南ニハ清ノ前提督劉永福ノ叛徒ヲ鳩メテ我ニ敵スルアリ、是ニ於テ我國更ニ征討ノ軍ヲ用井ルニ至レリ、五月二十九日我艦隊ハ運送船ヲ護衛シテ三貂角ヨリ上陸セシメ、六月三日ニハ基隆ヲ陷レ、爾來本港ヲ根據地トシ、出テ各港ノ賊ヲ討チ、十月ニハ海陸相應シテ臺南ヲ攻メテ之ヲ取リ、艦隊ハ進ミテ打狗港ヲ攻メテ亦之ヲ收ム、是ニ於テカ全臺悉ク平ラク。

抑征清ノ舉起リテヨリ一年有餘、其間諸艦一日モ戰鬪準備ヲ解カス、或時ハ海洋ヲ蹙戰シ、或時ハ砲臺ヲ攻撃シ、或時ハ運送船ヲ護衛シ、或時ハ陸軍上陸ヲ掩護シ、其他沿岸ノ偵察ニ、商船ノ臨檢ニ、港灣ノ防務ニ、海上ノ巡邏ニ、諸ノ實驗ヲ經サル無シ、凡ソ此一年餘ノ實驗ニ由リテ平時ノ十年ニ優ルノ進歩ヲ我海軍ニ與ヘタリトイフモ敢テ溢言ナラシ、是ニ於テカ帝國海軍始メテ世界ニ重シ、帝國モ亦始メテ世界ニ重シ、海軍將卒ノ功永ク記セサル可ケンヤ、而シテ又戰役ニ多謝ス。

戰功ノ赫々、名譽ノ隆々、彼レカ如クナルニ干ハラス、其間ニ於テ愛國ノ衷情之

ヲ記スルヲ潔トセサラシムルモノハ、旅順軍港守備ノ撤去ナリ、及英船「テール」ス臨檢ノ結果ナリ、旅順軍港ハ前年十一月之ヲ海軍ニ占領セシ以來、司令長官ヲ置キ、知港事ヲ置キ、漸次軍港ノ諸機關ヲ備ヘ、直隸海控制ノ地ヲ爲ス、而シテ我政府カ露佛獨ノ干涉ニ聽キテ遼東半島ヲ還附スルニ及ヒ、軍港モ亦之ヲ棄テ、此歲十一月ニ至リ一切ノ守備ヲ撤去セリ。次ニ我海陸軍ノ臺南ノ賊ヲ掃攘スルニ當リ、十月二十日英國ノ商船「テール」ハ私カニ賊酋劉永福等ヲ載セテ廈門ニ走ラシム、我艦隊之ヲ偵知シ、八重山ヲシテ之ヲ追躡シ、海洋ニ於テ臨檢搜索ヲ行フ、英國之ヲ不法トシ我政府ニ向ヒ照會スル所アリ、政府英國ノ意ニ逆フヲ憂ヘ、謝狀ヲ納レテ其意ヲ解ケリ。以上ノ二事タル皆外交ノ失擧タリト雖モ、後事ニ關シ海軍ハ艦隊司令長官及八重山艦長ヲ免黜シ、共ニ之ヲ待命ニ貶シ、故ナク艦隊正當ノ擧ヲ非認シ、自ラ帝國海軍ノ名譽ヲ缺損セリ、之ヲ明治二十八年ニ於ケル我海軍史ノ汚點トス。曩ニ我水雷砲艦千島ノ英船「ラヴェンナ」ニ衝突セラレテ沈没スルヤ、我海軍省ハ英國ノ法廷ニ訴ヘ損害賠償ヲ求ム、會、被告附帶ノ反訴ヲ提起スアリ、在橫濱領

事裁判所ニ於テ我レ直ヲ得上海控訴裁判所ニ於テ屈ヲ受ク、乃チ之ヲ英國ノ樞密院ニ上告ス、此歲七月四日ニ至リ上告直ヲ得タリ、是ヨリ先キ被告和解ヲ求ム、海軍省乃チ之ヲ容レ、獨リ訴費ノミヲ收メテ訴件ヲ抛擲ス、亦本年ノ一失體ナリ。

海軍起リシヨリ以來、未タ此歲ホト一時ニ軍艦ノ増加シタル歲ハアラシ、但シ難破其他ノ事故ニ由リ失ヒタルモノモ亦尠カラス、今其失ヒタルモノヲ擧クレハ曩ニ清國ヨリ得タル砲艦廣丙ハ明治二十三年ノ進水ニ係リ、一千百噸二千四百馬力十七節ノ一良艦ナルカ惜ム可シ十二月廿一日澎湖列島中八罩島邊ニテ暗礁ニ觸レ沈没セリ、其將ニ沈没セントスルヤ、有ラユル短艇ヲ以テ能フタケ艦員及便乗者ヲ陸ニ移セシト雖モ、海水急浸悉ク救フニ遑アラヌ、殘餘ノ士卒ハ皆艦上ニ整列シ、艦旗ヲ卸シ、天皇禮式ノ樂符ヲ奏シ、陛下ノ三唱シ、從容トシテ皆死ニ就キシト云フ、戰國ノ時一艦惜ム可キモ、衆士殊ニ惜ム可シ、然モ軍人ノ國ニ奉スル須ラク斯ノ如クナルヘシ、廣丙將士ノ如クナルヘシ、天下後世海軍ノ龜鑑トセサル可ケンヤ。又水雷艇第二十二號ハ八十五

噸ノ小艇ヲ以テ此歲二月五日ノ曉夜威海衛ニ於テ妨材ヲ冒シテ突入シ、顯赫ナル奮闘ヲ爲シ、敵彈ノ爲ニ機關部ヲ壞ラレ、爾來港内ニ在リシカ同六月十日終ニ破壊セラレタリ。又五十三噸ノ水雷艇第十六號ハ五月十一日澎湖島ノ邊ニテ坐礁沈没ノ慘ヲ見ル。又巡洋艦吉野ハ同シク澎湖列島八罩島邊ニ坐礁ノ厄ニ罹リシト雖モ、幸ニシテ沈没ヲ免レタリ、是レ僅ニ不幸中ノ幸。其他威海衛ニテ收得シタル水雷艇八隻ハ威海衛ノ隣濰陰山口マテ曳キ來リ暫ク此ニ繫留セラレシニ、一日大風浪ノ爲ニ其四隻マテ復タ覆没ノ災ニ遭ヘリ。又一タヒ收得ノ後チ清國ニ交附セシハ練習艦康濟ト砲艦涇雲ナリ、廣濟ハ威海衛ニ於テ領受後直チニ丁汝昌ノ柁ト降將卒トヲ載セ、艦ヲ併シテ清國ニ還附シタリ、涇雲ハ營口ニ於テ捕獲ノ後チ旅順ニ廻送シテ定メテ帝國軍艦ト爲セシカ、十二月旅順撤去ノ際其艦モ亦清國ニ贈與セラレタリ。

以上失却ノ艦艇ヲ控除シ、此歲我海軍ニ増加シ、現存スルモノヲ列舉スレハ、清國ヨリノ收容ニ於テ甲鐵砲艦鎮遠、甲鐵砲艦平遠、巡洋艦濟遠、砲艦鎮東、鎮西、鎮南、鎮北、鎮中、鎮邊之ニ其前年捕獲ノ砲艦操江ヲ加フレハ都合十隻、其噸數一

萬四千九百八十五噸并百二十噸ノ福龍其他ノ水雷艇四隻ナリ。此歲製造中ノ軍艦ニハ二千七百噸ノ巡洋艦須磨ノ三月九日ヲ以テ進水スアリ、又英國ニ於テ新造セシ八百六十四噸ノ水雷砲艦龍田ノ同月十九日ヲ以テ航到スアリ、軍艦總計十二隻、一萬八千五百五十噸及水雷艇四隻ハ新ニ我海軍ノ威力ヲ加ヘタリ。

尙ホ此歲製造中ノ軍艦ヲ舉クレハ英國ニ注文中ノ一等甲鐵戰艦富士及八島アリ、横須賀ニテ建造スル巡洋艦明石アリ、吳ニテ起工セル報知艦宮古アリ、是レ皆今三十年中ニ進水若クハ竣工ス可キモノト爲ス。

此歲海軍擴張案ヲ議會ニ提出シ、九千四百七十七萬六千二百餘圓ノ七箇年繼續費ヲ議會ニ求メタリ、翌二十九年ニ至リ協賛ヲ得タリ、帝國海軍是ヨリ漸ク強大ノ實ヲ見ン。

此歲十二月五日佐世保鎮守府ノ船渠成リテ、開渠ノ式ヲ舉ケタリ。又吳鎮守府ノ第二船渠モ其工大ニ進ミ、其他吳兵器製造所モ此歲ヲ以テ起工セラレタリ、是レ亦海軍ノ一擴張ナリ。

征清ノ師與ルヤ常備艦隊ノ外西海艦隊ノ臨時編制アリ、國際ノ舊ニ復スルヤ此歲十一月ニ至リ之ヲ解ケリ。

以上海軍省年報及實際見聞セシ事實ニ據ル。
明治二十九年ノ記事ハ第六編ニ在リ、就キテ看ル可シ、

第四編 各國海軍

本編掲クル所ノ各國海軍ハ國防ノ要具タルニ副フ所ノ威力ヲ備フルモノニ限ル、其順序ハ一ニ勢力ノ強弱大小ニ由リテ之ヲ次第セリ、中ニ就キ會勢力均抗スルモノハ、有力艦排水量ノ多額ナルモノヲ先キニシ、小額ナルモノヲ後チニセリ。

英吉利

海軍ノ地位

英國海軍ノ強大ハ字内ニ冠タリ、各國海軍能ク之ト肩ヲ比スルナシ、然レトモ英國ノ前ニ佛國アリ、又佛國ノ同盟ニ露國アリ、絶エス其海軍ヲ砥厲シ、以テ英國ニ敵セント期ス、其餘ノ強國モ亦年々其海軍力ヲ擴大スルアリ、是ヲ以テ英國ハ強大今日ノ如キ海軍ヲ有スルモ、亦常ニ威力ノ増殖ニ怠ラス、近クハ明治二十五年以來一萬噸以上ノ甲鐵艦二十隻ト各種ノ非甲鐵艦五十七隻トヲ製

造シタルニ千ハラス、昨明治二十九年海軍豫算ニ於テ又新ニ四百四十五萬六千九百磅ノ擴張費ヲ定メ、海軍人員九萬三千七百五十人トシ、戰艦五隻、一等巡洋艦四隻、二等巡洋艦三隻、三等巡洋艦六隻、水雷驅逐艦二十八隻ノ新造計畫ヲ建テタリ、彼ノ四海ニ衝行スル所以ノモノ亦偶然ナラサルヲ知ル可シ。今其海軍ハ現在起工及計畫中ノモノヲ通シ、艦數七百六十二隻、排水量百九十一萬餘噸ニ及ヘリ、中ニ就キ其有力艦ノミヲ算スルモ、尙ホ三百六十九隻、百七十萬一千五百一十噸ノ多キアリ、而シテ新計畫ノ艦隻ハ固ヨリ其レ以外ニ屬セリ。

現在、起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵戰艦	六〇	六四七、九一〇	最大 一五、一四〇 最小 四、四七〇
甲鐵巡洋艦	一三	七六、六五〇	最大 八、四〇〇 最小 五、三九〇
甲鐵海防艦	一三	五三、四〇四	最大 六、二〇〇 最小 二、七五〇

甲鐵浮砲臺艦	一	一、八四四	
甲鐵艦合計	八七	七七九、八〇八	
巡洋艦	一三七	五七四、八〇〇	最大 一四、四七五 最小 一、四二〇
水雷巡洋艦	九	一五、四一〇	最大 一、七七〇 最小 一、五八〇
補助巡洋艦	三六	二三五、二一五	最大 一三、〇〇〇 最小 一、八〇〇
報知艦	二	二、八〇〇	各 一、四〇〇
「コルヴェット」	二〇	二、一三四〇	最大 一、一七〇 最小 九二五
砲艦	四二	三〇、〇〇八	最大 一、〇五〇 最小 四三〇
水雷砲艦	三三	二六、四七〇	最大 一、〇七〇 最小 五二五
衝角水雷艦	一	二、六四〇	
水雷母艦	二	一三、〇二〇	大 六六二〇 小 六四〇〇
非甲鐵艦合計	二八二	九二一、七〇三	
總計	三六九	一、七〇一、五一一	

注意 以上ノ内計畫中ノ甲鐵巡洋艦一隻非甲鐵巡洋艦二隻計畫中ノ水雷砲艦二隻ハ排水量未詳ナレハ實際ノ噸數ハ此以上ニ在リト知ル可シ
 補助巡洋艦ハ英國商船會社ノ船舶中海軍ノ命ヲ受ケ特ニ製造シタルモノニシテ戰時直チニ巡洋艦ノ任務ヲ負ハシムルモノヲ収ム

現在及起工中水雷艇

艇種	艇數	排水量	大小兩極
水雷驅逐艇	四三	九四八八	最大 二六〇 最小 二二〇
一等水雷艇	九五	六八五〇	最大 一三五 最小 二〇
二等水雷艇	六九	六七〇	最大 一六 最小 八
合計	二〇七	一七、〇〇八	

注意 以上ノ内起工中ノ二等水雷艇九隻ノ噸數未詳ナレハ實際ハ之ヨリ多シト知ル可シ

其餘ノ現在艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
小砲艦	四一	二、六八五	最大 三六三 最小 一八〇
運送艦	九	二、三三五一	最大 六二一一 最小 一、三七〇
「ヤット」	四	四、七八三	最大 二、四七〇 最小 九三
練習艦	三四	七、七五五	最大 六、五五七 最小 三一一
測量艦	八	三、六七五	最大 九四〇 最小 三五
特務艦	一〇	一〇、一三〇	最大 一、三〇〇 最小 四六〇
豫備定繫艦	一四	四、三、一六八	最大 六、〇七一 最小 一、八七六
使役艦	四〇	一、三、一八	最大 一、二四七 最小 二五
豫備海防巡洋艦	二六	五、一五二	最大 四六一 最小 三〇
合計	一八六	一九二、六一六	

注意 以上ノ内運送艦起工中二隻其他一隻練習艦測量艦各一隻及使役艦四隻合計九隻ノ排水噸數未詳ナラス故ニ合計噸數ハ尚ホ之ヨリ上ル可シ

補助巡洋艦

海軍本部ハ重ナル商船會社ノ郵船中、戰時用井テ補助巡洋艦タラシム可キモノヲ撰ミ、別チテ之ヲ三種トス。

第一種ハ海軍本部ノ計畫若クハ認可ヲ經テ製造シ、十七節以上ノ速力ヲ有シ、指定ノ砲煩ヲ備ヘ、何時ニテモ武裝シ得ヘキモノニ限ル、之ニ對シテハ、補助年金ヲ與フ。

第二種ハ十七節以下ノ速力ヲ有スルモノニシテ、海軍本部ノ指定スルモノニ限ル、之ニ對シテハ、別ニ補助年金ヲ與ヘス、單々其使用間一定ノ月手當ヲ與フ。第三種ハ其他ノ商船ニシテ運送船若クハ病院船等ニ用井得ヘキモノヲイフ。第一種補助巡洋艦ノ現在隻數及所屬會社ヲ舉クレハ左ノ如シ。

「キナード」會社所屬補助巡洋艦

七隻

半島及東洋會社即彼阿所屬補助巡洋艦

一五隻

白星會社所屬補助巡洋艦

六隻

加奈陀太平洋鐵道會社所屬補助巡洋艦

四隻

「イムマンス」會社所屬補助巡洋艦

四隻

計

三六隻

以上ハ前ノ有力艦表中ニ算スセリ。

艦隊

英國ノ所領ハ世界ノ各地ニ散在シ、國民ノ商業ハ五洲ノ各港ニ周ネシ、隨テ兵畧上ニ商業上ニ海軍ノ配備ヲ要スルコト極メテ大ナリ、乃チ其海軍ヲ十艦隊ニ分チ、之ヲ配置スルコト左ノ如シ、茲ニ掲クル艦數ハ明治二十九年五月十六日ノ調査ニ係ルモノナリ。

海峽艦隊 英佛兩國ノ海峽ニ備フ、海軍中將ヲ司令長官トシ、全少將ヲ第二司令官トス。

戰鬪艦

六隻

巡洋艦

三隻

水雷砲艦

一隻

砲艦

一隻

水雷驅逐艦

六隻

都合

一七隻

地中海紅海艦隊 地中海ヨリ紅海ニ至ル一帶ニ備フ、マルタ島ヲ以テ根據地

トス、海軍大將ヲ司令長官トシ、全少將ヲ第二司令官トス。

戰闘艦 一〇隻 巡洋艦 一二隻

「スループ」 二隻 衝角艦 一隻

水雷砲艦 三隻 砲艦 一隻

其他ノ軍艦 一隻 水雷驅逐艦 一隻

都合 三一隻

北米洲西印度艦隊 北米洲ノ太平洋海岸、南米洲ノ北岸及西印度並其近海諸

島ニ備フ、パルムダ島ヲ以テ根據地トス、海軍中將ヲ司令長官トス。

巡洋艦 八隻 「スループ」 二隻

砲艦 一隻 都合 一二隻

太平洋艦隊 南北米洲ノ太平洋海岸、南太平洋、布哇、マルケサス、ソサイチー島

其他ノ諸島ニ備フ、海軍少將ヲ以テ司令長官トス。

巡洋艦 四隻 「スループ」 二隻

砲艦 一隻 都合 七隻

支那艦隊 新嘉坡ヨリ白零海峡ニ至ル亞細亞海岸一帶支那、日本及北太平洋諸島ニ備フ、香港及新嘉坡ヲ以テ根據地トス、香港ニハ船渠、火藥庫、石炭庫等悉ク整備ス、海軍中將之カ司令長官タリ、長官及諸艦ハ三年毎ニ交代ス。

「スループ」 一隻 砲艦 一〇隻

都合 二四隻 第七編 在東洋各海軍ノ部參看

東印度艦隊 印度、亞刺比亞、波斯ノ海岸及印度洋一帶ノ海岸ニ備フ、孟買及錫蘭ノトリンコマリヲ以テ根據地トス、海軍少將之カ司令長官タリ。

巡洋艦 四隻 「スループ」 一隻

水雷砲艦 一隻 砲艦 三隻

都合 九隻

濠洲艦隊 濠洲海岸、ニューゼーランド、フィジー、カロリン諸島ニ備フ、シドニー、メルボルンヲ根據地トス、二港トモニ船渠其他ノ配備足ル、海軍少將之カ司令長官タリ。

巡洋艦 八隻 水雷砲艦 二隻
 砲艦 三隻 都合 一三隻
 尙ホ詳ニ之ヲ言ヘハ濠洲艦隊ハ本艦隊ト副艦隊ヨリ成リ、以上十三隻ノ内
 巡洋艦四隻、砲艦三隻ハ本艦隊ニ屬シ、巡洋艦四隻、砲艦二隻ハ副艦隊ニ屬ス、
 本艦隊ハ本國ノ直派ニ係リ、副艦隊ハ母子國共有トス、而シテ少將ノ本艦隊
 司令長官之ヲ統フ。

喜望峯、亞非利加西岸艦隊 亞非利加ノ西岸一帶ヨリ喜望峯ヲ經亞非利加南
 部ノデラゴア灣ニ至ル海岸ニ備フ、海軍少將ヲ司令長官トス。

巡洋艦 七隻 「スループ」 一隻
 砲艦 七隻 都合 一五隻

米洲南東岸艦隊 南米洲ノ太西洋海岸ニ備フ、先任大佐艦長之レカ司令官タ
 リ。

巡洋艦 二隻 「スループ」 三隻
 都合 五隻

飛航艦隊 是レ明治二十九年一月ノ創設ニ係リ、豫メ擔任ノ方面ヲ定メス、一
 ノ遊撃艦隊トシテ日常ヨリ緩急事ニ赴クノ準備ヲ爲セリ、海軍少將ヲ以テ
 司令長官トス。
 戰鬪艦 二隻 巡洋艦 四隻
 水雷砲艦 六隻 都合 一二隻

軍港及艦廠

英國ノ海岸ハ三大管區ニ別チ、每區ニ軍港「ネバルステイ」アリテ之ヲ管轄ス、其第
 一管區ハ「ポーツマス」軍港ニ屬シ、第二管區ハ「デヴォンポート」軍港ニ屬シ、第三管區
 ハ「シーアネス」軍港ニ屬ス。軍港ニハ司令長官ヲ置キ、大將若クハ中將ヲ以テ
 之ニ補シ、管區内ノ艦廠「艦廠トハ軍艦ノ製造、修理及艦裝
 彈藥軍需ノ供給ヲ爲ス所ナリ」及海軍諸部局、軍港所
 管ノ軍艦及管區在籍海軍々人ノ動員ノ事ヲ統督ス。又愛蘭ノクインスタウ
 ンニ愛蘭海岸司令官ヲ置キ、少將ヲ以テ之ニ補シ、其他ノ糧食廠等ヲ管轄ス。
 諸軍艦及人員已ニ各軍港ノ分、轄ニ屬ス、從テ艦裝モ此ニ於テシ、解裝モ此ニ於
 テシ、豫備ヨリ在役ニ入ルモ此ニ於テシ、在役ヨリ豫備ニ移リ、若クハ非役ニ入

ルモ亦此ニ於テス。
今左ニ各軍港ヲ列擧スレハ。
ポーツマス

英克蘭ノ南岸海峽ノ海邊ニ在リ、英國第一ノ軍港トス、此港ノ管轄ニ屬スル軍艦百餘隻アリテ、就役解役皆此ニ於テス、港内ニハ砲術水雷術機關生徒若海兵等ノ各練習艦アリ、艦廠ハ面積三百、エークル、工人六千二百餘人、少將ヲ以テ艦廠長官トス。

デヴォンポート

英克蘭ノ南西岸海峽ノ北瀕ニ在リ、此軍港ニ分屬シ、此ヨリ就役解役スル軍艦亦百餘隻ニ下ラス、港内ニ砲術水雷術等ノ各練習艦アリ、ダートマスニ兵學校アリ、練習艦一隻ヲ以テ之ニ充ツ、亦軍港ノ所轄タリ、軍港ノ艦廠ハ面積三百五十八、エークル、工人約千三百人、少將ヲ以テ艦廠長官トス。

シーヤネス

英克蘭ノ南東、テイムス河口ノ右近方ニ在リ、此軍港ニ分屬シ、此ヨリ就役解

役スル軍艦ハ三四十隻、艦廠ノ面積ハ五十七、エークル、工人千六百人、大佐ヲ以テ艦廠長官トシ、造船技官ヲ以テ次長トス。

チャタム

此他艦廠設置ノ地ヲ擧クレハ、
亦テイムス河口ノ右近方ニシテ第三管区内ニ在リ、此艦廠ニ分屬シ、就役解役スル軍艦四五十隻、面積ハ三百七十九、エークル、工人千四百餘人、少將ヲ以テ艦廠長官トス。

以上ヲ一等艦廠トス。

テムズブローク。

英克蘭ノ西面ジョージ海峽ノ邊ニ在リ、此艦廠ニ分隸シテ役務ヲ就解スルモノ三四十隻、艦廠ノ大サ七十七、エークル、工人千八百餘人、大佐ヲ以テ長官トシ、造船技官ヲ次長トス。

各軍港ニハ軍港司令長官ノ旗艦ト艦廠長官ノ旗艦ト各一隻アリ、艦廠長官旗艦ノ艦長ハ豫備艦司令ヲ兼ネ、廠管一切ノ豫備艦非役艦ヲ統轄ス。以上ノ諸

艦廠中ペムブロークハ少將ノ長官ヲ置カサルカ故ニ別ニ旗艦ナシ尙ホ三艦廠アリ。

デットフーイト
ウールウヰッチ

ハウルボーライン

以上ヲ二等艦廠トス。

其他植民地中艦隊需品ノ倉庫ヲ置キ艦隊ノ根據地ト爲ス處ハ左ノ如シ。

ジブラルタル

マルタ

ハリファックス

バーマーズ

アンチゴア

ジマイカ

アセンション

シエラレオン

喜望峯

トリンクマレー

新嘉坡

エスキマルト

香港

クインスタウン

シドニー

現役海兵

英國ニ於テハ徵兵義務ノ制アラズ從テ海兵ハ志願兵ヨリ之ヲ採用ス其數約

四萬八千四百餘人アリ。

志願兵ハ別チテ二種ト爲ス一ヲ繼續一般服役兵ト稱シ二ヲ不繼續服役兵ト稱ス。

繼續服役兵ノ服役期限ハ初服役十箇年再服役十二箇年通シテ二十二箇年トス、千八百八十五年一月一日ノ法律此服役年限滿期ノ者ハ年金ヲ受ク。海兵ハ尙ホ復タ五箇年若クハ七箇年ノ再服役ヲ志願スルコトヲ得斯クノ如クシテ年齢五十二達シ退役スル者ハ官衙ニ奉務セシム。

不繼續服役兵ノ服役期限ハ五箇年トス若シ再服役ヲ志願スルモ亦五箇年ヲ超ユルコト無シ。

繼續服役兵ハ主トシテ國內五箇所ニ在ル若海兵學校ヨリ之ヲ出ス初メ若海兵ノ入校ニ際シ十箇年間ノ服役ヲ契約セシメ其年齡十八ニ達スル時ハ之ヲ海兵ト爲ス其若海兵タル間ノ服務日數ハ契約年限ニ算入セサルモノトス。英海軍教育ノ部ヲ參看ス可シ。

豫備海兵

英國ニ於テハ戰時現役海兵ノ補助ニ充テシカ爲ニ豫備海兵ヲ置ク、豫備海兵ハ分テテ四種ト爲ス、第一海岸警備兵、第二海軍豫備兵、第三海軍補給兵、第四海軍義勇砲兵即チ是レナリ。

豫備海軍司令長官ヲ置キ、大將若クハ中將ヲ以テ之ニ補シ、以上ノ諸兵並之ニ屬スル艦船ヲ統轄シ、其旗章ヲ海軍警備艦中ノ一隻ニ掲ク。

海岸警備兵

一 海岸警備兵 ハ海岸一帯ノ警備ニ任スルモノニシテ、將校百餘人、下士卒四千二百人アリ。

將校ハ現役ヨリ補任シ、准士官ハ商船士官ヨリ撰拔ス、下士卒ハ現役ノ海兵若クハ海砲兵ニシテ八箇年間服役シ、年齢三十七以上ニ達シ行狀善良ノ者(一)豫備兵ニ在ルコト十箇年ニシテ全ク年齢三十七以上ニ達スル者(二)ヨリ採用シ、服役中ハ少額ノ給料及屋舎ヲ與フ、總シテ海岸警備兵ハ英國豫備海軍中ノ最モ精英ト稱ス可シ。毎年二週間所在ノ警備艦ニ乗組ミ練習ヲ爲ス、平時ハ密賣船ノ取締ニ任シ、小帆船ヲ備ヘテ絶エス海岸ヲ巡邏ス。

英國ノ沿岸ハ別テテ九大區、七十九分區、二百二十五停港ト爲シ、大區毎ニ一隻

ノ戰闘艦ヲ配備シ、之ヲ其區ノ主港ニ駐在セシメ、海區ノ大小ト防禦ノ難易トニ應シ、之ニ屬スルニ砲艦二三隻、其餘ノ艦船三四隻ヲ以テシ、以テ海岸警備艦ニ充ツ。

海岸警備兵ノ將校ハ各分區長トナリテ區内ノ隊員ヲ統ヘ、其主港配備ノ戰闘艦艦長ニ隸シ、戰闘艦艦長ハ之ヲ統ヘテ豫備海軍司令長官ニ隸ス。

以上ノ九戰闘艦ハ之ヲ第一豫備艦ト稱シ、平時ハ定員ノ幾分ヲ減シ、一旦警報アレハ管區ノ警備兵ヨリ定員ヲ補充シ、以テ海峽艦隊ニ合ス。

豫備海兵

二 豫備海兵 所謂王國海軍豫備兵ナリ、是レ現役ヲ終リテ豫備ニ入りタル者ノ謂ヒニ非ス、商船海員中志願者ヨリ採リテ編制セシモノナリ、將校四百餘人、下士卒二萬餘人アリ。

士官ハ現役將校相等ノ官ニ任シ無給トス、下士卒ハ商船水火夫ノ年齢三十以下ニシテ行狀善良ナル者(但シ王國海軍ニ從事シタル者ハ三十五歳マテ)ヨリ採用シ、別テテ二級トス、商船ニ乗組ムコト五箇年以上ニシテ上等水火夫タリシ者ヲ一等トシ、商船水火夫若クハ漁夫タルコト三箇年以上ノ者ヲ二等トス、

毎年四週間所管區ノ軍艦ニ乗組ミ練習ヲ爲ス、此間士官下士卒共ニ現役相當ノ食料及手當ヲ受ク、其他ハ海上若クハ陸上ニ在リテ隨意ノ業ニ從事スルハ其自由タリ、而シテ戰時事變ニ際シ召集シテ海軍ノ役務ニ服セシム、其二等卒ニシテ十箇年間豫備兵ニ服役シ、年齢三十七ニ達スル者ハ海岸警備隊ニ編入スルコトヲ得、士官ハ平時ニ在リテモ軍艦ニ乗組ミ、現役將校ト全ク服役セシムルコトアリ。

海軍本部ハ法律上三萬人ニ超過セサル海軍豫備兵ヲ募ルコトヲ得。

上記載セシカ如ク此豫備兵ハ毎年四週間召集シテ練習ヲ爲サシムルカ故ニ練習艦十隻ヲ分チテ各所ニ配置シ之ニ充ツ。

三 補給海兵 ハ千八百七十年ノ制定ニ係レリ、退役ノ下士卒ヲ以テ之ニ充ツ、其數約二千餘人。

年齢四十五以上ノ海軍下士卒ニシテ現役ヲ退キ、補給年金ヲ受クル者ヲ以テ之ヲ編制ス、毎年十四回召集シテ練習ヲ爲ス、此間ハ現役相當ノ俸給ヲ受ク。

四 海軍義勇砲兵 ハ千八百七十三年ノ制定ニ係レリ、戰時事變ノ際召集シ

補給海兵

海軍義勇砲兵

テ或ハ軍艦ニ上セ、或ハ砲臺ニ嬰ラシメ、若クハ海岸防禦ニ從事セシム、其數亦約二千三百餘人アリ。

義勇砲兵タル者ハ眞ノ義勇兵ニシテ一切無給トス、八十人ヲ以テ中隊ヲ編制ス、而シテ自費ヲ以テ時ニ演習旅行ヲ執行ス、目下義勇砲兵アルノ地ハ倫敦、リバプール、ブリストル、クライドノ四箇所トス。

海軍本部ハ海防ノ爲ニハ一萬人ニ超過セサル義勇砲兵ヲ成立セシムルコトヲ得。

海軍人員

英國海軍ノ現在人數ハ左ノ如シ、

將	校	中將	少將	佐
艦隊大將	八	少將	三五	大尉
大將	一一	大佐	二〇八	少尉
				二七六

少尉候補生	三六三	大機關士大尉	二九四	少主計少尉	一七九
士官生徒	二八〇	少機關士少尉	一九三	筆記少尉候補	六三
計	二、三七九	計	七六九	筆記補	二一
航海將校 <small>此航海佐尉官ハ新任 トス、漸次減盡ス</small>		技術總監中將	一	計	四六七
大佐	一五	技術總監大佐	一	軍醫官	
少佐	六七	大技監大佐	一三	軍醫總監中將	一
計	八二	少技監少佐	一二	一等軍醫大監少將	四
機關官		大技士大尉	四七	二等軍醫大監少將	一二
一等機關大監大佐	五	計	七三	一等軍醫少監大佐相當官	五一
二等機關大監大佐	八	主計官	八二	二等軍醫少監大佐二 次ク	八四
一等機關少監少佐	九一	主計大監大佐	八二	軍醫少佐三次ク 及大尉相當	二三九
二等機關少監少佐	一〇九	主計少監少佐	六一	計	三九一
三等機關少監少佐	六九	大主計大尉	六一	僧官	

二一六

大僧官	一	中少尉	二九	計	二五九
少僧官	九八	計	八五	准士官	
羅馬教僧官	二	海軍步兵將校	二	准士官	一、一〇一
計	一〇一	大將	二	計	一、一〇一
海軍砲兵將校		中將	三	諸兵	
中將	一	少將	五	下士、海兵	五一、九九五
少將	一	大佐等一	三	若海兵	九、七九四
大佐等一	一	大佐等二	四	海岸警備兵	四、二〇〇
大佐等二	一	中佐	一四	海砲兵	二、六七三
中佐	四	少佐	三七	海步兵	一一、六六三
少佐	一五	大尉	六四	計	八一、三二五
大尉	三三	中少尉	一二七	總計	八七、〇三二

海軍本部

英國海軍ノ軍政ハ海軍本部之ヲ統フ、大臣六人アリテ以テ其事務ヲ分掌ス、其大臣及分掌ハ左ノ如シ、

- 第一 「フォースト、ロード」 文官大臣ニシテ内閣員ニ列シ、本部一切ノ事ヲ統フ。
- 第二 「セニオル、ネヴァル、ロード」 海軍將官ヲ以テ之ニ補ス、軍艦ノ進退、艦隊ノ配置及軍紀ニ關スル事ヲ統フ。
- 第三 「セコンド、ネヴァル、ロード」 海軍將官ヲ以テ之ニ補ス、艦隊ノ兵員、海軍豫備兵、海歩砲兵等總テ人員ニ關スル事ヲ總フ。
- 第四 「サード、ネヴァル、ロード」 海軍將官ヲ以テ之ニ補ス、艦廠及製艦ニ關スル事ヲ統ヘ、兼ネテ海軍材料總監タリ。
- 第五 「ジュニオル、ネヴァル、ロード」 海軍將官ヲ以テ之ニ補ス、軍需供給、醫務、衛生及運輸ノ事ヲ統フ。
- 第六 「シヴィル、ロード」 國會議員ヨリ之ニ補ス、需品ノ購買及契約、土木ニ關スル事項并文官ノ轉免等ノ事ヲ統フ。

以上協辦大臣六名ノ下ニ、

國會兼財務尙書 國會及會計ニ關スル事ヲ掌ル。

以上ハ一帯ニ内閣ト共ニ進退スルノ制ナリ、其他

常任尙書 庶務ヲ掌理シ、定規先例アル事項ハ之ヲ專行シ、其他ハ進止ヲ各

專任ノ「ロード」ニ承ク。

各大臣尙書ハ内閣ト共ニ交迭ス、獨リ常任尙書ハ之ニ與カラス、故ニ本部ノ事務ハ圓轉滑行セラレテ停滯紛雜ノ患ナシ。

此ニ重ナル中央ノ諸部局ヲ舉クレハ、

大砲水雷局 局長ハ少將又ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ、大砲水雷ニ關スル事ヲ掌

リ、其事務ニ於テハ材料總監ヲ輔佐シ、海軍ノ砲術、水雷術、練習上ノ事ニ關シテハ「フォースト、ロード」ノ顧問タリ。

造船局 局長ハ文官トシ、兼ネテ材料副總監ニ任シ、造船ノ事ヲ掌ル、造船技術ニ長スル者ヨリ之ヲ舉ク。

機關局 局長ハ機關大監ヲ以テ之ニ補シ、機關ノ事ヲ掌ル。

艦廠局 局長ハ亦文官ヲ以テ之ニ補シ、造船技術官ヨリ之ヲ擧ク、艦廠ニ關スル事ヲ掌ル、其下ニ艦廠費計査課長ヲ置ク。

主計局 文官ヲ以テ局長ニ補シ、會計經理一切ノ事ヲ掌ル。

監督局 會計事務ヲ監督シ、出納金品檢査ノ事ヲ掌ル。

契約購買局 文官ヲ以テ局長ニ補シ、諸般契約購買ノ事ヲ掌ル。

給養局 局長ハ文官ヲ以テ之ニ補シ、需品供給ノ事ヲ掌ル、其下ニ需品計査課長ヲ置ク。

運輸局 局長ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ、海陸兩軍運輸ノ事ヲ掌ル。

衛生局 醫務、衛生ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル。

水路局 大佐ヲ以テ局長トシ、水路測量、海圖刊行ノ事ヲ掌ル。

土木局 陸軍工兵將官ヲ以テ之ニ補シ、土木一切ノ事ヲ掌ル。

牒報局 各國海軍ニ關スル牒報ノ事ヲ掌ル。

豫備兵司令部 司令長官ヲ置キ、海岸警備兵、王國豫備海兵、補給兵、義勇砲兵及豫備兵ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル。

海歩砲兵部 海歩砲兵ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル。

其他軍港ニ在ルモノ、外所屬官廳ヲ擧クレハ、

海軍大學校

觀象臺

綠林威廢兵院

デットフォート糧食本廠

海軍教育

英國ノ海軍教育ニ關シテハ高下大小各種ノ學校アリ。

海軍幼年學校 ハダーツマスニ在リ、練習艦ブリタニカヲ以テ之ニ充ツ、職務ニ死シタル將校其他ノ子弟ニシテ年齢十二以上十三半マテノ者ヨリ擇ミ教育スル所トス、學期ハ二箇年間ニシテ卒業シ、一箇年間航海ノ後、艦員トナリ、更ニ四箇年役務ニ服シ、其間三回ノ試験ヲ經少尉候補生ニ補ス、昨九十六年入學年齢及學期ヲ改正シ、入學年齢ハ十四歳マテトナリ、學期ハ十八箇月トナレリ。

若海兵學校 ハ左ノ四箇所ニ五校アリ、皆練習艦ヲ以テ之ニ充ツ、

フルマス……………練習艦「ガンジユ」

デヴォンポート……………練習艦「イムブレグチーブル」及「ライオン」

ポートランド……………練習艦「ボスケイウエン」

ホーツマス……………練習艦「セントヴェンセント」

若海兵ハ年齢十五以上十六半マテノ子弟ヨリ擇ミ、十八箇月間右定繋ノ練習艦上ニ於テ教育ス、而ル後チ航海練習艦ニ乗組マシメ實際教育ヲ爲ス、年齢十八ニ達スル時ハ海兵ニ補ス

幼年保護學校 綠林威ニ在リ、海員ノ子弟ニシテ年齢十一以上十四マテノ者一千名マテヲ限リ教育スル所トス

豫備海兵學校 ハ左ノ十箇所ニ在リ、練習艦十隻ヲ以テ之ニ充テ、豫定ノ期間毎年召集セラル、各種豫備海兵ヲ教育練習スル所トス、即チ

蘇忽蘭ノインヴァーネス……………練習艦「ブリ、ユント」

北シエルト……………練習艦「カストール」

蘇忽蘭ノアバーチーン……………練習艦「クライド」

プリストル……………練習艦「デラ、ス」

レイス……………練習艦「ダーハム」

リヴァプール……………練習艦「イーグル」

ハール……………練習艦「ニムプル」

倫敦近傍ノ西印度船渠……………練習艦「プレシデント」

ソーサムプトン河……………練習艦「トリンコメール」

蘇忽蘭ノダンヂー……………練習艦「ユニコルン」

王國大學校 ハ綠林威ニ在リ、海軍ニ關スル各部大學アリ、將校以上ニ高等ノ學術ヲ授クル所トス、練習艦「エキセラント」之ニ屬ス

海軍費

年 度	歳出經常總額	海軍經常費	百分比例
一八九一年度	八八、五二、九四三	一四、一五〇、〇〇〇	一五、九

一八九二年度	九〇、九二四、〇三六	一四、三〇二、〇〇〇	一五、七
一八九三年度	九一、〇六九、五六〇	一四、〇四八、〇〇〇	一五、四
一八九四年度	九二、〇五六、〇六八	一七、五四五、〇〇〇	一九、〇
一八九五年度	九四、五三八、六八五	一八、七〇一、〇〇〇	一九、七

海軍擴張并海軍費

英國海軍費ハ千八百三十五年ニ於テ四百萬磅ナリシニ、千八百七十五年ニハ千萬磅トナリ、一昨年度ニハ千八百七十萬一千磅トナリ、昨年度ノ豫算ニ於テハ俄ニ増シテ二千一百八十二萬三千磅トナレリ、昨年三月七日ノ陸海軍ガゼットニ據レハ其内譯左ノ如シ。

士官水兵若水兵海岸警備兵及王國豫備海軍總數	一八九六、七年度 九三、七五〇人	一八九五、六年度 八八、八五〇人
實務的經費	四、四一九、八〇〇	四、一三三、五〇〇
士官以下各海給料	一、三六九、六〇〇	一、三六七、一〇〇
員備海軍	四、四一九、八〇〇	四、一三三、五〇〇
同上衣食料	一、三六九、六〇〇	一、三六七、一〇〇
醫務部	一五六、二〇〇	一五一、四〇〇

法部	一〇、六〇〇	一〇、六〇〇
教育部	八一、三〇〇	七九、四〇〇
技術部	六三、三〇〇	六一、四〇〇
王國豫備海軍	二二九、八〇〇	二一五、六〇〇
造船修繕及維持費		
第一 人事費	二、二〇四、〇〇〇	一、八一〇、〇〇〇
第二 材料費	二、二五一、〇〇〇	二、六五五、〇〇〇
第三 請負工事費	五、三八六、〇〇〇	三、四一六、〇〇〇
軍器費	二、五四三、二〇〇	一、六九三、二〇〇
内外工事及建築費	六一八、四〇〇	五四七、〇〇〇
其他實務的經費	一八九、二〇〇	一七六、八〇〇
海軍本部	二二六、八〇〇	二二七、二〇〇
小計	一九、六五九、二〇〇	一六、五五四、二〇〇
非實務的經費		
半給豫備給非役給	七四九、〇〇〇	七六一、三〇〇
軍人恩給及年金等	一、〇三〇、一〇〇	一、〇〇七、九〇〇
文官同上	三二四、四〇〇	三一七、三〇〇
小計	二、一〇三、五〇〇	二、〇八六、五〇〇
濠洲艦隊費	六〇、三〇〇	六〇、三〇〇
總計	二二、八二三、〇〇〇	一八、七〇一、〇〇〇
前年度ニ比シテ増加		三、一二二、〇〇〇

海軍大臣ノ説明ニ由レハ、本年度ノ豫算案ハ前年度ニ比シテ三、一二二、零零零

磅、前々年度ニ比シテ四、四五六、九零零磅ノ増加ニシテ、前々年度ニ於テハ二十萬磅ノ追加豫算ヲ呈出セシモ、本年度ハ更ニ一百万磅ノ追加豫算ヲ要スヘシト云フ、本年度及明年度ニ於テ斯ノ如キ巨額ノ經費ヲ要スルハ造船事業ヲ取急クカ爲メ、之ニ伴フ諸般ノ施設ヲ要スルノ結果ナリトス、之ト同時ニ各造船廠ヲ擴張シ、其所員ヲ増シテ二萬三千三百五十人トナスモ、亦經費増加ノ一原因ナリトス、人事ニ至リテハ士官以下ノ海員ハ千八百九十五、六年ノ豫算ニ八萬八千八百五十人トアリシモ、本年度ニ於テハ之ニ四千九百人ヲ増加シ、合計九萬三千七百五十人トナスヘシ、即チ士官六十一人、下士三十人、准士官八人、水兵一千八百人、匠手三百四十二人、機關兵二千零二十八人、雜役百三十一人、王國豫備海軍五百人ノ増加ナリトス、新タニ起工スヘキ軍艦ハ戰闘艦五隻、一等巡洋艦四隻、二等巡洋艦三隻、三等巡洋艦六隻、水雷驅逐艦二十八隻ニシテ、此中水雷驅逐艦八隻ハ最急ヲ要スルニ由リ、直ニ起工ニ著手スヘシ、戰闘艦三隻、一等巡洋艦一隻、及三等巡洋艦一隻ハ海軍造船廠ニ於テ新造スヘキモ、其他ハ悉ク知名ノ造船者ト契約シテ請負工事トナシムヘシ、戰闘艦ノ形式ハ「レナウン」

ヲ改善シタルモノニシテ、長サ三百九十呎、幅七十四呎、排水量一萬二千九百噸ナリトス、之ヲ「マセスチック」ニ比スレハ、其及ハサルコト二千噸ニシテ、喫水線モ亦及ハサルコト二呎ナリ、但シ其貯炭量ハ「マセスチック」ト同一ニシテ、速力ハ遙ニ其上ニアリ、重ナル武器及装甲ハ大概「マセスチック」ニ同シ、一等二等三等ノ巡洋艦ハ夫「ダイアデン」タルボット及「ペロラス」ト同形ナリ、即チ海軍省ノ設計ニ由レハ本年度中官私ノ造船所ニ起工サルヘキ英國軍艦ハ左ノ如クナルヘシ、

一等戰闘艦	一三隻	一等巡洋艦	一〇隻
二等巡洋艦	一六隻	三等巡洋艦	七隻
水雷驅逐艦	四八隻		

本年度ノ新工事ハ「ポーツマス」ニ於テ鐵道棧橋ヲ改造スル事、「ポイラー」製造所ヲ設クル事、「デヴンポート」ニ於テ第二號船渠ヲ擴張スル事、機械製造所ヲ設クル事、「シャーネス」ニ於テ水雷學校ヲ新築スル事、喜望峰及モーリチアスニ船渠ヲ新設スル事、「ホールバオリン」及「ペンブロック」ノ兩船渠ヲ改善スル事、「ジブラルター」ニ於テ已ニ工事中ナル船渠ヲ擴張シテ長サ七百呎トナシ、必要ノ場合ニハ復

船渠タラシムル事、同所ニ於テ更ニ長サ五百呎及六百呎ノ二船渠ヲ設クル事、ケーハムノ海軍營所ヲ擴張スル事、チャタムニ一大海軍病院ヲ設クル事、ダルトマスニ海軍兵學校ヲ設クル事等其重ナルモノニシテ、之カ爲メ前ノ如キ巨額ノ費用ヲ要スルモノナリト云フ。

佛蘭西

海軍ノ地位

英國ニ亞キテ強大ノ海軍ヲ有スルモノヲ佛國トス、今マ現在、起工及計畫中ノモノヲ通シ、一切ノ艦船ヲ合スレハ、艦數五百八十三隻、其排水噸數八十四萬三千餘噸アリ、中ニ就キ其有力艦ノミヲ算スルモ、百九十三隻、七十二萬一千餘噸ニ達セリ。

夫レ艦隻噸數ヲ以テスレハ、佛國ノ英國ニ及ハサルヤ遠シト雖、英國ノ植民地ハ四方ニ散在シ、英國ノ商船ハ佛國ニ數倍ス、是ヲ以テ英國ハ其植民地及商船ヲ保護スルカ爲ニ、佛國ヨリモ多クノ分遣艦隊ヲ要シ、隨テ多ク其力ヲ分タサ

ルヲ得ス、是レ佛國カ半數ノ海軍ヲ以テ能ク英國ト對峙シ、英國ヲシテ寧ろ常ニ警戒ヲ怠ラサシムル所以ナリ。

現在、起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵戰闘艦	三一	二八八、九一四	最大 一、二二〇〇 最小 三、六二四
甲鐵巡洋艦	八	四七、六一五	最大 八、五〇〇 最小 四、七五〇
甲鐵海防艦	一七	一〇三、七七二	最大 九、〇〇〇 最小 二、五九二
甲鐵砲艦	八	一一、三三三	最大 一、七九〇 最小 一、〇四六
甲鐵艦合計	六四	四五〇、五三三	
巡洋艦	五九	二〇八、七二八	最大 八、五〇〇 最小 一、二〇〇
水雷巡洋艦	六	七、六二〇	最大 一、三一〇 最小 一、二四〇
報知艦	二一	一五、一九四	最大 一、二四三 最小 五、三六
水雷報知艦	一四	七、七八〇	最大 九、六〇 最小 三、九五

艦種	艦數	排水量	大小兩極
運送報知艦	一	二,三四九	最大 三二七 最小 一〇七
砲艦	四〇	四,一一〇	最大 二〇五 最小 二六
運送艦	一八	七,三,五七七	最大 五,七七五 最小 一,六〇〇
水雷報知艦	三一	三,七五	
練習艦	九	二,一五五	最大 六,〇〇〇 最小 二,三三
合計	三〇二	一七,〇三二	

注意 此内計畫中ノ航洋水雷艇十七隻全一等水雷艇二十五隻ト、哨水雷艇六隻ノ噸數未ク詳ナラス、故ニ實際噸數ハ大ニ上ル可シ。

其餘ノ現在

艦種	艦數	排水量	大小兩極
運送報知艦	一	一八,五二六	最大 一,六八二 最小 九九六
砲艦	二五	六,八九五	最大 六二七 最小 四五〇
水雷母艦	二	六,〇八〇	
非甲鐵艦合計	一二九	二七〇,八二三	
總計	一九三	七二一,三五六	

注意 以上ノ諸艦ノ内排水噸數未詳ノモノ、計畫中ノ甲鐵戰艦ニテ一隻非甲鐵砲艦ニテ一隻全水雷母艦ニテ一隻、都合三隻了レハ、其實噸數ハ尚小總計以上ニ在リ。

現在起工及計畫中水雷艇

艦種	艦數	排水量	大小兩極
航洋水雷艇	四〇	五,〇八四	最大 二四〇 最小 一〇三
一等水雷艇	七五	五,六〇三	最大 八五 最小 六六
二等水雷艇	八六	四,五二八	最大 五〇 最小 五〇

帆	四	七一	最大
帆		七	最小
合計	八八	一〇五、三〇二	四九〇 七一

注意 此内計畫中ノ砲艦七隻、水雷報知艦一隻、練習艦二隻、噸數未タ詳ナラス、暫ク之ヲ缺ク。

補助巡洋艦

佛國ニ於テ政府ノ補助金ヲ受ケ、戰時其郵船ヲ以テ補助巡洋艦ニ供ス可キ義務ヲ有スルモノハ「メサジューリ・マリチーム」會社即「エム・エ」「トランザトランチック」會社「フレシネー」會社及佛蘭西興產會社ト爲ス、就中前二社ハ之カ最タリ、今其船隻及噸數ヲ舉クレハ左ノ如シ明治二十年現在

「メサジューリ・マリチーム」會社 五六隻 二〇九、〇五五噸 一五七、九五〇匹馬力

「トランザトランチック」會社 六六隻 一七六、六一八噸 一七五、一五〇匹

其他航海獎勵法ニ由リテ獎勵金ヲ受クル船舶ハ戰時徵用セラル、ノ義務アリ、殊ニ海陸軍ノ指定シタル特別ノ設計ニ遵ヒ建造シタル船舶ニハ、法定獎勵金ニ二割五分ヲ増給セラル、此指定ニ由リ建造シタル船舶ノ噸數ハ約十八萬

餘噸ニ及ヘリ。

艦隊及分遣艦

佛國ハ七常備艦隊ヲ有シ、之ヲ各地ニ配置セリ、明治三十年一月一日佛國ノ諸艦隊及各地派遣艦ノ數ハ左ノ如シ。

西地中海及ルヴァン艦隊 本艦隊ハ専ラ地中海ニ備フ、海軍中將ヲ以テ司令長官ト爲シ、全少將二人ヲ以テ司令官トス、ツローン軍港ハ其根據地タリ、艦隊ノ現役艦ハ左ノ如シ。

戰闘艦 八隻 巡洋艦 六隻

水雷報知艦 二隻 水雷驅逐艦 六隻

航洋水雷艇 二隻

都合 二四隻

其他此艦隊ニ屬スル豫備艦隊ハ左ノ如シ。

戰闘艦 二隻 海防艦 二隻

巡洋艦 四隻 水雷報知艦 二隻

航洋水雷艇 二隻

都合 一二隻

即チ此十二隻ハ戰時一令ノ下ニ艤裝シテ本艦隊ニ加ハルモノナレハ本艦隊ノ總數ハ三十六隻ノ多キニ達セリ。

北部艦隊 英佛海峽ニ備フ海軍少將之カ司令長官タリ主トシテセルプール軍港ヲ以テ根據地トス。

戰闘艦 一隻

海防艦 三隻

巡洋艦 三隻

水雷報知艦 二隻

水雷驅逐艦 二隻

航洋水雷艇 二隻

都合 一三隻

更ニ各地ニ派遣セル分艦隊ヲ列擧スレハ左ノ如シ。

ルヴァン分艦隊 希臘土耳其埃及ニ備フ海軍少將之カ司令官タリ而シテ此分

艦隊ハ西地中海艦隊ニ屬ス故ニ此本艦隊ヲ西地中海及ルヴァン艦隊ト稱ス。

艦隻ハ本艦隊ニ合算ス故ニ再擧セス。

印度洋分艦隊 レユニオン、マダガスカル、紅海及印度海ニ備フ海軍大佐之カ

司令官タリ。

巡洋艦 二隻

砲艦 一隻

運送報知艦 一隻

都合 四艘

太平洋分艦隊 亞米利加西岸及ボリネジアニ備フ海軍大佐之カ司令官タリ。

巡洋艦 一隻

報知艦 一隻

都合 二隻

極東分艦隊 日本海支那海ニ備フ海軍少將ヲ以テ司令官トス第七編在東洋

ヲ參看ス可シ。

戰闘艦 一隻

巡洋艦 一隻

砲艦 二隻

都合 四隻

大西洋分艦隊 亞非利加西岸南亞米利加東岸及伯刺西爾ニ備フ海軍少將司

令官タリ

巡洋艦 二隻

報知艦 一隻

都合 三隻

飛航分艦隊 所擔ノ分區ヲ定メス各海ニ巡航ス故ニ此名アリ即チ高等戰術學校艦隊是ナリ

巡洋艦 三隻

其他小艦ヲ以テ組織セル艦隊並一二隻宛常派艦ノ分駐所トナレルモノニシテ現派分駐ニ繫ルハ左ノ如シ

東京 東京ノ沿岸ニ備フ海軍大佐ヲ以テ之カ司令官トシ極東分艦隊司令長官ニ隸ス

報知艦 一隻

砲艦 一隻

小砲艦 四隻

「ボントン」 一隻

都合 七隻

交趾 交趾ノ沿海ニ備フ海軍大佐司令官タリ亦極東分艦隊司令長官ノ管轄

ニ屬ス

砲艦 三隻

小砲艦 二隻

都合 五隻

北海 報知艦 一隻

「カッター」 一隻

君士丹丁堡 水雷報知艦 二隻

地中海隊備艦隊中ヨリ派遣セリ

亞爾塞 水雷報知艦 一隻

セネガル 報知艦 二隻

コンゴ 報知艦 一隻

チュニス 水雷驅逐艦 一隻

ギヤナ 報知艦 一隻

タイチ 運送報知艦 一隻

「ゴエレット」 一隻

新カレドニア 報知艦 一隻

ドンケルク 砲艦 一隻

ビダサオ 小砲艦 一隻

ダカル	「ボントン」	一隻
ベニン	小砲艦	一隻
西貢	「ボントン」	一隻
「スループ」		一隻
グラウンヴィール	水雷報知艦	一隻

其他臨時派遣ニ係ルモノハ特記セス。
又本國ニハ五軍港ノ警備艦練習艦、漁業監視砲艦、等若干ノ在役艦アリテ各地ニ配備セリ。

軍港及鎮守府

佛國ノ海岸海面ヲ別チテ五海軍區トシ、更ニ之ヲ分チテ十二區トシ、再タヒ之ヲ分チテ六十五分區トス。
各海軍區ニ一ノ軍港アリ、孰ニモ艦廠ノ設ケアリテ軍艦ヲ製造修理シ、兵器軍需ヲ準備供給シ、又海兵團アリテ兵卒ヲ徵集訓練ス、其他病院アリ、監獄アリ、學校アリ、練習艦アリ、皆之ニ屬ス。
今其五軍港ヲ列舉スレハ左ノ如シ、

ツローン

地中海ニ面シドラギョイニオン州ニ屬ス、艦廠ノ面積二百五十六、エークル、大船渠八、跌船架十一、船池大小五、其最大ナルハ六十九万平方尺、而シテ港内ニハ喫水十米突ノ船艦ヲ入ル役スル所ノ工人六千人、之ヲ五軍港中ノ最大トス。

プレスト

佛國ノ北西角フィニステール州ニ在リ、艦廠ノ面積百四十五、エークル、船渠四、工人六千人ヲ有ス。

セルブール

英佛海峡ニ突出セルマンシュ州ニ在リ、是レ五軍港中最近ノ開設ニ屬ス、海峡艦隊皆此ニ屯ス、艦廠ノ面積二百四十、エークル、大船渠七、船池二、工人四千三百、其大ツローンニ亞ク、
以上ヲ三大軍港トス、之ニ次クモノハ、

ロリヤン

大西洋ニ瀕シモルピアン州ニ屬ス、曩時印度會社ノ創開ニ係ル、港極メテ安

全ナルモ、甚タ大ナラス、艦廠ノ面積百二十「エーケル」、船渠二、工人四千ヲ役ス、
ロシヨフオール

太西洋ニ面シ、シアラント州ニ屬シ、海口ヨリ我七里半ノ上河中ニ在リ、艦廠面
積百四十「エーケル」、船渠三、工人三千ヲ役ス、

各海軍區ニ鎮守府アリ、軍港ニ之ヲ置ク、海軍中將ヲ以テ司令長官トシ、其位地
ハ艦隊司令長官ニ同シ、所轄軍區一切ノ軍務ヲ總理ス、

鎮守府司令長官ノ幕僚アリ、海軍少將相當官及全少將ヲ以テ參謀トナス、司令
長官以下ノ司令官諸部長ヲ舉クレハ、

陸上司令官 海軍少將ヲ以テ之ニ補ス、在港及所管海區ニ在ル將校以下諸
兵ヲ統率シ、艦廠、警察ヲ掌リ、并其治安ヲ維持シ、軍紀風紀ニ關スル事項、

教育ニ關スル事項、陸上防禦ノ事ヲ掌ル、

海上司令官 海軍少將若クハ全大佐ヲ以テ之ニ補ス、豫備艦及機裝中ノ艦
船ヲ管シ、軍港内ニ於ケル艦船ノ位置轉据ヲ知り、港内ノ規則ヲ維持スル
ヲ掌ル、

主計總監 會計ノ經理、軍需ノ準備供給、監獄、病院及海軍區ノ事務ヲ總掌ス、
造船部長 造船大監ヲ以テ之ニ補シ、造船一切ノ事ヲ監理ス、

兵器部長 技監ヲ以テ之ニ補シ、大砲、水雷、其他兵器ノ修理交換、彈藥ノ準備
供給ヲ掌ル、

建築部長 技監ヲ以テ之ニ補シ、海陸ニ於ケル土工建築ノ事ヲ掌ル、
水雷部長 海軍大佐ヲ以テ之ニ補シ、軍港ニ於ケル海底防禦ノ事ヲ掌ル、

此他鎮守府下ニ在ル軍政諸機關ヲ舉クレハ、

衛生會議 軍醫總監ヲ以テ之カ議長トシ、軍港及軍區内ノ衛生事務ヲ議定
シ、海軍病院ノ醫治ヲ掌ル、

監督部 監督長ヲ以テ部長ニ補シ、司令官ニ屬セスシテ事務及會計ノ監督
ヲ掌ル、

我鎮守府ノ制度多ク、德國ニ採レリ、明治二十六年海軍ノ改革ニ於テ、鎮守府
下ニ監督部ヲ置キ、海軍大臣ノ直轄トセシカ、如キ、長之ニ倣ヘルナリ、
以上皆各軍港ニ之ヲ置ク、其他軍港外ニ種々ノ工廠アリ、
ケリニ一鑄造所、ハ、鑄及鑄鎖ヲ鑄造ス、

ルエール造兵廠 ハ砲煩ヲ製造ス。

アンドレー製造所 ハ汽機及自動水雷ヲ製出ス。

各鎮守府所管ノ艦數ハ左ノ如シ。

ツーロン鎮守府所管 八〇隻

セルブール鎮守府所管 八〇隻

プレスト鎮守府所管 六〇隻

ロリヤン鎮守府所管 四〇隻

ロシニフォル鎮守府所管 二五隻

五海軍區ノ下ニ在ル十二小區ハ各其一區ヲ首港トシ、知港事一人ヲ置キ、港内ノ警備ヲ掌ル、又事務官一人ヲ置キ、所管小區ノ事務ヲ掌リ、所屬軍港ノ主計總監ニ隸ス。

十二小區ノ下ニ在ル六十五區ニハ、每區駐在官一人ヲ置キ、其海區ノ事務ヲ掌リ、所屬小區ノ事務官ニ隸ス。

海兵

佛國ノ海兵ニハ三種アリ、一ヲ海員編籍兵ト爲シ、二ヲ志願兵ト爲シ、三ヲ徵兵ト爲ス。

海員編籍兵ハ海岸ニ住居シ漁業ヲ營ム者、又ハ船乗ヲ業トスル者ハ海軍ノ兵籍ニ登録シ、之ヨリ採用ス、即チ以上ノ業ニ従事スル男子ハ之ヲ海員ト稱シ、海軍ノ兵籍ニ登録シ、十八歳ヨリ五十歳マテハ此兵籍ニ在ルモノトス、之ニ對シテ帶ハシムル義務ト、享ケシムル利益トハ左ノ如シ、

一海員籍ニ編入セラレタル間ハ海軍分區事務官ニ通告セスシテ漫ニ住地ヲ離レ、又ハ轉スルヲ得ス、而シテ年齢二十歳ニ達スル時ハ、召集シテ現役ニ就カシム、現役期限ハ五箇年トス、平時ハ實際四十八箇月ヲ役スルノミ、現役終レハ歸休シテ各自ノ海業ヲ營ムニ任スト、雖モ、五十歳ニ達スルマテハ、戰時必要ニ際シテハ之ヲ召集ス、但シ此場合ニハ臨時ノ布告ヲ以テスルモノトス、五十歳ヲ過クレハ復タ召集スルコト無シ、

一海員籍ニ編入セラレタル間ハ、一般ノ公役、就中陸軍徵兵ノ義務ヲ免セラレ、海軍現役ノ前後ニ於テハ、航業權ヲ許サレ、就役間ハ子女アル者ハ每一人一

日十「サンチーム」ノ扶助料ヲ享ク、二十五年間海業ニ従事シ五十歳ニ達スル時ハ、自身亦扶助料ヲ享ク。

之ヲ海軍ノ主兵トナス、其數十五萬乃至十八萬人アリ、其他

海員志願兵ハ志願者ヨリ採用スル者ニシテ所謂義勇兵ナル者ナリ。

徵兵ハ編籍兵ト志願兵トヲ以テ所要ノ兵員ヲ充實スルニ足ラサル時、陸軍徵

兵法ニ由リ陸軍兵ト同時ニ陸軍當該官ニ於テ徵集スル者トス、其服役期限ハ

陸軍ニ准シ、現役三箇年豫備役七箇年トス。

海軍人員

佛國現在ノ海軍人員ハ左ノ如シ

將校	大尉	七二〇	計	二〇二〇
中將	少尉	五二二	機關官	
少將	一等少尉候補生	一八三	機關總監	少將ニ次ク
大佐	二等少尉候補生	七五	機關大監	大佐相當
少佐	士官生徒	一五〇	機關少監	少佐相當

大機關士	大尉相當	二〇三	計	一八	軍醫補	二二
計		二二五	主計官	七	僧官	五二
技術官	技術總監 少將相當	一	主計大監 大佐相當	二七	艦上僧官	二二
造船大監	大少佐	一	主計少監 少佐相當	四九	港上新敷僧官	五
大技監	大少佐	四五	大主計 大尉相當	一七八	計	二七
技士	大少尉	六四	少主計 少尉相當	七七	海軍砲兵將校	
生徒	少尉候補生	一三	生徒 少尉候補生	一六	中將	一
計		一三五	計	三五四	少將	四
測量官	軍醫官		軍醫官		大佐	一四
測量大監	少將ニ次ク	一	軍醫總監 少將ニ次ク	六	中佐	一七
測量益	大少佐	八	軍醫大監 大佐相當	二〇	少佐	四九
測量士	大少尉	八	軍醫少監 少佐ニ次ク	五五	大尉	二二九
生徒	少尉候補生	一	軍醫 大少尉相當	四〇七	中少尉	一六一

少尉候補生	三四	少佐	三	技師補	一九七
計	五一九	大尉	五	計	三五二
海軍歩兵將校		中少尉	八	諸兵	
中將	四	計	一六	海兵	四二、二〇五
少將	七	監督官		若海兵	八一〇
大佐	一七	監督長	六	老兵(下士卒)	一、八二四
中佐	三五	監督	一四	海軍砲兵(下士卒)	五三八〇
少佐	一一六	監督補	一一	海軍歩兵(歐人下)	二、三、五〇二
大尉	四五〇	計	三二	全(土人下)	一八、二〇三
中尉	五八四	技師		海軍憲兵	五三四
少尉	一七九	副官	九一	計	九一、九二四
計	一、三九二	技師	六三	總計	九七、五一七
海軍憲兵將校					

右ノ内海軍砲歩兩兵ノ數各國ニ比シ過多ナル所以ノモノハ、一ニハ之ヲ用

井テ軍港ノ防備ニ充テ、二ニハ亞爾塞、チニス及東京ヲ除キ、其他ノ諸殖民地派遣ノ兵ハ海軍ヨリ出セルモノ多クレハナリ。

海軍省

佛國ノ海軍々政ハ海軍省之ヲ統フ、海軍省ハ從來海軍兼植民省タリシカ、明治ニシテ海軍大臣ハ海軍々政ヲ總統シ、所轄ノ部局ヲ監督ス、文官ニシテ内閣員タリ、然レトモ多ク海軍中將若クハ少將ヨリ之ヲ撰任ス。

本省ハ大臣官房ト四局ヨリ成レリ、即チ
 人員局 海軍少將ヲ以テ局長トシ、其任期ハ二箇年トス、海軍各部艦隊乗組、海歩砲兵等ノ人員ニ關スル諸項、被服及給養軍法會議、監獄、病院ニ關スル事ヲ掌ル。

材料局 技術官ヲ以テ局長トシ、艦船ノ製造、維持及修理、其他海防ニ關スル土木及船舶ノ事、並艦船ヘノ給養及船舶借上ニ關スル事ヲ掌ル。

砲煩局 明治二十三年ノ創設ニ係ル、砲煩供給ニ關スル事ヲ掌ル。
 主計局 之ヲ主計本局ト稱ス、主計總監ヲ以テ局長トシ、海軍豫算案ノ調製、會

計經理ニ關スル事ヲ掌ル。

此他中央ニ在ル重ナル諸部ヲ列舉スレハ、

參謀本部 海軍中將ヲ以テ部長トシ、海軍大臣ノ幕僚ニシテ、大臣官房長ヲ兼
ス、其下ニ海軍少將一人同大佐一人ヲ置ク、出師準備、軍艦製造案、兵器、機動、動
員、軍艦配置、牒報、沿岸防禦ニ關スル事ヲ掌ル。

監督本部 海軍中將三人、少將一人アリ、先任中將ヲ以テ本部長ト爲ス、海軍
行政ニ關スル事項ノ監督ヲ掌ル、本部ハ分チテ四部ト爲ス、

第一部 海員監督部

第二部 造船監督部

第三部 造兵監督部

第四部 建築監督部

先任中將ハ會議ニ議長タルノ外常務ナシ、其次ノ中將ハ動員、海軍兵、倉庫、
學校等陸上ニ在ル海軍ノ監督ニ任ス、又其次ノ中將ハ艦廠、軍港ヲ除キ海
軍ノ建造物、豫備艦、裝艦、練習艦等海上ニ在ル海軍ノ監督ニ任ス、但シ艦隊

ノ監督ハ此以外トス、次ニ少將ハ水雷、沿岸防禦、要港、植民地海軍ノ監督ニ
任ス、

又中央ニ在ル重ナル會議ハ、

高等會議 海軍大臣一人、艦隊大將二人、鎮守府司令長官中將五人、參謀本部長
一人、並以上ノ前任將官若干人、都合十五人ヲ以テ議員トシ、大臣之カ議長タ
リ、大臣ハ必要ニ應ジ其他ヲシテ列席セシム、會議ハ主トシテ海軍擴張、全改
正、大機動ノ事ヲ審議スルモノトス、

建築會議 艦隊將校七人、造船技術官四人、海砲兵將校三人、陸軍砲兵將官一人、
海軍建築及機關官四人、都合十九人ヲ以テ議員トシ、海軍重要ノ工事ヲ審議
スルモノトス、

尙ホ中央ニ常設ノ廳衙ヲ舉クレハ、

給養品検査委員會

購買契約委員會

機關大兵器委員會

高等難破審檢會議
 捕獲審檢會議
 高等衛生會議
 水路部
 建築費検査部
 痲病院

海軍教育

佛國ノ海軍學校中其重ナルモノヲ舉クレハ海上學校二航海學校四陸上學校
 八アリ即チ
 若海兵學校 プレスト軍港ニ在リ舊艦オーステルリツツヲ以テ校舍ニ充ツ軍
 艦「フオントノイ」ヲ以テ之ニ代ヘントス良海兵ノ子弟ヲ十三歳ヨリ採用ス
 海軍兵學校 亦プレスト軍港ニ在リ練習艦「ボルダ」ヲ以テ校舍トシ年齢十六
 以上十八マテノ子弟ヲ試験採用ス修學期限ハ二箇年トス練習艦「ブーゲン
 ヴァール」ハ本校ニ屬シ英佛海峽及北海ニ於テ實地練習ノ用ニ備フ卒業ノ後

チ二等候補生ニ補ス

候補生練習學校 亦プレストニ在リ練習艦「イフイゼニ」ヲ以テ之ニ充ツ北太
 西洋若クハ地中海ニ於テ十箇月ノ練習ヲ經テ一等候補生ニ補ス

砲術及運轉術練習學校 ツーロン軍港附近「イエール島」ニ在リ練習艦「クロー
 ンヌ」及附屬練習艦「センプルイ」ヲ以テ之ニ充ツ

水雷術學校 亦「イエール島」ニ在リ練習艦「アルセジラ」ヲ以テ之ニ充ツ
 以上三校 將校下士卒ノ練習所トス

水先學校 セルブール軍港ニ在リ練習艦「エラン」ヲ以テ之ニ充テ主トシテ佛
 國ノ沿海西班牙ノ境海及北海ノ水路ヲ講習ス

造船術學校 「巴里」ニ置ク諸藝學校出身ノ者ヲ生徒トス其學期二箇年トス
 機關學校 ツーロン軍港ニ之ヲ置ク

准士官學校

軍醫學校 「ボルドー」ニ之ヲ置ク附屬學校アリ藥劑官ヲ養成ス

主計學校 「プレスト」軍港ニ之ヲ置ク

銃隊教導學校 ロリヤン軍港ニ在リ。
 水路學校 商船ノ士官以下ヲモ併セ教フル所トス。
 此他最近設立ノ海軍大學校アリ、明治二十八年十二月二十七日ノ勅令ニ由リテ成ル所ナリ之ヲ
 海軍高等學校 ト爲ス、巴里ニ之ヲ置キ、壯年ノ將校ヲ以テ生徒トシ、六箇月乃至八箇月間陸上ニ在リテ海軍主要ノ學理及國際公法ヲ研究シ、次キテ艦隊ニ乗組マシメ、數月間實地ニ戰術戰畧等ヲ講習セシム、其艦隊ハ三隻ヨリ成リ、飛航艦隊ト稱シ、海軍少將司令長官タリ。

海軍費

年 度	歲出經常總額	海軍經常費	百分比例
一八九二年度	三、二一七、八二五、五二五	二、二一九、〇三、四一四	六、五
一八九三年度	三、三四七、六九一、四八八	二、二四三、九五、〇〇〇	六、七
一八九四年度	三、四三九、〇二〇、六二三	二、六六、八六一、五二八	七、七
一八九五年度	三、四二三、八九三、七六二	二、七七、五一六、三三一	八、〇
一八九六年度	三、四四七、九一八、一九八	二、七二、六一四、八九六	七、九

露西亞

海軍ノ地位

今ヨリ三十年前ニ溯上スレハ、當時ノ露國ハ浮砲臺艦モニトールノ類數隻ヲ以テ組織セシ防禦海軍ヲ有シタルニ過キサリキ、而シテ其銳意擴張ニ從事シタルハ、千八百七十年^{明治三年}普佛ノ交戰ニ乗シ、嘗テ巴里條約^{千八百五十六年}ニ由リテ制限セラレタル黑海艦隊建立ノ禁停ヲ破棄シタル以來トス、而シテ今日ハ現在、起工及計畫中ノ一切艦船ヲ合算スレハ、四百四十六隻、五十六萬六千餘噸ヲ有シ、中ニ就キ三百八十噸以上ノ有力艦ノミヲ舉數スルモ、百五十隻、五十萬六千餘噸ニ達シ、英佛ニ次キテ優力ナル海軍國トハナレリ。
 彼ハ既ニ斯クノ如キ優力ノ大海軍國トナリシニ干ハラズ、挽近益之カ擴大ニ勉メ、露帝ハ昨九十六年度^{明治二十年}ヨリ向七箇年海軍費ニ年々二百萬法以下ヲ遞加シ、第七年ニ至レハ現在海軍費ヨリ一千百萬法ノ増額ヲ與フ可キ旨ヲ勅定セリ、而シテ臨時ノ皇張ハ固ヨリ此外トス、露國ノ意傾亦以テ觀ス可シ。

現在起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵戰闘艦	一七	一六三、三二一	最大 一三、〇〇〇 最小 六、五九〇
甲鐵海防艦	一二	四三、一六七	最大 四、一二五 最小 二、四九〇
甲鐵「モニター」	一二	一八、七二六	最大 二、〇二六 最小 一、四〇七
甲鐵巡洋艦	一二	九五、五九五	最大 一四、〇〇〇 最小 四、六〇二
甲鐵砲艦	四	五、九八四	最大 一、五〇〇 最小 一、四九二
甲鐵艦合計	五八	三二六、七九三	
巡洋艦	一五	三三、三五八	最大 五、〇三〇 最小 一、二三四
水雷巡洋艦	三八	三、七一〇	最大 六一〇 最小 五〇〇
補助巡洋艦	一三	一一三、八九二	最大 一〇、五〇〇 最小 二、五〇〇
補助巡洋艦	二四	七、三三五	最大 二、三七〇 最小 六一五
砲艦	二〇	一五、二〇〇	最大 一、二二四 最小 三八〇

現在起工及計畫中水雷艇

報知艦	水雷母艦	非甲鐵艦合計	總計
二	二	九三	一五〇
四、八四〇	二、七二〇	一八〇、〇五五	五〇六、八四八
最大 三、九二〇 最小 九二〇	各		

艇種	艇數	排水量	大小兩極
航洋水雷艇	九五	一〇、七六三	最大 一七〇 最小 五八
防禦水雷艇	一〇三	二、八二六	最大 二八 最小 二三
二等水雷艇	一〇	二四〇	各
合計	二二六	一三、八二九	

注意 甲鐵戰艦一隻、巡洋艦三隻、水雷巡洋艦三隻、砲艦一隻ノ噸數未詳ニ屬ス、故ニ實際噸數ハ是ヨリ上ルヘシ。

注意 航洋水雷艇ニテ計畫及製造中噸數未詳ノモノ十四隻、二等水雷艇

ニテ全ク四隻都合十九隻アレハ、實際噸數ハ此合計以上ニ在リ、其餘ノ現在艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
砲艦	二	四四九 <small>噸</small>	小大
運送艦	一四	九〇九八	最小最大
「ヤツト」	八	一九、二一三	最小最大
練習艦	四	六、七二〇	最小最大
使役艦	二一	八、二〇七	最小最大
汽艦	四	一、七七五	最小最大
合計	七〇	四五、四六二	

注意 此内噸數未詳ノモノ使役艦ニ八隻、運送艦ニ九隻ノ多キアリ、故ニ實際ハ合計以上ニ上ルモノト知ル可シ

補助巡洋艦

露國ニハ又補助巡洋艦ノ組織アリ、其一ハ義勇艦隊ニシテ、其二ハ黑海濱船航

海會社ナリ

義勇艦隊ハ元ト有志者ノ義鬻金ヲ以テ起リ、兵商兼用ノ目的ヲ有スルモノニシテ、政府隨テ之ニ補助金ヲ與フ、平時ハ黑海沿海ト太平洋沿海トノ間并太平洋沿海ノ露領諸港ト日本朝鮮支那間ノ郵船タラシメ、戰時ハ海軍ノ指揮ニ屬シ、敵ノ商船ヲ捕拿シ、貿易ヲ妨碍シ、又運送ノ用ニ充ツ、其現在艦數ハ十三隻ニシテ、起工及計畫中ニ係ルモノ亦數隻アリト云フ

黑海濱船航海會社ハクリミヤ戰争ノ後チ創立セラレタルモノニシテ、年々政府ヨリ一定ノ補助金ヲ授ケ、平時ハ貨客ノ運送ニ從事セシメ、戰時ハ用井テ海軍ノ補助巡洋艦ト爲ス、其艦數六隻アリ

艦種	艦數	排水量	大小兩極
巡洋艦 <small>義勇艦隊附屬</small>	一三	一一三、八五二 <small>噸</small>	最小最大
巡洋艦 <small>黑海濱船航海會社所屬</small>	二四	七、三三五	最小最大
合計	一九	一一一、一八七	

注意 義勇隊計畫及起工中ノ巡洋艦ノ其長大艦タルヤ言ヲ待マス、而シテ黒海海濱船航海會社ノ補助艦中ニ隻モ亦噸數未詳ナレハ、合計ハ實際此以上ニ達ス可シ。

艦籍

露國ノ軍艦ハ概ネ左ノ四艦籍ニ分屬ス。

バルチック艦籍

露國軍艦ノ多數ハ此艦籍ニ屬ス、其艦數ハ左ノ如シ、

戰 闘 艦	一〇隻	海 防 艦	一〇隻
「モニトール」	一二隻	巡 洋 艦	一二隻
砲 艦	三隻	(以上甲鐵艦)	四四隻
巡 洋 艦	一二隻	水雷巡洋艦	七隻
砲 艦	一一隻	航洋水雷艇	七三隻
防禦水雷艇	九〇隻	二等水雷艇	四隻
運 送 艦	六隻	「ヤツト」	七隻
練習艦	三隻	使 役 艦	二一隻

(以上非甲鐵艦 二二九隻)

都 合 二七二隻

黒海艦籍 是レ黒海方面ニ浮ヘルモノニシテ、バルチック艦籍ニ次キテ大ナルモノナリ。

戰 闘 艦	九隻	海 防 艦	二隻
(以上甲鐵艦)	一一隻	巡 洋 艦	四隻
水雷巡洋艦	四隻	補助巡洋艦 <small>義勇隊所屬</small>	二二隻
補助巡洋艦 <small>海濱船航海會社所屬</small>	六隻	砲 艦	八隻
報 知 艦	二隻	航洋水雷艇	二六隻
防禦水雷艇	七隻	水雷母艦	二隻
運 送 艦	七隻	「ヤツト」	一隻
使 役 艦	三隻	(以上非甲鐵艦)	九二隻
都 合	一〇三隻		
裏海小艦籍		裏海沿岸ノ警備ニ充ツ、其艦數ハ左ノ如シ、	
砲 艦	二隻	使 役 艦	二隻

運送艦	八隻	汽艦	四隻
都合	一六隻		
西伯利小艦籍 西伯利ノ東岸ニ備フ其艦數ハ左ノ如シ、			
砲艦	一隻	航洋水雷艇	七隻
防禦水雷艇	六隻	運送艦	一隻
使役艦	二隻	曳船	一隻
都合	一八隻		
艦隊			

以上ノ艦籍ヨリ抜キテ左ノ重ナル四艦隊ヲ編制シ以テ四方面ニ備フ就中バルチック艦隊太平洋艦隊地中海艦隊ハ皆バルチック艦籍ヨリ抜キタルモノナリ、

砲艦	三隻	海防艦	四隻
砲艦	一隻	水雷巡洋艦	二隻
汽艦	一隻	水雷艇	一〇隻

都合 一一隻

太平洋艦隊 日清交戦以來大ニ其威力ヲ増シ其艦隊ハ左ノ十六隻ヨリ成リ、

海軍少將ヲ以テ之カ司令トス、			
戦闘艦	一隻	巡洋艦	七隻
砲艦	五隻	水雷巡洋艦	二隻
運送艦	一隻	都合	一六隻

地中海艦隊 左ノ三隻ヨリ成リ海軍少將之ヲ率ユ、

戦闘艦	一隻	砲艦	二隻
都合	三隻		

黒海艦隊 左ノ三十隻ヨリ成レリ、

戦闘艦	六隻	巡洋艦	一隻
水雷巡洋艦	三隻	水雷艇	一九隻
運送艦	一隻	都合	三〇隻

以上明治二十九年ノ現在ニシテメッサセード、クロンスタットノ所報ニ據ル、此他西比利亞小艦籍ノ諸艦ハ太平洋艦隊司令長官ノ指揮ニ屬シ、裏海小艦籍

ノ諸艦ハ全海警備ノ一小艦隊トシ視ルヲ得可シ。
又バルチック艦籍ノ軍艦三隻、汽船七隻ヲ以テ税關小艦隊ナルモノヲ編制シ、海軍大佐之ヲ率井、平時ハ大藏省ニ隸シ、脱稅密貿易ノ警察ニ任シ、戰時ハ海軍ノ指揮ニ委ス。

又全艦籍ノ軍艦ヨリ練習艦隊ナルモノヲ編シ、海軍少將之ヲ率井、毎年五月ヨリ十月ニ至ルマテヲ練習期限トシ、近海ヲ航行シ、海兵ノ練習ニ充ツ。
又砲術練習艦隊ナルモノアリ、明治二十一年ノ創設ニ繫リ、海防艦二隻、モニター二隻、砲艦一隻ヲ以テ編制シ、以テ砲術ノ練習ニ充ツ。

軍港及鎮守府

露國ノ軍港ハ分チテ一等及二等トス、其一等軍港ハ左ノ如シ。
クロンスタット　バルチック海奥ノ芬蘭灣底ニ在リ、露國最第一ノ軍港ニシテバルチック大艦隊ノ根據地ナリ、造船廠及造兵廠アリ之ニ屬ス。
聖彼得堡　亦バルチック海奥芬蘭灣底ニシテ、露京ノ在ル所ナリ、造船廠及ヒ機關工廠アリ。

ニコライエフ　黒海ノ北濱、ブグ河口ニ在リ、黒海艦隊ノ第一根據地トス、亦艦廠アリ。

セバストポール　黒海ニ突出セルクリミヤ半島ノ南西ニ在リ。

浦潮斯德　西伯利東部ノ沿海州ニ在リ、明治四年ニコライスク軍港ヲ此ニ移ス、西伯利小艦隊、太平洋分艦隊及義勇艦隊ノ根據地タリ、浮船渠五アリ、艦船ノ修理ニ充ツ。

其二等軍港ノ在ル所ハ左ノ如シ、

スヴェヤボルグ　バルチック海ノ芬蘭灣北邊ニ在リ。

レヴェル　芬蘭灣ノ南濱、スヴェヤボルグノ北岸ニ在リ。

パツーム　黒海ノ東濱、トランスコーカス州ニ在リ。

アルカンゲル　白海ノ南東濱、ツブナ河口ニ在リ。

ニコライスク　西伯利東部、黒龍江口ニ在リ。

バク　裏海ノ西濱、バク半島ノ端ニ在リ。

カミラ　オクシヨースニ在リ。

以上ノ外ニ造船及造兵廠アルノ地ハ、
アストラカン造船廠 ヴォルガ河ノ裏海ニ朝宗スル河口ニ在リ。
オブニコフ造兵廠ハ 露國隨一ノ兵器製場ナリ、職工三千ヲ役ス、海軍少將之
カ長官タリ。

クプリン造水雷廠 聖彼得堡ニ在リ。

一等軍港所在ノ地ニハ鎮守府ヲ置ク、海軍中將ヲ以テ司令長官ニ補シ、其軍港
ニ於ケル艦船人員及諸官廨ヲ統轄シ、發著軍艦ヲ點檢シ、軍港ノ軍政ヲ監督シ、
軍紀風紀ヲ維持スルヲ掌ル。

鎮守府司令長官ノ統督ニ屬スル諸部ハ左ノ如シ、

參謀部 海軍少將ヲ以テ參謀長トシ、全大尉ヲ副官トス、之ヲ司令長官ノ幕僚
トス。

軍港部 海軍少將ヲ以テ司令官トシ、其下ニ海軍佐官數人ヲ置ク(軍港ニ由リ
陸軍佐官ヲ交ユ)。

砲兵部 水雷部ヲ兼ス、砲兵大佐一人、海軍少佐一人ヲ置キ、之ヲ分管ス。

水路部 水路技監ヲ以テ部長トス。

造船部 造船技監ヲ以テ部長トシ、其下ニ全技士數人ヲ置ク。

衛生部 衛生監督ヲ以テ部長トス。

主計部 主計監ヲ以テ部長トス。

此他軍港ニ由リ防工部、作戰會議、海兵團等ヲ置クモノアリ。

二等軍港ニハ軍港司令長官ヲ置カス、軍港司令官之ヲ統フ、其設備ハ一等軍港
ノ幾分ヲ存ス。

海兵

露國ノ海兵ハ徵兵及志願兵ノ兩種ヨリ採用ス、其徵兵ハ全法ニ由リ年齡二十
ニ達スル者ヨリ採用ス、服役期限ハ現役七箇年、豫備役八箇年、都合十五箇年ト
ス、其中現役ヲ終リ再役ヲ志願スル者ハ隨意ノ期限間之ヲ許シ、其志願年限ノ
長短ニ隨ヒ若干ノ増給ヲ與ヘ、且ツ山形ノ腕章ヲ附シテ之ヲ特標ス。

志願兵ハ現役二箇年、豫備役五箇年、都合七箇年トス、現役中試験ヲ受ケ及第シ
タル者ハ下士官トス、又滿期ノ際ハ一般ニ試験シ、及第者ハ士官試補ニ陞セ豫

總務局 海軍一般ノ軍政ニ關スル事ヲ掌リ、海軍大將ヲ以テ局長トス。
 本部會議 海軍重要ノ政令ヲ議定スル事ヲ掌ル、元帥ヲ以テ議長トシ、大臣ヲ以テ副議長トス、海軍大將三人、中將六人、參議官一人ノ勅選議員ヲ以テ之ヲ構成ス。
 作戰會議 海軍作戰ノ事ヲ議決スルヲ掌ル、海軍大將ヲ以テ議長トシ、全大將一人、中將二人、陸軍中將一人ヲ以テ議員トス。
 參謀局 軍艦ノ進退、規律、將校士卒ニ關スル事ヲ掌ル、海軍中將ヲ以テ參謀長トシ、全少將ヲ次長トス。
 學術委員局 海軍ノ學術ニ關スル調査ヲ掌ル、海軍大將ヲ以テ議長トシ、陸軍中將二人、參議官一人、陸軍少將二人ヲ議員トス。
 水路局 水路圖誌、燈臺ニ關スル事ヲ掌ル、海軍中將ヲ以テ局長トシ、陸軍少將ヲ次長トス。
 軍需局 糧食給養ノ事ヲ掌ル、海軍中將ヲ以テ局長トシ、陸軍中將ヲ次長トス。
 技術委員局 海軍技術上ノ調査ヲ掌ル、海軍中將ヲ以テ議長トシ、其下ニ造船、

造兵、水雷、海防工事等ノ諸部ヲ置キ、其事務ヲ分掌セシム。
 建築委員局 砲臺其他土木建築ノ事ヲ掌ル、陸軍中將ヲ以テ議長トシ、全中將一人、全少將三人ヲ議員トス、其下ニ全大佐書記官一人ヲ置ク。
 大臣官房 書類ノ審査、豫算案ノ調製等ニ關スル事項ヲ掌ル、海軍中將ヲ以テ官房長ト爲ス。

軍法會議局 海軍裁判ノ事ヲ掌ル、海軍大將ヲ以テ議長トス。
 衛生局 海軍一般ニ關スル衛生ノ事ヲ掌ル、軍醫監ヲ以テ局長トス。
 記録局 書類ノ保存ヲ掌ル、參議官ヲ以テ局長トス。

海軍教育

露國ノ海軍教育ニ關シテハ數種ノ學校アリ、
 海軍兵學校 ハ聖彼得堡ニ在リ、將校ヲ養成スル所トス、其生徒ハ貴族、海軍將校及官吏ノ子弟、中年齡十四乃至十八マテノ者ヨリ擇取ス、其學期ハ四箇年トシ、毎年夏期三箇月間ハ練習艦隊ヲ臨時組織シ、生徒ヲシテ之ニ乗組マシメ、實地練習ヲ爲ス、卒業出校スレハ二等候補生ニ補ス、艦隊ノ部ヲシ、生徒ノ數

ハ約二百四十人

航海術及砲術學校 ハクロンスタットニ在リ、砲術士官及海員子弟ヲ教育スル所トス、生徒ハ年齢十三乃至十七マテノ者ヨリ採用ス、其學期ハ亦四箇年トス、毎年夏期ニハ砲術練習艦隊ヲ臨時組織シ、實地練習ヲ行フ、艦隊ノ部ヲ生徒ノ數ハ約百四十人

造船術學校 舊ト聖彼得堡ニ在リ、近年クロンスタットニ移ス、造船技官ノ試補ヲ養成スル所トス、年齢十五乃至十八マテノ者ヨリ採用ス、學期亦四箇年トス、生徒ノ數約八十人

海軍大學校 海軍大尉及少尉ニ戰術及國際公法ヲ教授スル所トス、水雷術學校 モ亦クロンスタットニ在リ、少尉以上ノ士官生徒ニ教授スル所ナリ、其學期ハ二箇年トス、同種ノ學校ハ聖彼得堡及オデッサニモ亦之ヲ置ク、但シ士官以外ノ者ニ教授スル所トス

海軍費

年 度	歲出經常總額	海軍經常費	百分比例
-----	--------	-------	------

一八九二年度	九一、六六八、〇六六	四七、八八二、二三三	五二
一八九三年度	九四七、六九〇、三八五	四九、八九二、八〇三	五二
一八九四年度	九八一、二二二、九五〇	五一、二三一、三九三	五一
一八九五年度	一、二〇〇、九四、九三八	五四、九二三、五〇九	四九
一八九六年度	一、二一九、〇八八、四一四	五七、九六六、〇〇〇	四七

伊太利

海軍ノ地位

ナポレオン一世ノ言ニ曰ク「伊太利ニシテ異日一統ニ歸センカ、強大ノ海軍國ト爲ルニ非サル以上ハ、其國ハ永存スルヲ得サル可シ」ト、蓋シ一世ノ炯眼夙ニ半島ノ形勢地位ヲ看破スル所アリテ云フコト爾リシナリ、一統後ノ王國政府ハ豈此ニ鑑ミル所アリシカ、其第一著手ノ業ハ實ニ海軍擴張ニ在リキ、則チ其擴張ニ熱心ナル千八百六十一年ヨリ全六十六年ニ至ル僅々六年間ニ二等國ヨリ一躍シテ強大國ノ列ニ入レリ、爾後千八百七十三年明治ニ至リ更ニ

壯大ノ擴張策ヲ決シ、終ニ今日ノ如キ強大ノ海軍ヲ有スルニハ至レリ、但タ其國一統復古ノ後チ國富未タ大ニ發達セサルニ當リ、俄ニ大軍備ヲ建テタルノ結果ハ、頗ル國家財政ノ困難ヲ招致セシ、是ヲ以テ近三箇年間ノ歲計豫算ニ於テ每回海軍費ニ多少ノ節減ヲ加フルヲ見ル、然レトモ尙ホ其間ニ在リテ有力ナル艦船ノ起工及計畫ニ怠ラス、現ニ其挾持スル所ハ起工計畫一切ノモノヲ合シ、三百三十餘隻、四十萬五千八百餘噸ヲ算シ、四百噸以上ノ有力艦ノミヲ以テスルモ九十六隻、三十六萬八千七百餘噸ニ上レリ。

現在、起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵戰鬪艦	一六	一七五、八四一 <small>最大</small>	一五、三二〇 <small>最小</small>
甲鐵「フレガット」	四	一七、二一五 <small>最大</small>	四、四六〇 <small>最小</small>
甲鐵巡洋艦	五	二七、〇〇〇 <small>各</small>	四、二三四 <small>最小</small>
甲鐵衝角艦	一	四、〇六二	七、〇〇〇 <small>最大</small>

甲鐵「コルヴェット」	甲鐵艦合計	水雷衝角艦	「コルヴェット」	水雷巡洋艦	補助巡洋及報知艦	報知艦	砲艦	「ゴエレット」	水雷母艦	非甲鐵艦合計	總計
二	二八	一七	四	一七	八	七	三	三	一	六八	九六
五、五一四 <small>最大</small>	二二九、六三二	五、四〇九 <small>最大</small>	一、二八五 <small>最大</small>	一、一九八 <small>最大</small>	三、五七二 <small>最大</small>	七、七四八 <small>最大</small>	七、〇二一 <small>最大</small>	一、六二九 <small>最大</small>	九、二〇七 <small>最大</small>	一、三九〇、六九 <small>最大</small>	三、六八、七〇一 <small>最大</small>
二、八五四 <small>最小</small>	四、六〇〇 <small>最小</small>	二、二〇〇 <small>最小</small>	三、〇六〇 <small>最小</small>	二、六七五 <small>最小</small>	一、三一一 <small>最小</small>	八、一四 <small>最小</small>	七、六〇〇 <small>最小</small>	一、四四二 <small>最小</small>	一、八一〇 <small>最小</small>	一、〇四二 <small>最小</small>	五、三三 <small>最小</small>

注意 計畫中ノ甲鐵戰鬪艦一隻、甲鐵巡洋艦一隻、砲艦三隻ハ噸數未詳ナレハ、實際ハ總計以上ニ在ラン。

現在、起工及計畫中水雷艦艇

艦種	艦數	排水量	大小兩極
報知水雷艦	二	七五四 ^噸	各
一等水雷艇	一二	一、五八〇	最大 最小
二等航洋水雷艇	九四	八、〇四五	最大 最小
三等水雷艇	一六	一、三〇二	最大 最小
四等水雷艇	三八	一、三〇二	最大 最小
哨水雷艇	二一	三三七	最大 最小
海底雷氣水雷艇	〇	一七六	最大 最小
合計	二〇八	一、二、一八四	

注意 此内一等水雷艇ニテ一隻、二等水雷艇ニテ十六隻、全三等水雷艇ニテ四隻、四等水雷艇ニテ若干隻、海底雷氣水雷艇ニテ五隻ノ噸數未詳ナレハ、實際ノ噸數ハ適ニ合計以上ニ在リト知ル可シ。

其餘ノ現在艦

補助巡洋艦

注意 此内測量艦一隻噸數未詳

艦種	艦數	排水量	大小兩極
砲艦	二	五、一六四	最大 最小
「ゴレット」	七	一、六四七	最大 最小
運送艦	六	八、〇七五	最大 最小
瀛艦	四	六七一	最大 最小
測量艦	二	二、九七〇	
練習艦	六	二〇、五五六	最大 最小
河砲艦	六	五二八	
合計	三三	三四、九四三	

補助巡洋艦ハ海軍々艦ノ外商船會社ノ所有船舶中軍艦ノ補助タラシムヘキモノヲ撰ミテ組織スルモノニシテ補助巡洋艦ト稱ス、政府ハ會社ニ對シテ相當ノ助成金ヲ與フ、現在ノ補助巡洋艦ハ八隻、内四隻ハ「ウエロセ」會社ニ屬シ、他ノ

四隻ハ「ナヴィガシヨネ、ゼネラレ、イタリアナ」會社ニ屬ス、即チ

艦種	艦數	排水量	大小兩極
巡洋艦并報知艦	八隻	三一、五七二噸	最大 七六〇噸 最小 一〇四二噸

艦隊

伊國ニハ左ノ艦隊ヲ置ク、

常備艦隊 中ニ二分艦隊ヲ置キ、中將之ヲ統フ、

第一分艦隊 軍艦七隻、水雷艇四隻ヲ以テ之ヲ編制ス、

第二分艦隊 軍艦六隻、水雷艇四隻ヲ以テ之ヲ編制ス、

ルヴァン分艦隊 軍艦六隻、水雷艇四隻ヲ以テ之ヲ編制ス、

北米分艦隊 軍艦三隻ヲ以テ之ヲ編制ス、

此他報知艦四隻ヲ編シ海岸ノ警備ニ充ツ、

軍港及鎮守府

伊國ノ海岸海面ヲ分チテ三海軍區トシ、每區ニ一ノ軍港アリ、

第一、スベシヤ海軍區 佛蘭西國境ヨリテラシームニ至ル、サルヂニヤ、ゴルゴ

ーム島、ジヤストローム島、其他此間ノ島嶼ハ皆之ニ屬ス、スベシヤ軍港ハゼーム州ニ在リ、艦廠アリ、水雷工場アリ、又大砲發射試驗場アリ、

第二、ナーブル海軍區 テラシームヨリセント、マリー岬ニ至ル、シ、リヤ及附近ノ諸島ハ皆之ニ屬ス、ナーブル軍港ハ全名州ニ在リ、艦廠ハ附近ノカステラマールニ在リ、此港ハ港口廣濶防禦ニ不便ナルヲ以テ、將ニタラントニ移ラントス、

タラントハ長靴ノ直底、同名灣奥ニ在リ、明治十五年ノ法律ヲ以テ立テ、軍港ト定メ、軍港ノ建造ニ著手シ、今ヤ殆ト竣功ニ至レリ、其面積三千八百エクタール、

第三、ヴニース海軍區 ルーカ岬ヨリ換地利國境ニ至ル、アドリヤチック海沿岸地方ハ之ニ屬ス、ヴニース軍港ハアドリヤチック海奥ニ在リテ古來有名ノ一港ナリ、此ニモ亦艦廠アリ、

各海軍區ニ鎮守府アリ、軍港ニ之ヲ置ク、海軍中將ヲ以テ司令、長官トシ、所轄一切ノ軍務ヲ總理ス、

鎮守府司令長官ノ幕僚アリ、海軍大佐ヲ以テ參謀長トナス、長官ノ部下ニ屬スル諸官長ヲ舉クレハ、

艦廠長官 海軍少將ヲ以テ之ニ補ス、艦廠一切ノ事務ヲ掌ル、而シテ艦廠ニハ左ノ諸部アリ、

造船部長 大技監ヲ以テ之ニ補ス、造船修理ノ事ヲ掌ル、

機裝部長 海軍大佐ヲ以テ之ニ補シ、艦船機裝ノ事ヲ掌リ、兼ネテ豫備艦ヲ管理ス、

兵器部長 海軍大佐ヲ以テ之ニ補シ、銃砲彈藥ノ事ヲ掌ル、

主計部長 主計大監ヲ以テ之ニ補シ、鎮守府ノ會計經理、軍需供給並準備ヲ掌ル、

病院長 軍醫大監ヲ以テ之ニ補ス、府管病院及衛生ノ事ヲ掌ル、

海兵團長 海軍大佐ヲ以テ之ニ補シ、兵團統督、軍紀維持、士卒訓練、事務總理ノ事ヲ掌ル、

此他スベシヤ鎮守府ニハ、

兵器材料試驗委員 アリ海軍少將ヲ以テ委員長トス、

海兵團司令官 海軍少將ヲ以テ之ニ補ス、蓋シスベシア鎮守府海兵團ハ海

兵本部タリ、海兵皆名籍ヲ此ニ掲ケ、各府ニハ之ヨリ配付ス、故ニ高等司令

官ヲ置キテ之ヲ總管ス、

サン、バルラロシエー水雷工場長アリ、中佐ヲ以テ之ニ補ス、

ホルト、ベネーン病院アリ、大軍醫ヲ以テ長トナス、

又各鎮守府ノ軍港内外ニ在ル府屬官廨ヲ舉クレハ、

スベシヤ工兵部

セーヌ水路部

フレジヨ射的場司令部

セーヌ工廠

リヴールヌ工廠

リヴールヌ兵學校

ナルニー工廠

スベシヤ鎮守府所轄

カステラマール艦廠
 ナーブル工兵部
 機關學校
 ヴニース工兵部
 ナーブル鎮守府所轄
 ヴニース鎮守府所轄

海兵

伊國ノ海兵ハ徵兵ヨリ採用ス、全國ノ海岸ヲ分チテ二十二區ト爲シ、各區ニ於テ之ヲ徵集シ、ゼーヌ地方ハ其中心タリ、徵兵事務ハ港長之ヲ掌ル、其徵集セラレテ海兵タル可キ者ハ、第一年齡十五ヨリ十二箇月以上漁夫、海員、船手タリシ者、第二年齡十五ニ達スルマテニ十八箇月以上工匠、船塗及三箇年航海ヲ爲シタル者、第三商船ノ鍛冶、機關師、火夫タリシ者等トス、海兵ノ總數ハ約三萬人、毎年徵集セラル、者約六千人トス、中ニ就キ艦隊現役兵トシテ二千五百人ヲ採用ス、海兵ハ別チテ二種ト爲ス、第一種ハ現役四箇年、豫備役八箇年、通シテ十二箇年トス、第二種モ亦十二箇年ナリト雖モ、當初ヨリ豫備トシテ歸休セシメ、有事ノ日ニ召集ス、其他ニ尙ホ志願兵アリ、

海軍人員

伊國ノ海軍人員總數ハ左ノ如シ、

大將	一	機關總監	大佐ノ次及中佐相當	一七	主計官	一
中將	六	機關士	少佐以下少尉以上相當	一八六	主計總監	少將相當
少將	一三	計		二〇四	主計大監	大佐相當
大佐	五三	技術官			主計少監	中佐及少佐相當
中佐	七〇	技術總監	中將相當	一	主計	大尉及少尉相當
少佐	七〇	大技監	少將相當	二	生徒	少尉候補生ニ次ク
大尉	三一一	少技監	大佐相當	六	計	二八五
少尉	一六七	技士	中佐及少佐相當	一六	軍醫官	
少尉候補生	一一五	技士	大尉及少尉相當	四八	軍醫總監	少將相當
計	八〇六	一等生徒	少尉候補生相當	七	軍醫大監	大佐相當
機關官		二等生徒		一六	軍醫監	中佐及少佐相當
機關總監	一	計		九六	軍醫	大尉及少尉相當

計	一七四	若海兵	二六〇	計	二二、九六五
諸兵		下士、卒	二九〇	總計	二四、五三〇
下士海兵	二二、四一五				

海軍省

伊國海軍ノ軍政軍令ハ海軍省之ヲ統フ。

海軍大臣ハ海軍將官ヨリ選任シ、内閣ノ一員タリ、高等會議及技術會議ニ議リ軍政軍令ヲ行フ。

高等會議 常設トシ、海軍中將議長タリ、議員ニハ全中將(若クハ少將)三人、全少

將一人及官房長アリ、海軍編制、全擴張案、豫算案、進級名簿ノ評定、軍艦製造案、

其他海軍一般ニ關スル重要ノ事項ヲ議定スル事ヲ掌ル。明二十二年十一月

技術會議 造船總監ヲ議長トシ、全技監二人、高等武官一人ヲ議員トス、軍艦製

造ノ豫備計畫ノ議定ヲ掌ル。明九日勅令

本省ハ左ノ十局ヨリ成ル。全二十二年十一月十一日勅令

參謀部兼大臣官房 三部之ニ屬ス、

第一部	大臣官房ノ事ヲ掌ル。
第二部	戰術戰略、補助艦隊、海岸防禦、艦隊機動ノ事ヲ掌ル。
第三部	規則、軍紀、訓令等ニ關スル事ヲ掌ル。
軍務局	三部之ニ屬ス、
第四部	人員、役務及學校ノ事ヲ掌ル。
第五部	徵兵及艦隊乘組員ノ事ヲ掌ル。
第六部	會計及給養ノ事ヲ掌ル。
造船局	三部之ニ屬ス、
第七部	軍艦製造及造船部ノ事ヲ掌ル。
第八部	機關ノ事ヲ掌ル。
第九部	會計ノ事ヲ掌ル。
兵器及艤裝局	四部之ニ屬ス、
第十部	砲煩ノ事ヲ掌ル。
第十一部	海底ノ運轉器械及電燈ノ事ヲ掌ル。

- 第十二部 艦裝武裝ノ事ヲ掌ル。
- 第十三部 會計ノ事ヲ掌ル。
- 商船局 三部之ニ屬ス。
- 第十四部 港長、海上警察、海上衛生ノ事ヲ掌ル。
- 第十五部 港灣、海濱、商船海員、海上裁判ノ事ヲ掌ル。
- 第十六部 航海保險、商船ニ關スル高等會議、統計ノ事ヲ掌ル。
- 水路局 中ニ二課ヲ置ク。
 - 第一課 水路ノ事ヲ掌ル。
 - 第二課 信號標臺ノ事ヲ掌ル。
- 衛生局 中ニ二課ヲ置ク。
 - 第一課 衛生ノ事ヲ掌ル。
 - 第二課 軍醫及科學ニ關スル事ヲ掌ル。
- 建築局 砲臺、海上工事等ノ事ヲ掌ル。
- 検査局 中ニ四課ヲ置ク。

- 第一課 主計官及其一般服務ノ事ヲ掌ル。
- 第二課 部隊會計ノ検査ヲ掌ル。
- 第三課 艦上會計ノ検査ヲ掌ル。
- 第四課 建築工事諸局會計ノ検査ヲ掌ル。
- 會計局 豫算ノ調製、諸費支拂ノ事ヲ掌ル。

海軍教育

伊國ノ海軍教育ニ關シ數箇ノ學校アリ、
 海軍兵學校 ハリヴールヌニ在リ、年齢十三乃至十五ノ者ヨリ採用ス、其學期ハ五箇年トス、練習艦「ヴェットル、ヒザニ」ヲ以テ教場トシ「ヴェットリオ、エマニエアル」ヲ以テ實地練習艦トス、將校候補生ヲ養成スル所トス、學期間毎年八箇月ハ學術ヲ授ケ、三箇月ハ實地練習ヲ爲サシム、卒業スレハ試補ニ補シ、一箇年間艦隊ニ乘リ組ミタル後チ海軍少尉ニ補ス。
 其主計官技術官志望ノ者ハ該校課程四箇年ヲ履ミタル後、終ノ一箇年間之ニ關スル學術ヲ講習ス。

砲術練習學校 スベジヤニ在リ、練習艦「マリヤデライダ」及全「テルリビール」ヲ以テ之ニ充ツ。
 水雷術學校 亦スベジヤニ在リ、練習艦「ヴェネシア」及「フォルミダビル」ヲ以テ之ニ充ツ。

機關學校 ヴニーズニ在リ、機關官ヲ養成ス、練習艦「シツダヂナボリ」ヲ以テ之ニ充ツ。

火夫練習學校 亦全所ニアリ、全艦及「ヴォルタ」ヲ以テ之ニ充ツ。
 若海兵學校 練習艦「シツダヂセノヴァ」及「カブレレーヤ」ヲ以テ之ニ充ツ。

海軍費

年度	自七月一日至六月末日	歲出經常總額	海軍經常費	百分比
一八九二一三年度		一、六九四、二七五、六二九	一〇七、六一〇、四六五	六、三
一八九三一四年度		一、七五三、〇五八、三〇三	一〇五、三九一、〇八七	六、〇
一八九四一五年度		一、七八四、七二九、五〇三	一〇二、一四〇、七二二	五、七
一八九五一六年度		一、六八九、三四二、七六四	九九、一四二、二七〇	五、八

獨逸

海軍ノ地位

獨逸ノ海軍モ亦輒近ノ勃興ニ繫レリ、今ヨリ三十餘年ノ上ニ溯レハ、普魯西ニ砲艦二隻、コルヴト帆艦一隻運送郵船一隻ヲ有セシニ過キサリキ、其海軍國タルノ端ヲ發セシハ千八百四十八年嘉永元年、然レトモ之ヲ其陸軍ニ比スレハ、尙ホ言フニ足ラス、是ヲ以テ七十年明治三年ニ於ケル獨佛戰ノ際ニ在リテモ、海軍ハ常ニ守勢ヲ取リテ、敢テバルチック海及北海ヨリ出テス、其佛國ヨリ大捷ヲ得ルノ後チ益、力ヲ海軍ニ用井、七十三年明治六年八十五年明治十年八十八年明治十三年ノ擴張ヲ經、今ハ則チ伊國ニ亞クノ大海軍國トハナレリ、現ニ其擁スル所ノ一切ノ艦船ヲ舉數スレハ、三百四十八隻、三十六萬一千餘噸ノ多キアリ、中ニ就キ其有力艦ノミヲ舉クルモ、九十七隻、二十九萬餘噸ニ達セリ、若シ又其水雷艇ヲ舉クレハ伊露ニ駕シテ英獨ニ拮抗ス、是レ其從來海軍ニ於テハ常ニ守勢ヲ取リタルニ由ルカ、而シテ今ヤ壯年有爲ノ皇帝此國ニ君臨シ、益、大ニ帝國ノ海軍

ヲ擴張スルニ銳意ナレハ、數年ヲ出テスシテ更ニ一層ノ優力ヲ加フルニ至ル可シ。

現在、起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵戰闘艦	一六	一二五、二六一	最大 一、二〇〇〇 最小 一、〇〇〇
甲鐵巡洋艦	二	一〇、三〇〇	
甲鐵海防艦	一一	三九、六〇〇	最大 三、八〇〇 最小 三、五〇〇
甲鐵砲艦	一一	一一、一九九各	最大 一、一〇九 最小 一、〇〇〇
甲鐵艦合計	四〇	一八七、三六〇	
巡洋艦	二八	八四、六四一	最大 九、〇〇〇 最小 一、二二〇
補助巡洋艦 <small>漢係亞米利加海輪會社</small>	四		
補助巡洋艦 <small>北獨逸イト會社</small>	六		
報知艦	一〇	一一、六九九	最大 一、四〇〇 最小 九五〇

砲艦	水雷母艦	非甲鐵艦合計	總計
八	一	五七	九七
四、四三三	二、三五六	一〇三、一四九	二九〇、五〇九
最大 八六六 最小 四一二			

注意 以上ノ内計畫中ノ甲鐵戰闘艦一隻、甲鐵巡洋艦一隻、巡洋艦三隻、報知艦一隻、補助巡洋艦十隻ノ噸數未詳ナレハ、噸數總計ハ實際之ヨリ上ル可シ。

現在及起工中水雷艇

艇種	艇數	排水量	大小、兩極
艦隊水雷艇	一一	三、六七〇	最大 四、三〇〇 最小 二、五〇〇
一等水雷艇	一五二	一四、二七五	最大 一、五〇〇 最小 一、〇〇〇
二等水雷艇	三六	一、二七四	最大 九〇〇 最小 一三〇
海底水雷艇	四		
合計	二〇三	一九、一一九	

注意 一等水雷艇八隻、海底水雷艇四隻ノ噸數未詳ナラス。

其餘ノ現在艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
報知艦	一	三五〇	
運送艦	二		
殖民地用艦	一	二二五	
練習艦	二	二九、四三一	最小 三、九五〇 最大 二〇三
特務艦	五	一七、二八四	最小 六、〇〇〇 最大 七一六
使役艦	一〇	四、七一四	最小 一、七〇〇 最大 六七
使役艦	五		
水先及燈臺艦	一〇		
河砲艦	二	二四〇各	
合計	四八	五二、二四四	

注意 運送艦二隻、水先燈臺艦十隻、使役艦中五隻、噸數未詳ナレハ實際ノ總計ハ之ヨリ加ハルヘシ

補助巡洋艦

獨逸ハ夙ニ漢堡ノ漢堡亞米利加運輸會社トブレーメンノ北獨逸「ロイド」會社ニ助成金ヲ與ヘ、且ツ其使役艦船ノ損害ハ政府之ヲ負擔スルノ約ヲ立テ、兩社ノ船舶中其用ニ任フ可キモノヲ戰時補助巡洋艦ト爲スノ制アリ、明治二十八年ニ至リ其數ヲ増加シテ左ノ十隻ト爲セリ、

漢堡亞米利加運輸會社

四隻

北獨逸「ロイド」會社

六隻

右ハ五千噸至八千七百噸、七千五百馬力至一萬二千馬力ヲ發スルモノナリ、故ニ獨逸ノ海軍力ヲ觀ルニ之ヲ合算ス可キヤ亦論ナキナリ、

分遣艦隊

獨逸ノ海軍ハ左ノ各海ニ分遣艦隊ヲ配備セリ、其艦隊司令官ハ艦隊ノ勢力ニ從ヒ、將官若クハ大佐ヲ以テ之ニ補ス、亞細亞東岸分遣艦隊ヲ除キ、其他ハ千八百噸、シアラ分遣艦隊ヲ除キ、其他ハ千八百噸、

亞細亞東岸 海軍少將ヲ以テ司令長官トス、第七編在東洋各國海軍ノ部ヲ參看ス可シ

戰鬪艦	二隻	巡洋艦	六隻
砲艦	一隻	都合	九隻
濠太利			
巡洋艦	二隻		
亞米利加東岸			
練習艦	一隻		
亞弗利加東岸			
巡洋艦	二隻		
亞弗利加西岸			
巡洋艦	一隻	砲艦	一隻
都合	二隻		
地中海			
戰鬪艦	三隻	巡洋艦	一隻
報知艦	一隻	運送艦	一隻

都合

六隻

以上ノ艦隊ハ明治二十三年ヨリ皆キール及ウイルヘルムヘヴン兩鎮守府ニ屬セリ。

軍港及鎮守府

獨逸ノ軍港ハ左ノ二箇所トス、

キール スレスヴグ・ホルステンノキール灣底ニ在リ、獨逸第一ノ軍港トス、艦廠アリテ軍艦ノ製造、修理、機裝、解裝ニ任ス、東海鎮守府ヲ此ニ設ク。

ウイルヘルムヘヴン オルデンブルヒノジャード灣口ニ在リ、是レ千八百五十三年ノ創開ニ繫ル、面積三百十エクタール、亦艦廠アリテ製艦、修理、機裝ノ事ニ任ス、北海鎮守府ノ在ル所ナリ。

此他ニ尙ホ艦廠一箇所アリ、之ヲ

マンチヒ トス、普魯西東部ノマンチヒ灣内ニ在リ。

各鎮守府ニハ司令長官ヲ置キ、海軍中將ヲ以テ之ニ任ス、陸軍師團長ト其職權ヲ等クス、鎮守府所管海陸ノ兵員ヲ統率シ、其重輕罪ニ關スル高等軍法裁判權

ヲ有シ艦船ノ機裝及解裝ノ事ヲ指揮ス其下ニ幕僚參謀ヲ置キ海軍大佐ヲ以テ參謀長トス其他

知港事

測量官

軍醫官

法官

僧官

主計官

機關官

アリテ皆之ニ屬ス又鎮守府下ニハ左ノ諸監部アリ同ク司令長官ニ統ス

海軍監 少將ヲ以テ之ニ補シ海上諸防禦警備艦練習艦並海兵團若海兵團

及匠工團ヲ統轄シ司令官不在ノ時ハ之ニ代ル

海砲兵監 海砲兵少佐ヲ以テ之ニ補シ海砲兵ヲ統轄シ沿海防禦沿海砲臺

海底敷設防禦ノ事ニ任ス

海歩兵監 海歩兵大佐ヲ以テ之ニ補シ海歩兵ヲ統轄ス

水雷監 海軍大佐ヲ以テ之ニ補シ水雷艇隊ヲ統轄ス

軍港司令官 海軍將官若クハ全佐官ヲ以テ之ニ補ス

艦廠長官 海軍少將ヲ以テ之ニ補シ一切ノ廠務ヲ統轄ス

教務部長 海軍少將ヲ以テ之ニ補シ海軍大學校全兵學校及全下士學校ヲ

統轄ス

艦廠長官ノ幕僚ニハ副官アリ長官ノ下ニハ更ニ左ノ諸科ヲ置キ廠務ヲ分理セシム

機裝科

兵器科

水雷科

航海科

造船科

機關科

建築科

主計科

尙ホ兩鎮守府ニ在ルモノヲ舉クレハ東海鎮守府ニハキール主計部フリードリヒソルト主計部キール海軍病院フリードリヒソルト全病院アリ北海鎮守府ニハ亦ウイルヘルムヘヴン司天臺全名主計部全名海軍病院アリ學校ハ教員部ニ屬ス故ニ此ニ

其他軍港外ニ在ルモノハ橫濱海軍病院漢堡氣象臺

海兵

獨逸ノ海兵徵集法ハ佛國ト全ク編藉法及徵兵法ニ據ル沿海ニ住シ商船ニ乘組ミ又ハ一年以上漁夫タリシ獨逸人民ハ年齢二十至三十二マテハ皆海軍兵役ノ義務ヲ帶ハシメ其服役期限ハ現役三箇年豫備役四箇年通シテ七箇年

トス、又別ニ志願兵アリ、服役期限ヲ三箇年ト四箇年トニ別チ、隨意ニ選就セシム、凡ソ毎年徵募スル兵員ハ約三千人、目下海軍總數海歩砲兵ヲ合シ一萬八千ニ上レリ。

海軍人員

獨逸ノ海軍人員ハ左ノ如シ、

將校	少尉候補生	一三九	主計官	二一九
大將	士官生徒	六九	計	二一九
中將	計	八五〇	軍醫官	一
少將	機技官	九	軍醫總監	大佐相當
大佐	機關官	三九	軍醫監	中少佐相當
中佐	航海技術官	七三	大軍醫	少佐ノ下
少佐	水雷技術官	一四六	少軍醫	大尉ノ上
大尉	計	二一九	少尉	大尉ノ次及少尉相當
少尉	主計官	一五五	軍醫補	一九二
			計	二一九

僧官	計	六二	士官	八六五
新教僧正	海軍歩兵將校	一	計	八六五
舊教僧正	大佐	一	諸兵	
新教僧官	少佐	八	下士海兵	一八、八三〇
舊教僧官	大尉	一	若海兵	六〇〇
計	中尉	二	下士卒	一一、二〇五
海軍砲兵將校	少尉	二	計	二〇、六三五
佐官	計	二	總計	二二、九八四
尉官	甲板士官	四〇		

獨逸ノ海軍ハ皇帝之ヲ統御シ、其帷幄ニ侍中海軍參謀ヲ置ク、其軍令軍政ハ帝國海軍本部ト稱スル一省ヨリ之ヲ出タサシム。帝國海軍本部ニ二部ヲ置ク、一ヲ軍令部トシ、他ヲ軍政部トス、是レ明治二十二年三月三十ノ分立ニ係ル、即チ軍令部ハ駐艦區、教育、砲煩、水雷役務ニ關シ、海歩

兵港長艦隊、分遣艦隊、軍艦練習艦ニ關スル軍令ヲ掌リ、海軍中將ヲ以テ部長ト
ス。軍政部ハ艦船製造、被服糧食、會計、病院、水雷技術ニ關シ、砲熯及海底防具ノ
貯藏、海圖、設計、艦船試運ニ關スル軍政ヲ掌リ、海軍將官ヲ以テ部長トシ、部長ハ
内閣員ニ列ス。

軍政部ニハ左ノ五局ヲ置ク、

第一局

第一課 艦船機動ノ事ヲ掌ル。

第二課 人員ノ事ヲ掌ル。

第三課 軍事的科學ノ事ヲ掌ル。

別 課 徵兵、廢兵、海歩兵大隊ノ事ヲ掌ル。

第二局

第四課 廠裝ノ事ヲ掌ル。

第五課 水雷ノ事ヲ掌ル。

第六課 艦船製造ノ事ヲ掌ル。

第七課 機關製造ノ事ヲ掌ル。

第八課 砲熯ノ事ヲ掌ル。

第十課 軍港及材料ニ關スル行政ヲ掌ル。本課ハ第十課ニ屬ス。

K 課 軍港工事ノ指揮、艦船修理ノ事ヲ掌ル。

第三局

第十課 會計ノ事ヲ掌ル。本課ハ第十課ニ屬ス。

第十一課 軍隊行政ノ事ヲ掌ル。

第十二課 俸給及海軍倉庫ノ事ヲ掌ル。本課ハ第十課ニ屬ス。

第十二課 旅費及補給ノ事ヲ掌ル。本課ハ第十課ニ屬ス。

第四局

第九課 築港ノ事ヲ掌ル。本課ハ第十課ニ屬ス。

第九課 高等建築ノ事ヲ掌ル。本課ハ第十課ニ屬ス。

第十三課 軍法裁判ノ事ヲ掌ル。

G 課 衛生ノ事ヲ掌ル。

丁 課 海上裁判所ノ事ヲ掌ル

第五局

H 一課 設計海圖、海事ノ告示、水先燈臺ノ事ヲ掌ル

H 二課 航海氣象器具ノ事ヲ掌ル

海軍教育

獨逸ノ海軍教育ニ關シテハ左ノ諸學校アリ、

海軍大學校 キールニ在リ、海軍大尉以上ノ將校ヲ教育スル所トス、其學期ハ

舊ト三箇年ナリシカ、明治十三年以來短縮シテ二箇年トセリ。

海軍兵學校 亦キールニ在リ、海軍少尉及候補生ヲ教育スル所トス、其學期ハ

六箇月乃至一箇年。

機關及運轉術學校

主計學校

若海兵學校 フリードリヒンルトニ在リ、其學期ハ六箇月トス。

艦隊學校 是レ機關及運轉術學校、水雷術學校ノ豫備門ニシテ、下士官ヲ教育

スル所トス。

電信學校 舊ト技術學校タリシカ、明治二十三年陸軍ノ全學校ニ倣ヒテ之ヲ改メタリ。

以上ハ皆陸上學校トス、其海上學校ニ屬スルモノハ、

砲術學校 練習艦「マルス」附屬艦「ハイ」及「オッタル」ヲ以テ之ニ充ツ、ウイルヘルム

ヘヴン軍港ニ繫レリ。

水雷術學校 練習艦「ブリュセル」及附屬艦「ユラン」ヲ以テ之ニ充ツ。

若海兵及一年志願兵學校 練習艦「アリアドヌ」ルイス「モスキート」及「ロヴェル」ヲ

以テ之ニ充ツ。

候補生學校 練習艦「ニオーヴェー」及「ニクス」ヲ以テ之ニ充ツ。

其他各海團ニ設ケタル各科ノ教育アリ、以テ海軍ノ學術技藝ヲ講習ス。

海軍費

年 度	歲出經常總額	海軍經常費	百分比例
一八九二年度	一、二七、二七、〇〇〇 <small>馬克</small>	四五、二九八、八〇〇 <small>馬克</small>	三、七

一八九三年度	一二五九一四六八〇〇	四八、二五二、六〇〇	三、八
一八九四年度	一二八六五四六四〇〇	五〇、六九六、一〇〇	三、九
一八九五年度	一二三九二五〇、五〇〇	五五、二六一、五〇〇	四、四

北米合衆國

海軍ノ地位

合衆國ノ海軍ハ南北戰後一時拋擲ノ觀アリシカ、形勢ノ促進ニ由リ千八百八十年明治十以來之カ再造ニ著手シ、八十五年ヨリ八十九年自明治十二年ニ至ルマテ幾ト每期ノ議會ニ於テ數多ノ擴張案ヲ議決シ、千九百四年明治七年ニハ共和國ノ海軍ニ二百三隻ノ艦隻ヲ備フ可キノ計畫ヲ定メタリ、現ニ其有スル所ノ一切ノ艦船ヲ合算スレハ、百五十隻、三十一萬餘噸ニ上リ、就中有力艦ノミヲ以テスルモ九十三隻、二十七萬二千餘噸ニ達セリ。

現在、起工及計畫中有力艦

艦種 艦數 排水量 大小兩極

甲鐵戰鬪艦	八	七、一五九、五〇〇 <small>最大</small> 六、三〇〇 <small>最小</small>	一、五〇〇 <small>最大</small> 一、一七五 <small>最小</small>
甲鐵巡洋艦	三	二、三、九七八 <small>最大</small> 二、一八〇 <small>最小</small>	六、六四八 <small>最大</small> 六、〇〇〇 <small>最小</small>
甲鐵海防艦	三	九、六九〇 <small>最大</small> 九、二五〇 <small>最小</small>	四、四四〇 <small>最大</small> 四、〇〇〇 <small>最小</small>
甲鐵「モニター」	一	四七、三四八 <small>最大</small> 四七、三四八 <small>最小</small>	六、〇〇〇 <small>最大</small> 一、八七五 <small>最小</small>
甲鐵艦合計	三	一五二、六一一	
巡洋艦	一七	六四、六一六 <small>最大</small> 六四、六一六 <small>最小</small>	七、三五〇 <small>最大</small> 二、〇〇〇 <small>最小</small>
「コルヴェット」	一四	二四、五七五 <small>最大</small> 二四、五七五 <small>最小</small>	三、二五〇 <small>最大</small> 九〇〇 <small>最小</small>
水雷巡洋艦	三	二、四八〇 <small>最大</small> 二、四八〇 <small>最小</small>	九三〇 <small>最大</small> 七五〇 <small>最小</small>
報知艦	一	一、四八五	
砲艦	二六	二五、一二三 <small>最大</small> 二五、一二三 <small>最小</small>	一、七〇〇 <small>最大</small> 四二〇 <small>最小</small>
水雷衝角艦	一	一、一五〇	
非甲鐵艦合計	六二	一一九、四一八	
總計	九三	二七二、〇二九	

注意 以上ノ内計畫中ノ甲鐵戰艦一隻巡洋艦一隻ノ噸數未タ詳ナラス。

現在起工及計畫中水雷艇

艇種	艇數	排水量	大小兩極
水雷驅逐艇	二	五〇〇 ^噸	二五〇 ^噸
一等水雷艇	三九	一四〇一	一八五
二等及哨水雷艇	五	一〇〇	一五六
海底水雷艇	三	三三五	一五〇
合計	二三	二二二六	七五〇

注意 一等水雷艇中噸數未詳ノモノ三隻アレハ噸數合計ハ此ヨリ上ル可シ

其餘ノ現在艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
砲艦	三	九六三 ^噸	三五七 ^噸
漁艦	一	一二五〇	三〇〇

帆	練習艦	測量艦	合計
一〇	五	一六	三五
一八、〇六〇	一六一五八	三六、四三一	
最大	最大		
三二七〇	五、一七〇		
八三〇	八〇〇		
最小	最小		

注意 以上ノ内測量艦十六隻ノ噸數未詳ナレハ總噸數ノ合計以上ニ在ルヤ知ル可シ

艦隊

合衆國ノ海軍ニハ左ノ艦隊ヲ常設シ、以テ各海ニ配備ス、^{亞細亞艦隊ヲ除ク年ノ外ハ千八百八十九年ノ}配備表ニ據ル、故ニ多少ノ異動アラシ

北太平洋艦隊 墨西哥海灣、西印度諸島及本國ノ方面ニ備フ、海軍少將ヲ以テ

司令長官トス

「コルゼット」

三隻

報知艦

一隻

都合

四隻

南太平洋艦隊 伯刺西爾烏爾圭亞爾然丁、パタゴニヤノ方面ニ備フ、海軍少將

ヲ以テ司令長官トス。

「コルヴェット」

二隻 報知艦

一隻

都合

三隻

歐羅巴艦隊 地中海、北海及バルチック海ノ方面ニ備フ、海軍少將ヲ以テ司令長

官トス。

「コルヴェット」

三隻

亞細亞艦隊 支那海方面ニ備フ、海軍少將ヲ以テ司令長官トス第七編在東洋

ヲ參看
ス可シ

巡洋艦

六隻 砲艦

三隻

都合

九隻

明治二十九年
五月一日現在

太平洋艦隊 海軍少將ヲ以テ司令長官トス。

「コルヴェット」

六隻 報知艦

一隻

砲艦

一隻 運送艦

一隻

都合

九隻

白零海艦隊 白零海ニ於ケル英米兩國漁業問題紛議ノ結果將來兩國民ノ衝
突ヲ豫防スル爲ニ明治二十六年千八百九十三年ヨリ編制ス、其艦數四隻、
此外練習艦隊、湖水警備艦、墨西哥境警備艦、特務服役艦及常備艦等アリ

艦廠

合衆國海軍ニハ歐洲各國ニ於ケルカ如キ軍港ナシ、然レトモ特別艦廠アリ、製
艦、修理、艤裝、解裝ノ事ニ任ス、艦廠ノ重ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ、
ボストン マサチューセッツ州ニ屬シ、大西洋岸ニアリ。

新約克 ペンシルヴァニア州ニ屬ス、艦廠ハ港ノ對面ブルークリンニ在リ。

フィラデルフィヤ 亦ペンシルヴァニア州ニ屬シ、デラウェア州灣奥ニ在リ。

華盛頓 ヴァージニア州ニ屬シ、首府ノ在ル所。

ボーツマス 亦ヴァージニア州ニ屬シ、大西洋ニ瀕ス、此艦廠ニハ海兵本艦及病

院ノ設ナシ。

ノルフォルク 全クウイリジニヤ州ニ在リテ前港ヲ距ル遠カララス。

ペンサコラ フロリダ州ニ屬シ、墨西哥海灣ニ面ス、本艦廠司令官ハ大佐ヲ以

テ之ニ任シ、其下ニハ軍醫官及主計官コレアルノミ、其他各科長ヲ置カス、又海兵本艦及病院等ノ設ナシ。

桑港 カリフォルニヤ州ニ屬シ、太平洋ニ瀕スルメイルアイランドニ在リ。

各艦廠ニハ「コモドール」大少將ノ次若クハ大佐ノ司令官ヲ置ク、艦廠ニハ八課アリ、以テ海軍本省ノ入課ニ應ス、司令官之ヲ統轄ス、海軍省ノ下艦廠下ニハ其他、

海兵本艦 海歩兵屯營 海軍病院

等ノ設アリ海兵本艦ハ即チ新兵ノ屯在所トス。

此他左ノ四箇所ニ海軍駐屯所ヲ置キ、海軍佐官ヲ以テ所長トシ、石炭積入、需品供給、并艦船修理、兵卒徵集等ニ備フ。

新倫敦

ボートロヤル 南カロリナ州ニ屬シ、大西洋ニ面ス。

ケイウエスト フロリダ州ノ南陲ニ在リ。

新オルレヤン ルイジヤナ州ノミスーリー河口ニ在リ。

以上四駐屯所ノ外、

ニューボート 水雷部及若海兵練習部アリ、ニューボートハコンネクチカット州ノ

灣内ニ在ル一港ナリ。

アナポリス 大砲射撃試験場アリ、アナポリスハチエサビーク灣奥ニ在リテ華

盛頓ヲ距ル遠カラス。

海兵

合衆國ノ海兵ハ志願兵ニ採ル、其服役期限ハ三箇年トス、而シテ豫備役ナシ、其他若海兵アリ、年齢十四乃至十八マテノ者ヨリ志願セシメ、二十一歳マテ服役セシム、此若海兵ハ採用後練習艦ニ乗組マシメ、實役ニ堪ヘルニ至リテ之ヲ用

海兵ノ數ハ約八千人若海兵七百五十人アリ、一昨明治二十八年ニ至リ、政府ハ議會ノ協賛ヲ經テ兵員一千人増加ノ事ヲ決定セリ。

海軍人員

大將	中將	大佐	四五
將校	將	佐	
一少將	一六	一六	八五

「リウテナント、コママンダー」	七四	主計補	六	大佐	一
大尉	三三五	計	九三	中佐	二
少尉	一七四	軍醫官		少佐	四
少尉候補生	六八	軍醫監	三〇	大尉	二〇
士官生徒	二四二	大軍醫	五〇	中尉	三〇
計	一〇三一	少軍醫	四七	少尉	一二
機枝官		軍醫補	二〇	計	七四
機關官	一八七	計	一四七	准士官	
技術官	三九	僧官		准士官	一四三
計	二二六	僧官	二三	計	一四三
主計官		計	二三	諸兵	
主計監	二六	海歩兵將校		海兵	一一〇〇
大主計	四〇	司令官 <small>少將相當</small>	一	若海兵	七五〇
少主計	二〇	參謀官	四	海歩兵	一九三九

三一〇

計 海軍省 一三、六八九 總計 一五、四二五

合衆國ノ海軍ハ大統領之カ元帥タリ、其軍政ハ海軍省ニ於テ之ヲ統フ、海軍大臣ヲ置キ、以テ軍政ヲ總判ス、大臣ハ内閣ノ一員タリ、大臣ノ下ニ書記官長アリ、會計課、記録課之ニ屬ス、本省ハ左ノ八局ヨリ成リ、「コモドール」若クハ相當官ヲ以テ局長トス。

- 第一局 航海、艦隊ノ人員、水路ノ事ヲ掌ル、人員課アリテ之ニ屬ス。
- 第二局 砲煩、水雷ノ事ヲ掌ル。
- 第三局 艦船ノ機裝、海兵ノ徵募、及其教育ノ事ヲ掌ル。
- 第四局 艦廠ノ建築、海軍用地ノ事ヲ掌ル。
- 第五局 衛生、醫務、藥劑、病院ノ事ヲ掌ル。
- 第六局 糧食及被服ノ事ヲ掌ル。
- 第七局 機關ノ設計、機關保存ノ事ヲ掌ル。
- 第八局 製艦ノ設計、製艦修理及保存ノ事ヲ掌ル。

其他ニ尙ホ二局アリ、
 審理局 法規ノ調査、及軍法ノ事ヲ掌ル。
 牒報局 各國海軍牒報ノ事ヲ掌ル。
 尙ホ海軍大臣ノ直轄ニ屬スル部局ヲ舉クレハ、
 海軍兵學校
 司天臺
 水路部
 航海曆局
 將校進級調査委員會
 武官退職調査委員會
 軍醫官試驗委員會
 機關官試驗委員會
 海軍教育
 合衆國ノ海軍教育ニ關シテハ左ノ學校アリ、

海軍兵學校 アナポリスニ在リ、將校及機關官ヲ養成スル所トス。就中士官生徒ハ年齡十四乃至十八ノ者ヨリ採用シ、機關生徒ハ年齡十六乃至二十ノ者ヨリ採用ス、其學期ハ共ニ四箇年トス、其實地練習ノ爲ニ練習艦數隻ヲ備ヘ、毎年夏期試験後之ニ乗組マシム。
 戰術學校 ニューポルトニ在リ、少尉候補生以上ニ高等戰術ヲ授クル所トス、其學期ハ四箇月トス、以上ノ將校生徒ハ交、此ニ入ル、其數常ニ二十五人トス。
 水雷術學校 亦ニューポルトニ在リ。
 練習艦隊學校 練習帆艦、ボーツマス、サラトガ及セームストンヲ以テ之ニ充ツ、主トシテ若海兵ヲ教育ス。
 砲術練習學校 練習艦一隻ヲ以テ之ニ充ツ。
 海軍費九六年度ハ政府提出豫算案

年 度	歳出經常總額	海軍經常費	百分比例
一八九二年度	三四五、〇三三、三三〇	二九、一七四、一三九	八、四
一八九三年度	三八三、四七七、九五四	三〇、五二二、九三八	七、六

一八九四年度	三六七、五二五、二八〇	三三、〇九〇、六五九	八、七
一八九五年度	三五六、一九五、二九八	二九、二〇八、〇七〇	八、〇
一八九六年度	四四八、九〇七、四〇七	二八、〇〇〇、〇〇〇	六、二

西班牙

海軍ノ地位

西班牙ノ海軍ハ現世紀ノ當初挫折ヲ被リシ以來、衰微シテ振ハサルコト久焉
 タリシカ、千八百八十六年^{明治十年}議會ノ協賛ヲ經、九箇年間ニ二億二千五百萬
 「ペセタ」ノ海軍擴張費支出ノ事ヲ決定シ、以來再々ヒ其勢力ヲ恢復シ來レリ、此
 國ニハ小砲艦多シ、其一切ノ艦船ヲ合算スレバ、百九十隻、約二十萬噸ヲ得ヘシ、
 其中有力艦ノミニテモ、六十三隻、十五萬七千餘噸ニ達ス、其噸數及海軍ノ諸設
 備ヨリ謂ヘハ、埃匈國海軍ノ上ニ在リ。
 現在、起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
----	----	-----	------

甲鐵戰鬪艦	二	二〇、四〇二	小大	一〇、五〇〇 九、九〇二
甲鐵「フレガット」	三	二〇、一七五	最大	七、三〇五
甲鐵巡洋艦	八	六〇、二〇〇	最大 最小	五、六二〇 七、〇〇〇
甲鐵艦合計	一三	一〇〇、七七七		
一等巡洋艦	九	二八、八九六	最大 最小	四、八〇〇 三、〇九〇
二等巡洋艦	九	一〇、〇五〇	最大 最小	一、一五二 一、〇四六
三等巡洋艦	二	一、〇八七	小大	一、一五二 九三五
水雷砲艦	二	七、四九〇	最大 最小	八、三〇〇 六、〇〇〇
「ゴエレット」艦	一	四二〇		
砲艦	七	三、五九六	最大 最小	五、二〇四 五、〇〇〇
水雷驅逐艦	一一	五、四八六	最大 最小	七、五〇〇 三、八六六
非甲鐵艦合計	五〇	五七、〇二五		
總計	六三	一五七、八〇二		

注意 一等巡洋艦一隻水雷驅逐艦二隻ノ噸數未詳ナレハ總噸數ハ之ヨリ上ル可シ

現在及起工中水雷艇

艇種	艇數	排水量	大小兩極
一等水雷艇	三六	二、七九四	最大 一、二七七 最小 五七
二等水雷艇	六約	一、四八	最大 二、五 最小 二、三
水底水雷艇	三約	一、七四	
合計	四四	三、一一六	

其餘ノ現在艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
砲艇	六〇	六、三一	最大 二、四五 最小 三、三
河川「モニター」	一	五五三	
浮砲臺艦	一	七〇三	

運送艦	練習艦	曳船	測量艦	合計
五	一一	二	三	八三
三、九二四	二五、二〇一	二六五	一、四三一	三八、三九一
最大 一、三〇〇 最小 一〇〇〇	最大 三、九八〇 最小 八〇〇	最大 一、四六 最小 一一九	最大 七〇〇 最小 二〇〇	

注意 運送艦二隻噸數未詳

補助巡洋艦

西班牙政府ハ「トランサトランチック」郵船會社ヲ始メ數會社ニ助成金ヲ與ヘ、戰時ハ其船舶中ヨリ補助巡洋艦ヲ命スルコトヲ特約セリ、從テ新造郵船ニハ兵器及プラットホルム等ニ關シ制限ヲ立テ、以テ戰役ニ任ス可カラシム、現ニ近タハキ、バノ叛亂ニ備ヘンカ爲ニ郵船六隻ヲ武裝シテ之ヲ派遣セリ、其船ハ即チ「アルフォンツ」十二世、全十三世、「レイナマリア」ヤ「クリスチナ」、「サトラステギー」、「モンラヴィデオ」、「レオン」十三世是ナリ、是等ノ郵船ノ西國海軍力ニ加算ス可キ亦論ナキナリ

艦隊

西班牙ノ海軍ハ平時之ヲ五艦隊ニ分チテ編制ス。

地中海艦隊

南亞米利加艦隊

西印度艦隊

亞細亞艦隊第七編東洋各國海軍ノ部ヲ參看ス可シ

大西洋艦隊

軍港

西班牙ノ海岸ハ之ヲ三大區ニ別チ每區ニ軍港アリ、司令官之ヲ統フ、其軍港ハ左ノ如シ、

カルタゼナ 地中海ニ面シムルシ州ニ在リ。

カデー ジブラルタルヲ出テ、大西洋ニ向ヒテ右岸ニ在リ。

フェルロル 半島北西ノ一角コロニーニ在リ。

西班牙ニハ植民地多シ、其植民地ヲ二區ニ分ツ、即チキョバ及ポルトリコヲ一區ト

シ、又フィリッピン諸島ヲ一區トス、每區ニ首部アリ、司令官アリテ之ヲ統フ、即チハヴアナ キョバ島ノ北岸ニ在リ、キョバ及ポルトリコノ首部ナリ、南亞米利加艦隊司令官ハ此地ノ司令ヲ兼ス。

マニラ、呂宋ノ中マニラ灣頭ニ在リ、フィリッピン諸島ノ首部トス、カヴイテニ海兵團船渠アリ、亞細亞艦隊司令官此方面ノ司令ヲ兼ス。

西班牙ニ多トスル所ハ兵器ノ獨立ニ在リ、フェルロル軍港ニ於テハ悉ク自國ノ材料ヲ用井テ艦船ヲ製出シ、ビルバオ州ノフェルゲラ製造所ヨリ鋼ヲ製出シ、カデー軍港及陸ノイルビヤ製砲廠ヨリハ大口徑ノ砲煩ヲ製出ス、大海軍國ニ接踵スル所以ナリ。

海兵

西班牙ノ海兵ハ編籍法ニ由リ、沿海人民ヨリ徵集ス、沿海ヲ百十小區ニ分チ、每區ニ海軍士官ヲ駐在セシメ、以テ徵集事務ヲ掌ラシメ、三軍港ニ分隸シ、軍港司令官之ヲ統フ、現役兵一萬四千人、豫備兵一萬六千人、合シテ三萬人ト爲ス。

海軍人員

將校	大將	中將	少將	一等大佐	大佐	少佐	一等大尉	二等大尉	少尉	少尉候補生	士官生徒	計	機關官
	一	六	一五	二〇	四二	八九	一三七	二六二	二三七	九三	一〇〇	一〇〇二	
	機關士	技術官	技術官	技術總監	技術大監	技術少監	技士	主計官	主計總監	一等主計大監	主計大監	主計少監	
	自大佐ノ上 至一等大尉ノ下	一等大 佐相當	一等大 佐相當	少將 相當	一等大 佐相當	大佐乃至一 等大尉相當	少尉乃至候 補生相當	少將 相當	一等大 佐相當	大佐 相當	少佐 相當		
	六	七八	八四	一	九	二七	一〇	四七	四	六	七	二八	
	一等大主計	大主計	少主計	主計候補生	軍醫官	軍醫總監	軍醫大監	一等軍醫少監	軍醫少監	大軍醫	一等少軍醫	少軍醫	
	尉相當	尉相當	少尉 相當		少將 相當	相等	一等大 佐相當	大佐 相當	少佐 相當	一等大 尉相當	大尉 相當	少尉 相當	
	八一	一〇〇	七八	二五	三三二	一	三	七	六	四三	五九	三六	

三二〇

軍法官	軍法官	陪席判官	陪席判官	陪席判官	計	僧官	僧官	計	海砲兵將校	中將	少將	海軍省
一	二	八	二九	六一	四九	四九	四九	六	一	一	三	
大佐	中佐	少佐	中尉	計	中將	中將	少將	下士海兵	海砲兵	海步兵	總計	
六	九	二	二	五	一	一	四	一四〇〇〇	七〇三三	一五〇〇	二二、五三三	
一五二	一〇三	四五	三六九								二四、六七四	

西班牙ノ海軍行政ハ海軍省之ヲ統フ、海軍中將若クハ全少將ヲ以テ海軍大臣

ニ補シ、内閣員ニ列ス、大臣ハ國王ニ對シ所管一切ノ責ニ任シ、高等會議ニ議リテ重事ヲ決行ス。

高等會議 海軍大臣ヲ議長トシ、上院議員一人、コルテス選出、下院議員一人、技術總監一人、砲兵將官一人、材料部提理、海軍少將、人員部提理、全少將、科學部全少將各一人、會計部提理一人、ト秘書官、海軍一等大佐一人ヨリ構成ス。

海軍省ニハ左ノ七局ヲ置ク、

人員局

兵器局

航海及海上事業局

製艦局

海砲兵局

會計局

政務局

海軍教育

西班牙ノ海軍教育ニ關シテハ左ノ學校アリ、
海軍兵學校 海軍候補生ヲ教育スル所トス、年齢十三以上十八マテノ子弟ヲ採用ス、學期ハ三箇年トシ、舊「フレガット」艦「アスツリヤス」ヲ以テ校舍ニ充ツ、卒業後候補生ニ補シ、更ニ三年間實地練習ヲ行ハシム、即チ一年ハ練習艦「ブラカ」ニ其翌年ハ帆艦「ノイチラス」ニ、又其翌年ハ各航海艦ニ乗組ミ之ヲ行フ、而ル後チ海軍少尉ニ補ス。

海軍費

年 度	歲出經常總額	海軍經常費	百分比
一八九二一三年度	七四二、三六一、九九八	二九、七四一、五七三	四〇
一八九三一四年度	七三七、四七四、八一	二二、五〇二、九五	三〇
一八九四一五年度	七三八、六一九、八九三	二二、五〇三、九五	三〇
一八九五一六年度	七六五、四〇九、八七八	二三、四七〇、一一四	三〇

奧地利・匈牙利

海軍ノ地位

埃匈國海軍ノ強大ニ赴キシハ千八百八十二年明治十五年以降ノ事ト爲ス、此歲海軍擴張ノ議ヲ決シ、翌年ヨリ之ニ著手シ、六年間ニ著大ノ進歩ヲ爲セリ、但タ其海軍タル守勢的國防ノ主義ヲ採レリ、故ニ諸ノ施設モ亦之ニ應セリ、現ニ其一切ノ艦船ヲ合算スレハ、百四十七隻、十五萬二千八百餘噸ニ上レリ、其中有力艦ノミヲ擧クルモ、五十二隻、約十二萬七千餘噸アリ。

現在、起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵戰鬪艦	八	四三、二九二	最大 七、三九〇 最小 三、五五〇
甲鐵海防艦	四	二二、〇〇〇	各
甲鐵巡洋艦	二	一一、五四〇	最大 六、二〇〇 最小 五、三四〇
甲鐵「モニター」河艦	四	一、五一六	最大 四、四八〇 最小 三、一〇〇
甲鐵艦合計	一八	七八、三四八	

艦種	艦數	排水量	大小兩極
巡洋艦	三	一〇、〇〇〇	最大 四、〇〇〇 最小 二、〇〇〇
「ラレガット」	二	六、八六〇	各
「コルヴェット」	七	一三、〇〇〇	最大 三、〇〇〇 最小 一、三四〇
水雷巡洋艦	四	四、七〇〇	最大 一、六四〇 最小 一、五三〇
水雷報知艦	四	三、四七三	最大 九、一三〇 最小 八、四〇〇
報知艦	三	三、五三〇	最大 一、八三〇 最小 一、三三〇
砲艦	五	三、一一二	最大 九、〇〇〇 最小 五、四〇〇
水雷驅逐艦	六	二、八九〇	最大 八、〇〇〇 最小 三、五〇〇
非甲鐵艦合計	三四	四八、五六五	
總計	五二	一二六、九一三	

注意 以上ノ内水雷巡洋艦一隻ハ製造中ニテ噸數未詳ナレハ實際ハ總計ヨリ上ル可シ。

現在及起工中水雷艦

航洋水雷艇	六	七二〇各	一二〇
一等水雷艇	三二	二、四〇六	九五
二等水雷艇	三二約	一、八五六	六五
三等水雷艇	八約	一、四四	六四
合計	七六約	五、二二六	二七〇

注意 一等水雷艇一隻噸數未詳尚又此外ニ哨水雷艇若干隻アリ、其餘ノ現在及起工艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
運送艦	五	五五〇	二、四四〇
使役艦	五	二〇一三	九一〇
練習艦	九	一三三三〇	八五〇
合計	一九	二〇、八四三	一八〇〇

注意 運送艦ノ内ニ隻ハ製造中ニシテ噸數未詳ナレハ、總噸數ハ合計以

上ニ上ル可シ

補助巡洋艦

埃匈國政府ハ郵船會社ニ特約シ、年々一定ノ助成金ヲ與ヘ、戰時之ヲ使用スルコト、シ、從テ其船舶ノ製造上ニ制限ヲ建テタリ、今マ其諸會社ノ船隻及之ニ對スル助成金額ヲ擧クレハ、

埃地利「ロイド」會社ニハ年金三百二十萬法^{フラン}ヲ與フ、其船舶ハ、稍多噸數ノ船舶 九〇隻

「アドリヤ」會社ハ「フイエーム」ニ在リ年金七十五萬法ヲ與フ、即チ會社所有特定船舶 一〇隻

「ヴェロス」會社ノ特定船舶ハ、巡洋艦 四隻

「ゲネラル」會社ノ特定船舶ハ、巡洋艦 一隻
報知艦 三隻

以上塙國ノ海軍力ニ合算ス可キヤ論ナキナリ。

軍港及鎮守府

塙國ニハポーラ及トリエストノ二軍港アリ。

ポーラ アドリヤチック海奥イストリー半島角ニ在リ、塙國第一ノ軍港トス、港口僅ニ三百米突從テ防禦ニ容易ナリ、長百四米突ノ艦船ヲ容受ス可キ乾船渠、一等機關工場アリ、艦廠ヲ置キテ造船、機裝、兵器彈藥其他ノ需品供給ニ任ス。

トリエスト ハアドリヤチック海ノ盡クル所トリエスト灣底ニ在リ、ポーラニ次クノ軍港トス、海軍工廠ノ設アリテ、其下ニ造船所ヲ置ク。

ポーラ軍港ニハ鎮守府ヲ置キ、海軍少將ヲ以テ司令長官ニ補シ、軍港一切ノ軍政ヲ統フ、府ニ左ノ諸部司アリテ長官ニ隸ス、

參謀部

經理部

出納部

借官職

軍法會議

尙ホ鎮守府司令長官ノ指揮ヲ受ク可キ者ハ、軍港司令官ト爲ス、軍港司令官ハ海軍少將ヲ以テ之ニ補シ、其下ニ左ノ諸司ヲ置ク、

監獄

建築部

被服廠

病院

測量部

學校

而シテ海兵團モ軍港司令官ノ管轄ニ屬ス。

艦廠ニハ海軍少將ヲ以テ長官ニ補ス、幕僚アリ、此他艦廠長官ニ隸屬スル者ハ左ノ如シ、

事務科長

機裝科長

機裝庫主管

索具科長

造船科長

機關科長

兵器科長

彈藥試驗所長

分析所長

艦廠建築科長

中央倉庫主管

トリエスト軍港ニハ又技術會議アリ、本部長官ノ直轄ニ屬ス、海軍少將ヲ以テ議長トシ、七部ニ分チテ審議セシム、

造船

機關

兵器

攻撃水雷

敷設水雷

電氣

航海術

ニ關スル事項

トリエスト軍港ノ海軍工廠ニハ海軍少將ノ長官ヲ置キ、幕僚參謀官及技術官

アリ、工廠長官ノ管轄スル所ハ、

造船所 經理部 倉庫 兵營

海軍材料監督局 水路測量局 海軍中央文庫

凡テ左ノ三所ニハ海軍經理部アリテ需品供給ヲ掌ル、

ボローラ トリエスト フイニーム クルキロ湖 底ニアリ

海兵

奥匈國ノ海兵ハ徵兵法ヲ用ヰ、アドリヤチック海沿岸地方及諸島ヨリ徵集ス、乃チ此一帶ヲ分チテ三海區トス、第一ハイストリー海區、トリエスト軍港ニ集中所ヲ置ク、第二ハクラオチー、スラヴニール海區、フニームニ集中所ヲ置ク、第三ハダルマチー海區、ザーラニ集中所ヲ置ク、

海軍兵役義務ハ年齢十九ヨリ四十二マテトス、即チ

年齢十九ヨリ一年間ハ第一後備トス、

年齢二十ヨリ四年間ハ現役トス、

年齢二十五ヨリ五年間ハ第一後備トス、

年齢三十ヨリ三年間ハ第二後備トス、

年齢三十三ヨリ五年間ハ第一後備トス、

年齢三十八ヨリ五年間ハ第二後備トス、

徵兵ノ外若海兵、一年志願兵等ヨリモ亦海兵ニ採用ス、一年志願兵ハ満期後士官ニ陞セ豫備ニ入ル、

此國ノ海兵タル者ハ概シテ伊太利人及ダルマチー人ナリ、士官以上ハ獨逸人

即地ト爲ス 利人

海軍人員

奥匈國ノ海軍人員ハ左ノ如シ、

將 校	中 佐	二七	士官生徒	八
大 將	一少 佐	三三	計	六一
中 將	三大 尉	二〇三	機 技 官	
少 將	七少 尉	一八四	機 關 官	九四
大 佐	一八少尉候補生	二三八	造船技術官	三三

機關技術官	四八	軍醫總監	一	僧正	一
造兵技術官	一九	軍醫大監	三	僧官	八
水陸建築及電氣技術官	一一	軍醫少監	六	計	九
計	二〇五	大軍醫	一六	准士官	
主計官		中軍醫	一九	准士官	二二八
主計總監	一	少軍醫	一五	計	二二八
主計監	一九	計	六〇	諸兵	
主計	一二二	軍法官		下士海兵	一一八九七
候補生	一七	軍法官	九	若海兵	四〇〇
計	一五八	計	九	計	一一二九七
軍醫官		僧官		總計	一三五七七

軍務省
 埃匈國ニハ獨立ノ海軍省ヲ置カス海軍ニ關スル軍令軍政ハ之ヲ軍務省ニ統
 ラ軍務省ハ別チテ陸軍部及海軍部トス各長官アリ海軍部長官ハ海軍大將若

クハ全中將ヲ以テ之ニ補シ軍令軍政ヲ總攬シ海軍部及二軍港ヲ統轄ス長官
 ノ下ニ幕僚參謀アリ海軍少將ヲ以テ參謀長ト爲ス本部ニハ左ノ二局八課ア
 リ

第一局 三課アリ之ニ隸シ人員ニ關スル事ヲ掌ル
 第二局 五課アリ之ニ隸シ材料ニ關スル事ヲ掌ル
 此他ニ尙ホ

長官官房アリ長官ニ直隸ス
 海軍出納部亦全シ

海軍教育

帝國海軍大學校 ト稱スル海軍兵學校ハフイニムニ在リ將校候補生ヲ養成
 スル所トス年齢十四至十六ノ者ヨリ之ヲ採用ス其學期ハ四箇年トシ練習艦
 ヲ備ヘ其間夏期ニハ之ニ乘組マシメ實地練習ヲ行ハシム卒業ノ後チ二等候
 補生ニ補ス生徒ノ數ハ常ニ約百十人
 機關學校

幼年學校

其他十隻ノ練習艦アリテ砲術、水雷術、若海兵等ノ練習ニ充ツ

海軍費

年 度	歳出經常總額	海軍經常費	百分比例
一八九三年度	一四三、八二一、八八七 ^{フラン}	一二〇、七七七、六八〇 ^{フラン}	八、三
一八九四年度	一四七、九二五、九九〇	一二、五七七、六八〇	八、五
一八九五年度	一五二、〇五八、二〇三	一三、〇八一、二六〇	八、六
一八九六年度	一五六、二九一、四六三	一三、五八一、二六〇	八、七

土耳其

海軍ノ地位

土國ノ海軍ハ老舊海軍ト稱ス可キカ、其艦船ハ概ネ千八百七十五年^{明治前ノ}建造ニ係レリ、其後改造ヲ經タルモノ之ナキニ非サルモ、金角港中ニ永繫シ、太

タ之カ保存ニ留意セス、且ツ乗組海員ノ如キモ、多クハ亦減殺シ、定員ニ滿ツルモノハ幾ト稀ナリ、然レトモ其艦隻ノ數ヨリ、言ヘハ、二百ト七隻、二十萬四千餘噸アリ、就中有力艦ノミヲ以テスルモ、五十一隻、十四萬餘噸ニ上レ、ハ以テ埃國ニ接踵スルヲ得ヘシ、
現在及起工中有力艦

艦 種	艦 數	排 水 量	大 小 兩 極
甲鐵戰鬪艦	九	六九、六四七	最大 一〇、六五〇 最小 五、六八七
甲鐵「コルヴェット」	九	二四、五九〇	最大 二、七六〇 最小 二、〇四六
甲鐵砲艦	一	六二五	
甲鐵「モニートル」	三	三、一六〇	最大 二、五〇〇 最小 三、三〇〇
甲鐵艦合計	二二	九八、〇二二	
「フレガット」	三	七、四九四	最大 四、七一七 最小 一、三〇〇
巡洋艦	八	二二、五二〇	最大 四、〇五〇 最小 一、一六〇
水雷報知艦	二	一、八〇〇	各 九〇〇

水雷驅逐艦	二	九七〇	小大	五二〇
「コルヴェット」	五	三、九八二	最小大	四五〇
砲艦	六	三、六五四	各	六〇九
報知艦	三	二、二七〇	最小大	一、四四〇
非甲鐵艦合計	二九	四二、六九〇		三八〇
總計	五一	一四〇、七一二		

注意 以上ノ内甲鐵「コルヴェット」一隻ノ噸數未詳ナレハ實際ハ此以上ニ達ス可シ 又三百八十噸ノ報知艦一隻、三百三十噸甲鐵「モニトール」二隻便宜此ニ収ム

現在水雷艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
水雷驅逐艦	三	六二〇	最小大
海底水雷艦	二	五二〇各	

其餘ノ現在及起工艦

一等水雷艦	四四	二、五一六	最小大
合計	三六	三、八九六	

艦種	艦數	排水量	大小兩極
砲艦	四六	一、二九七	最小大
報知艦	一九	三、八三一	最小大
運送艦	一二	二、四四三	最小大
「ヤット」	一三	一四、五四四	最小大
使役艦	七	六九五	最小大
使役艦	七		最小大
「エリス」艦	二		最小大
帆艦	二		最小大
パンラ小艦隊	一五		最小大

瀛	瀛	瀛	合 計
艦	艦	艦	
二	八	一七	一三〇
九五〇		一〇、六〇九	五四、三六九
小大		最小最大	
四〇〇		八九〇	
四五〇		四五〇	

注意 以上合計中砲艦四隻、運送艦一隻、使役艦七隻、「エリス」艦二隻、帆艦二隻、バソラ小艦隊ニ屬スル艦船十五隻、瀛艦二十四隻、計四十五隻ハ噸數未詳ナレハ、實際ハ實ニ合計以上ニ上ル可シ。

補助巡洋艦

土耳其ニハ又補助艦ノ組織アリ、「マソーセ」會社ハ即チ是ナリ、會社ハ政府統督ノ下ニ在リ、戰時ニハ其船舶ヲ以テ運送船トシ、領内各地陸兵ノ集配ニ充ツ、其船隻ハ左ノ如シ。

瀛	艦	種	艦	數	排	水	量	大	小	兩	極
一七							一〇、六〇九	最大	最小		八九〇
											四五〇

注意 此内十六隻噸數未詳、故ニ總噸數ハ合計ヨリ多キコト固ヨリ論ナシ。

軍港

土耳其ノ海軍中觀ル可キモノハ左ノ軍港トス、
君士丹丁堡軍港 城堡之ヲ圍繞シ、裏ニ船池五、大キールニ、各種製作場十六、一切軍需品ノ倉庫アリ、造船器具モ亦頗ル備ハレリ、平時ハ主トシテ「マソーセ」會社船舶ノ修理ニ用ウ。

海兵

海兵ハ徵兵及志願兵ノ二種アリ、黑海沿岸一帶ノ人民ヨリ採用ス、其服役期限ハ現役五箇年、豫備役三箇年、後備役四箇年、通シテ十二箇年トス、其現在海兵ハ海歩兵ヲ合シ三萬九千六百餘人ト稱ス、然レトモ是レ簿冊上ノ數ノミ、實際ハ其幾分ニ過キササルノミ、千八百九十一年刊行「ビコシヤ」ル若各國海軍ニ此國ノ海兵ハ簿冊上一萬四千人、而モ實際ハ三千人ニ過キストアリ、

瀛	合 計
艦	
一六	三三
	一〇、六〇九

ル以テ観
ル可シ

海軍人員

目下海軍ノ人員ハ左ノ如シ、

將校	大尉	二五〇	計	五七〇
中將	少尉	二〇〇	下士海兵	三〇、〇〇〇
少將	計	九七七	海歩兵	九、六四三
大佐	機關官	四八〇	計	三九、六四三
中佐	軍醫官	六三	總計	四一、一九〇
少佐	主計官	三〇〇		

海軍省

土耳其ノ海軍省ハ海軍大臣之ヲ統フ、海軍大臣ハ全將官ヲ以テ之ニ補ス、將官會議アリ大臣之カ議長タリ、會議ニ議リ重ナル軍令軍政ヲ出タス、大臣ノ下ニハ幕僚參謀部アリ、部中ニハ又水雷委員ヲ置ク、海軍省ハ左ノ四局ヨリ成レリ、

人員局

材料局

造船局

衛生局

海軍教育

初等海軍兵學校 金角港ニ在リ、生徒約四百人、其學期ハ四年間、

海軍豫備門學校 マルモラ海ノハルキ島ニ在リ、生徒約百三十人、學期亦四年間、

海軍兵學校 亦ハルキ島ニ在リ、生徒三十人、其學期ハ二年間、之ヲ高等學校ト

ス、英語ニ由リ土ノ英人士官之ヲ教フ、卒業後少尉ニ補シ、航海艦上ニ乗組マ

シム、

其他海兵ノ爲ニ左ノ練習學校アリ、

砲術學校 練習艦「セリミエ」ヲ以テ之ニ充ツ、

水雷術學校 練習艦「モクビール・インソール」ヲ以テ之ニ充ツ、

和蘭

海軍ノ地位

和蘭ノ海軍モ亦守勢的國防ノ主義ヲ執レリ、從テ近時ハ輕快ノ巡洋艦ヲ造リ
 ナ舊甲鐵艦ニ代ヘ、且ツ多ク水雷艇及水雷防禦ヲ建テ、沿海ニ於ケル敵ノ攻襲
 ヲ擊退スルニ備ヘントス、今マ此國一切ノ艦船ヲ舉クレハ、二百三隻、十五萬八
 千七百餘噸ヲ算シ、就中有力艦ノミニテ五十隻、十萬二千餘噸アリ、隻噸數ヨリ
 曾ヘハ土耳其ニ如カサルモ、艦種及海軍ノ諸設備ヨリ觀レハ、上リテ埃國ニ
 追及ス可シ。

現在、起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵衝角艦	四	一三、六〇〇各	三、四〇〇
甲鐵河用砲艦	五	一、八〇八	三六七
甲鐵艦合計	二八	六九、三八八	三四〇
一等巡洋艦	七	二二、三六〇	三、六〇〇
二等巡洋艦	三		二、一六〇
三等巡洋艦	六	六一九九	一、七〇〇
砲艦	一	七二三	七七〇
砲艦	六	三、七五〇	
「コルヴェット」	二	二、七七四	小大 一、四二二 一、三五一
非甲鐵艦合計	二二	三三、八五六	
總計	五〇	一〇二、二四四	

注意 計畫中ノ巡洋艦三隻ト砲艦六隻ノ噸數未詳ナレハ實際ハ此ヨ
 リ大ニ上ル可シ。

現在起工及計畫中水雷艇

艇種	艇數	排水量	大小兩極
一等水雷艇	三八	三、二九八	最大 九一 最小 四六
二等水雷艇	一〇	一八約	最大 三七 最小 二〇
二等水雷艇	五	五五六	
水雷本艇	一	一四〇	
電氣艇	一		
合計	七三	三、九九四	

注意 一等水雷艇中二十隻、二等水雷艇ニ五隻、噸數未詳ノモノアレハ、實際噸數ハ合計以上ニ在リ
其餘ノ現在艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
一等砲艇	一七	四、二〇〇	最大 二八〇 最小 二四五

二等砲艇	練習艦	「エリス」艦	「ゴエレット」艦	測量艦	帆艦	合計
一五	一五	二四	二	一	四	八〇
二、八三八	一五、〇一九	二〇、六五八	一、四〇〇	六五四	七、一四四	五二、五一一
最大 一九五 最小 一〇八	最大 三、三四五 最小 一、〇〇〇	最大 一、三三二 最小 三七〇	最大 一、二二二 最小 一八〇	各	最大 三、六九〇 最小 一二四	

注意 此内練習艦中噸數未詳ノモノニ隻アレハ實際ハ合計以上ニ上ル可シ

海軍ノ大別及分遣艦隊

和蘭ノ海軍ハ大別シテ本國海軍及東印度海軍ト爲ス、其東印度ニ在ルモノヲ印度艦隊所謂「フリット」ナリ形ヲ成スニ非スト稱シ、ホルネオスマトラ、瓜哇及セレベス諸島ノ植民地ニ備フ、其艦隊ハ

甲鐵衝角艦 四隻 甲鐵巡洋艦 一隻
 砲艦 一六隻 「コルヴェット」 二隻
 「ゴエレット」 二隻 「エリス」艦 二四隻
 電氣艇 一隻 一等水雷艇 五隻
 測量艦 一隻 都合 四六隻

其他ハ本國艦隊トス、此本國艦隊ヨリ分遣セルモノ二隊アリ、
 クラサオ分艦隊 ヴエチジエラ一帯ニ備フ。
 スリナム分艦隊 蘭領ギヤナ一帯ニ備フ。
 軍港 和蘭ノ軍港ハ左ノ四箇所ニ之ヲ置ク、
 アムステルダム
 ヘルヴエツルイス
 ウイレムスールド

以上ニハ皆鎮守府ヲ置キ、海軍將官ヲ以テ司令長官トス。

フイジヤールド

最後ノ軍港ニ在ル艦廠ハ專ラ國家ノ艦船ヲ製造ス。
 海兵 和蘭ノ海兵ハ編籍兵ト志願兵トヨリ之ヲ採用ス、其現數ハ下士卒ヲ合シ一萬餘アリ、以テ本國及東印度ニ分隸ス。

海軍人員

將 校	機關官	計	一六
中 將	二 機關監	二〇	主計官
少 將	二 機關士	二三四	主計監
大 佐	二五 計	二五四	主計
少 佐	三五 技術官	主計補	七二
大 尉	三五五 技 監	計	一三
候 補 生	一一〇 技 士	九	軍醫官
計	五二九 候補生	二 軍醫總監	一

軍醫監	五	中	佐	三	下士海兵	六、二二四
軍醫	七	大	尉	一	若海兵	八七九
計	八	中	尉	二	海歩兵下士卒	二、二〇〇
海歩兵將校	一	計	兵	四	計	九、三〇三
大佐	一	諸	兵	總	計	一〇、三二六

海軍省

和蘭國王ハ海軍ヲ統率ス、王族ヲ將官ヲ以テ其軍令ヲ掌ラシム、海軍大臣ハ文官ヨリ之ヲ擧ケ、内閣員ニ列シ、其軍政ヲ總理ス、省中ニハ左ノ諸課アリ、

參謀課
人員課
水先課
水路課
給養課
衛生課
會計課

植民地ニハ又獨立ノ海軍部アリ、亦文官ヲ以テ長官トス、其組織ハ本國ニ倣ヘリ、即チ其所在地ハ

東印度 ヲ最第一トス、

西印度 之ニ次ク、

海軍教育

海軍兵學校 ウイレムスノールドニ在リ、コルヴェット二隻、小汽船二隻之ニ屬ス、生徒ハ年齡十四以上十七マテニシテ、普通學ヲ卒ヘタル者ヨリ採用ス、其學期ハ四箇年トシ、二箇年履程後ハ毎年夏期航海實地練習ヲ行ハシム、卒業後候補生ニ補シ、更ニ二箇年間海上勤務ニ服セシメ、而ル後チ海軍少尉ニ補ス、機關學校 ヘルヴェツルイスニ之ヲ置ク、

海軍費

年	度	歳出總額	海軍費	百分比例
一八九二	年度	一二九、九五九、〇三六	一四、〇八〇、四二〇	〇、八
一八九三	年度	一三六、二四〇、〇二五	一五、六九七、四二三	一一、五

一八九四年度	一三六〇三四八二七	一五、六一九三五五	一一、四
一八九五年度	一三六三九三六一八	一五、四一三、四八七	一一、三
一八九六年度	一三八三六二、六六五	一五、七五八、〇二六	一一、四

瑞典・諾威

海軍ノ地位

瑞典ト諾威トハ各、獨立國トシテ獨立ノ海軍ヲ有スト雖、聯合王國トシテ一王統治ノ下ニ在リ、且ツ其王ハ身兩國海軍ノ元帥トシ、必要アレハ戰時ト平時トヲ間ハス、兩國ノ艦隊ヲ聯合スルヲ得ルノ大權アリ。

千八百七十九年^{明治十年}全八十二年^{明治十五年}兩度ノ擴張案ニ由リ、瑞典ノ海軍ハ著シク進歩セリ、其案タルオラール男カ建議セシ國防ノ三主義ニ基ケリ、曰ク瑞典海軍ハ軍港要港ヲ防衛シ、敵艦隊ノ近接ヲ遮得スルノ力ヲ備フ可シ、曰ク瑞典海軍ハ敵ノ上陸ヲ禁遏シ、若クハ全然禁遏スル能ハサルモ之ヲ困却セシムルノ力ヲ備フ可シ、曰ク敵萬一上陸セハ陸防ト相應シ敵ト本國トノ交通ヲ

切斷スルノ力ヲ備フ可シトスルモノ則チ是ナリ、其海軍ノ如何モ亦是ヲ以テ概ス可シ。

諾威ノ海軍モ亦此三主義ニ據リ、千八百七十二年^{明治五年}以來多少擴張ヲ加ヘ、タ

今此兩國一切ノ艦船ヲ合算スレハ、百八十六隻、八萬四千六百餘噸アリ、就中有力艦ノミニテ五十隻、七萬二千噸ニ上レリ。

瑞典

現在起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵戰鬥艦	七	二、三、一一二	最大 四、〇〇〇 最小 二、六六二
甲鐵一等「モントール」	四	六、〇九八	最大 一、五九五 最小 一、五〇一
甲鐵二等「モントール」	七	三、一六六	最大 四、五四 最小 四、五〇

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵「モニター」	二	五〇六	最大 二五七 最小 二四九
砲艦	七	一、四七九	最大 二八〇 最小 一八五
運送艦	三	四五二	最大 四〇八 最小 四〇四
練習艦	二	三、〇一一	最大 二、八四六 最小 一、七五五
瀛艦	三	三三〇	最大 一、八五五 最小 五二二
小砲艇	四	五〇	最大 二〇七 最小 七
小砲艇	八		
帆艦	九	五、二三四	最大 一、四三九 最小 八〇
測量艦	一	一一七	
合計	四二	二、一一一	

其餘ノ現在艦

注意 一等水雷艇中ニ噸數未詳ノモノ若干隻アリ。

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵艦合計	一八	三、三三六	
「フレガット」	一	二、二二〇	
巡洋艦	一	六七〇	
「コルヴェット」	三	五、四七五	最大 一、九八四 最小 一、六一八
砲艦	九	四、八二九	最大 六三九 最小 四九六
水雷衝角艦	一	六二七	
非甲鐵艦合計	一五	一、三、七二一	
總計	三三	四六、〇九七	

現在、起工及計畫中水雷艇

艦種	艦數	排水量	大小兩極
一等水雷艇	一八	二、三九一	最大 九〇〇 最小 六五〇
二等水雷艇	一七	六六九	最大 四〇〇 最小 三四〇
三等水雷艇	七	一五一	最大 二二一 最小 一五

注意 以上ノ内運送艦一隻小砲艦八隻噸數未詳ナレハ實際噸數ハ之ヨリ多キコト知ル可シ。

軍港及鎮守府

瑞典ノ沿海一帯ハ之ヲ二海軍區ニ分チ、ストックホルム及カル、スクロナノ兩鎮守府ニ於テ之ヲ管轄ス、鎮守府司令長官ハ海軍將官ヲ以テ之ニ補シ、海軍區ノ管轄府管諸兵員ノ總統、諸學校ノ提理、行政會議ノ議長、カル、スクロナ要塞ノ防禦、ストックホルム水路勤務ノ司令ニ任ス。其軍港ハ左ノ如シ。
ストックホルム 首府ノ在ル所、艦廠ヲ置ク。
カル、スクロナ 半島ノ南東角陰ニ在リ、亦艦廠アリ。
艦廠ニハ司令官アリ、軍令ニ關シテハ鎮守府司令長官ノ節度ニ屬スト雖、其他ハ都テ本省材料局ノ指揮ヲ受ク。

海兵

瑞典ノ海兵ニハ三種アリ、志願兵、豫備兵及編籍兵トス。

志願兵モ亦二種アリ、其一ハ若海兵出身ニシテ各兵團三分ノ一ハ此兵種ニ屬セリ。他ノ一ハ八年志願兵ニシテ年齢十八ヨリ二十二マテノ者ヨリ採用ス、各兵團三分ノ二ハ此兵種ニ屬セリ。
豫備兵ハ年齢六十五マテ退役下士官ヲ以テ之ニ充ツ、此兵種ハ戰時ノ外ハ徵集セス。

編籍兵ハ年齢二十一ヨリ三十二マテノ商船士官水火夫ヲ以テ之ニ充テ、戰時ニ當リ徵集スルモノトス、平時ニハ年ニ六週間其中ノ一分ヲ召集シテ訓練ヲ爲スノミ。

海軍人員

目下海軍ノ人員ハ左ノ如シ

將 校	大 佐	六	大 尉	五四
中 將	中 佐	二四	少 尉	二九
少 將	少 佐	六三	計	一七九

技術官	軍醫補	僧官	
技術總監 <small>少將相當</small>	計	計	
技術監 <small>大佐相當</small>	主計官	諸兵	
技士	主計官	下士海兵	
技師	計	若海兵	
計	海上士官	計	
軍醫官	海上士官	總計	
軍醫監 <small>少佐相當</small>	計		
軍・醫 <small>大尉相當</small>	僧官		

海軍省

瑞典國王ハ瑞典及諾威海軍ノ元帥タリ然レトモ兩國各別ニ其海軍ノ組織ヲ立ツ其海軍省ハストックホルムニ在リ文官ヲ以テ海軍大臣トス本省ノ下ニ左ノ部局ヲ置ク、大臣官房

一	一五	七
二	二四	七
五	四九	六九七二
二	四九	四〇〇
一〇	二三四	七三七二
一	二三四	七八七五
八	二三四	

人員局

參謀部

材料局 本局ニハ左ノ五課アリ

監督課

水雷課

砲煩課

造船課

會計課

水先局

海軍教育

海軍兵學校 ストックホルムニ之ヲ置ク年齢十三ヨリ十六マテノ子弟ヨリ之ヲ採用ス其學期ハ六箇年トス其間毎年夏季四箇月間ハ練習艦ニ乗組マシメ實地練習ヲ行ハシム卒業後候補生ニ補シ爾後三箇年間航海海防各種ノ任務ニ服シ始メテ海軍少尉ニ補ス

移動防禦學校、兩軍校ニ在リ。
 練習學校 ストックホルム^{ストックホルム}ニ在リ。
 射撃學校 亦全軍港ニ在リ。
 師範學校 カル、スクロナニ在リ、商船士官ヲ教育スル所トス、卒業スレハ准士官ノ官階ニ班列ス。
 若海兵學校 亦カル、スクロナニ在リ、其學期ハ四箇年トス、毎年冬季八箇月ハ陸上ノ學校ニ、夏季四箇月ハ練習帆艦ニ於テ教育ス、年齢十八ニ達スレハ三等海兵ニ補ス。

海軍費

年 度	歳出經常總額	海軍經常費	百分比例
一八九二年度	六九、一〇一、三一一 ^{ノロイン}	六、二五八、六九〇 ^{ノロイン}	九、〇
一八九三年度	七〇、二三七、五二六	六、五三九、〇九〇	九、三
一八九四年度	七四、五三〇、〇一三	六、九〇八、一五六	九、二

諾威

現在及起工中有力艦

一八九五年度	七六、五七〇、三二六	六、九七八、九〇〇	九、一
一八九六年度		六、九九六、三〇〇	

艦 種	艦 數	排 水 量	大 小 兩 極
甲鐵戰闘艦	二	六八〇〇各	三、四〇〇
甲鐵「モニートル」	四	六五七一	二、〇三三 一、四六六
甲鐵艦合計	六	一三、三七一	
「フレガット」	二	五、七八五	三、五一九 二、二六六
「コルゼット」	三	二、六一九	一、六三一 九八八
一等砲艦	三	二、七〇七	一、一一三 五八八
二等砲艦	三	一、四二三	六三五 三九三

非甲鐵艦合計	二	一二、五三二
總計	一七	二五、九〇五

注意 此中「ユルヴェット」三噸數未詳ノモノ一隻アリ、又砲艦ニ三百九十五噸ノモノ一隻アリ便宜此ニ收メ

現在及起工中水雷艇

艇種	艇數	排水量	大小兩極
一等水雷艇	一三	五六一	最大 五三 最小 三六
二等水雷艇	四	六二	最大 二〇 最小 六
合計	一七	六二三	

其餘ノ現在艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
二等砲艇	二	二七四	最大 二五七 最小 一九〇
三等砲艇	一七	一〇四九	最大 九七 最小 五九

運送艦	四		
練習艦	一		
漁艦	一	三三二	
帆艦	三	五六五	最大 三五五 最小 二一〇
營艦	一		
合計	三八	四、六八七	

注意 運送艦四隻練習艦一隻帆艦一隻營艦一隻噸數未詳ナレハ實際噸數ノ合計以上タルヤ知ル可シ

軍港

諾威ニハ惟一ノ軍港アリ即チ

ホルテン クリスチャニヤノ對面ニ在リ艦廠アリテ艦船ノ製造修理、機裝、解

裝ニ任ス海軍少將ヲ以テ軍港司令官トス

其他五艦廠アリ但シ其中眞ニ艦廠ト稱ス可キモノハ、

カルリジヨハンズヴァールン 亦艦廠ヲ有セリ此外

フレデリコウォールン
クリスチヤンサン
ベルゲンサン
トロンドジャム

以上ハ寧ロ海軍材料ノ貯藏場ト稱ス可シ

海兵

諾威ノ海兵モ亦三種アリ、編籍兵、民兵及豫備兵是ナリ。

編籍兵ハ沿海地方ノ住民ニシテ海業ニ従事スル年齢二十五ヨリ三十五マテノ男子ヲ以テ之ニ充テ、平時ハ其中ヨリ現役兵ヲ抽キ、戰時ニハ大動員ヲ爲スモノトス。

海軍省

諾威ノ海軍ハ瑞典ノ海軍ト與ニ國王ノ統御ニ屬ス、然レトモ諾威ハ諾威ノ海軍トシテ獨立ノ軍令部及軍政部ヲ有セリ、而シテ兩部共ニクリスチヤニヤ府ニ之ヲ置ク。

軍令部ハ海軍少將之ヲ統ヘ、國王不在ノ時ハ代リテ司令權ヲ行フ、本部ニハ幕僚參謀アリ、參謀ノ一人ハ侍中トシテ常ニストックホルム府ニ坐ス、國王ニ侍シ、傳令ノ事ヲ掌ル。

軍政部ハ即チ所謂海軍省ナリ、軍令部長官之ヲ兼ヌ、海軍大臣ニシテ參議院ノ一員タリ。

海軍教育

海軍兵學校 年齢十九以下ニシテ二十一箇月以上商船ニ乗組ミ、且ツ普通學ヲ卒ヘタル者ヨリ之ヲ採ル、學期ハ三箇年トシ、其間毎年六週練習艦ニ於テ實地練習ヲ行ハシム、卒業ノ後チ候補生ニ補シ、爾後主トシテ軍艦ニ乗組マシメ、更ニ十八箇月間服務ノ後、海軍少尉ニ補ス。

海軍費

年 度	歲出經常總額	海軍經常費	百分比例
一八九二年度	四九三〇〇、〇〇〇 ^{クローン}	二、六二三、九〇〇 ^{クローン}	五三

一八九三年度	五、三、五〇、〇〇〇	二、六九〇、九〇〇	五、二
一八九四年度	五、一、七〇〇、〇〇〇	二、七六九、九〇〇	五、二
一八九五年度	五、四、六八〇、〇〇〇	二、八五〇、九〇〇	五、二
一八九六年度	六、一、〇〇〇、〇〇〇	二、九九八、五五六	四、九

伯刺西爾

海軍ノ地位

伯刺西爾ハ南米ノ大國ナリ、其海軍現在、起工及計畫中ニ繫ル一切ノ艦船ヲ合算スレハ、百十八隻、十萬二千餘噸アリ、就中有力艦ノミニテ五十隻、七萬一千餘噸ニ上レリ、他日は等ノ艦隻悉ク成備スルニ至ラハ、南米諸國ノ海軍ニ冠タルノミナラス、一躍シテ瑞典、挪威ノ右ニ出ツルニ至ル可シ。

現在、起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
----	----	-----	------

甲鐵戰團艦	二	一〇、七九一	小大	五、七九一
甲鐵戰團艦	三			五、〇〇〇
甲鐵海防艦	三	四、三七五	最大	二、一七九
甲鐵「モニター」	二	九四〇	各	一、〇〇〇
甲鐵河用「モニター」	三	一〇、二六六	各	四、七〇〇
甲鐵艦合計	一三	一七、一三三		三四二
一等巡洋艦	九	三四、四三四	最大	四、五〇〇
二等巡洋艦	四	三、六三二	最大	一、五〇〇
二等巡洋艦	四		最小	一、四一四
補助巡洋艦	四	一三、三一〇	最大	一、四一四
補助巡洋艦	四		最小	七五〇
水雷巡洋艦	三	三、〇〇〇	各	五、〇〇〇
水雷巡洋艦	一	五〇〇		二、三二〇
水雷驅逐艦	八			一、〇〇〇

報知艦	五		
砲艦	一	四三〇	
非甲鐵艦合計	三七	五四、二〇六	
總計	五〇	七一、三三八	

注意 以上ノ内戰闘艦三隻、二等巡洋艦二隻、補助巡洋艦一隻、報知艦五隻噸數未タ詳ナラス、之ヲ合算セハ若大ノ噸數ヲ加フ可シ。

現在水雷艇

艇種	艇數	排水量	大小兩極
航洋水雷艇	三	三一八各	一〇六
一等水雷艇	一〇	八九八	最大 最小
二等水雷艇	六		
三等水雷艇	六		二二各
合計	三七	一一、三三七	

水雷砲艇	一		
水底水雷艇	二		
合計	三七	一一、三三七	

注意 一等水雷艇九隻、二等水雷艇六隻、水雷砲艇一隻、水底水雷艇二隻ノ噸數未詳ナリ、故ニ總噸數ハ實際此合計ヨリ多キ知ル可シ。

其餘ノ現在艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
砲艦	一六	二、八六六	最大 最小
運送艦	七	一九、〇九六	最大 最小
練習艦	五	六、四七七	最大 最小
練習艦	三		二、七五〇 一、五〇〇
合計	三一	二九、四三九	

注意 練習艦三隻噸數未タ詳ナラス。

補助巡洋艦

伯刺西爾政府ハ明治二十三年^{千八百九十三年}ヨリ向十五年間其國郵船會社ニ、一ハサントリスヨリ漢堡^{ハンブルク}ニ、一ハサントリスヨリ馬耳塞ニ至ル二線路ヲ特許シ、年々補助金七十五萬法^{フラン}ヲ與ヘ、戰時ハ以テ補助巡洋艦ト爲ス、是ニ由リテ其船舶ハ普通速力十二節必要ノ際ニハ十六節ヲ出シ、十二珊瑚砲ヲ据ウヘキ六、プラット、フォルムト二水雷發射管口ヲ備フ可キコトヲ約定セリ。

海軍人員

海軍現在ノ人員ハ左ノ如シ、

大將	二	中佐	二六	機關官	二六
少將	三	大尉	四九	機技總監	四九
中將	一〇九	一等機關士	一〇九		二
少將	三一	二等機關士	三一		四
大佐	一〇	三等機關士	二三六		一五
計					

四等機關士	二四	三等軍醫	九	二等主計	五
機關候補生	五九	四等軍醫	三七	三等主計	一四
計	一〇五	計	五二	四等主計	三四
軍醫官	二	主計官	一	五等主計(候補生)	二三
一等軍醫	二	主計總監	一	計	七九
二等軍醫	四	一等主計	二	總計	四七二

海軍ノ組織

軍艦ノ配備 伯刺西爾ノ軍艦ハ延長ナル沿海ト南リオグランデ、ウラケイ、バラケイ、アマゾン及リオデ・ジャネイロノ五河ニ配備セリ。
 軍港及艦廠 軍港ハ左ノ五箇所ニ之ヲ置ク、
 リオ・デ・ハネイロ 是レ其最大ナルモノ、造船所三、乾船渠二、修理場數所アリ、自國軍艦ヲ製造シ、小口徑ノ兵器ヲ修繕シ、彈藥ヲ製作シ、海底防備ノ諸具ヲ供給シ、工夫四千入ヲ役ス。

パビヤ

ベルナンブコ
バラ

マートーグロソ

海軍省 伯刺西爾ノ海軍ハ大統領之ヲ統フ、海軍省ヲ置キ文官ヲ以テ大臣ニ任シ、高等會議ニ議リ重ナル軍政ヲ行フ、省ハ二部ニ分ツ、

軍政部 文官ヲ以テ部長トス、

軍令部 海軍少將ヲ以テ部長トス、

海軍教育 ニ關シテハ左ノ學校アリ、

海軍兵學校 リオデハネイロニ在リ、年齢十三ヨリ十七マテノ子弟ヲ採用ス、

其學期ハ三年間、卒業スレハ候補生トナル、是ヨリ更ニ全校ノ高等科四年ヲ修ムレハ二等リウテナンニ補ス、

海軍費

年 度	歳出經常總額	海軍經常費	百分比例
-----	--------	-------	------

一八九三年度

三二一、八九〇、六三七

一五、六七六、二三〇

四、八

一八九四年度

二五〇、四五七、九〇八

一七、八四六、二〇〇

七、一

一八九五年度

二九六、〇二八、〇七八

二五、一七七、一五三

八、五

智利

海軍ノ地位

智利ハ邦土ノ形状ヨリ海軍ノ必要ヲ促進シ、嘗テ白露トノ海戰ニ頗ル素養ノ實ヲ見ハセリ、千八百八十八年^{明治二十一年}其海軍物質ノ改造ヲ計畫シ、爾來之カ實行ヲ勉メタリ、今其一切ノ艦船ヲ舉數スレハ、五十五隻、四萬六千餘噸アリ、就中有力艦ハ十八隻、四萬二千餘噸ヲ占メタリ、

現在及起工有力艦

艦 種	艦 數	排 水 量	大 小	兩 極
-----	-----	-------	-----	-----

甲鐵戰鬪艦	二	一〇、三六〇	小大	六、九九〇 三、三七〇
甲鐵「モニター」	一	二、〇三二		
甲鐵艦合計	三	一二、三九二		
巡洋艦	六	二、〇六〇	最最大	五、五〇〇 二、〇〇〇
「コルヴェット」	三	四、三五〇	最最大	一、四九〇 一、三七〇
砲艦	二	一、七五〇	小大	九、五〇〇 八、〇〇〇
水雷艦	一	五五〇		
水雷報知艦	三	二、六三〇	最最大	一、二〇〇 七、一〇〇
非甲鐵艦合計	一五	三〇、三四〇		
總計	一八	四二、七三二		

注意 以上ノ内甲鐵戰鬪艦ノ最大ナルモノ排水噸數六千九百九十噸
 其名ヲ「カビタノ、プラット」トイフ、明治二十六年ノ進水ナリ、是レ某々兩
 國ノ曾テ注目セシ所ノモノ

現在起工及計畫中水雷艇

艇種	艇數	排水量	大小兩極
艦隊水雷艇	三	四八〇各	一六〇
一等水雷艇	二	一、六四五	最最大 九〇 六五
二等水雷艇	二	八〇各	四〇
二等水雷艇	四		
合計	三〇	二、一〇五	

注意 二等水雷艇二隻噸數未詳
 其餘ノ現在艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
運送艦	二	一、九二〇	小大 一、五〇〇 四二〇
漁艦	五		
合計	七	一、九二〇	

注意 漁艦五隻噸數未詳

補助巡洋艦

智利政府ハ左ノ郵船會社ト特約シ年ニ百萬法^{フラン}ノ助成金ヲ與ヘ以テ戰時ノ用ニ充ツ即チ

南米瀛船會社瀛船

一五隻

太平洋航海會社

一五隻

海軍人員

智利海軍ノ現役人員ハ左ノ如シ

中將	一	少尉	一九	軍醫監	一
少將	四	少尉候補生	三六	軍醫官	一七
大佐	一一	機技監	一	水先士官	二六
中佐	一八	機關官	五九	下士海兵	一、二八五
少佐	一六	技術官	一、二六	總計	一、五九二
大尉	二〇	主計監	一		
中尉	五	主計官	四六		

海軍ノ組織

海軍區及軍港 智利ノ沿海ハ十五海軍區ニ分チ每區ニ海軍區長ヲ置キ軍務省之ヲ統轄ス政府ハ近コロリカニ軍港ヲ建設スルノ議ヲ決シ船渠艦廠ヲ興サントス

海兵 全然志願兵ヨリ之ヲ採ル其服務期限ハ六箇年乃至十箇年トス

軍務省 此國ニハ獨立ノ海軍省ナシ軍務省中ニ海軍部ヲ置キ先任將校ヲ以

テ部長トシ軍令軍政ニ任セシム部ハヴァルバレイソ^ル府ニ在リ

海軍教育 ニ關シテハ左ノ學校アリ

海軍兵學校 亦ヴァルバレイソ^ル府ニ在リ其學期ハ六箇年トス

海軍費

年 度	歲出經常總額	海軍經常費	百分比例
一八九三年度	五〇、三〇二、〇〇〇 ^{ペソ}	五六、二七、七八六 ^{ペソ}	一一、五
一八九四年度	四九、七五四、二七六 ^{ペソ}	五、九九四、八三九 ^{ペソ}	一二、〇
紙幣	四九、七五四、二七六	五、九九四、八三九	
金貨	一、四二七、三八九	一、四四、一四四	

一八九五年度	紙幣	五七〇九一、二二三	六、六七八四三三	一一、八
	金貨	七七九、八〇七	五〇、二二二	
一八九六年度	紙幣	七三、一六八、一四四	七、二六三、六一一	九九

三七六

亞爾然丁

海軍ノ地位

亞爾然丁ハ比年銳意シテ海軍ノ擴張ニ從事シ、南米第一ノ海軍國トナルコトヲ以テ自ラ期セリ、今其一切ノ艦船ヲ合計スレハ七十一隻、四萬九千五百餘噸アリ、就中有力艦ハ二十三隻、四萬二千噸ヲ占メ、智利ト伯仲セリ、然レトモ現在ノ艦種ヨリ之ヲ言ヘハ、亞爾然丁ハ寔ニ其自期スルカ如ク、智利ノ右、伯刺西爾ノ上ニ出テ、南米第一タルノ實質ヲ有セリ。

現在、起工及計畫中有力艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
甲鐵「コレヰット」	一	四、四〇〇	
甲鐵「フレガット」	一	七、〇〇〇	

甲鐵「コレヰット」	一	四、二〇〇	
甲鐵「モニター」	二	三、〇七〇	各
甲鐵海防艦	二	五、〇〇〇	各
甲鐵艦合計	七	二三、六七〇	
巡洋艦	五	一一、七三〇	最大 最小
一等砲艦	三	一、九二〇	最大 最小
二等砲艦	四	一、六六四	各
水雷報知艦	二	五二〇	
水雷巡洋艦	二	二、二八三	大 小
水雷砲艦	一	五〇〇	
非甲鐵艦合計	一七	一八、四一七	
總計	二四	四二、〇八七	

注意 巡洋艦一隻、水雷報知艦一隻ノ噸數未詳

現在及起工中水雷艇

艇種	艇數	排水量	大小兩極
一等水雷艇	二〇	二四九五	最大 二五〇 最小 五三
二等水雷艇	一〇	一五三	最大 一六 最小 一五
水雷貯蓄艇	四		
合計	三四	二六四七	

注意 一等水雷艇一隻全貯蓄艇四隻噸數未詳

其餘ノ現在艦

艦種	艦數	排水量	大小兩極
報知艦	二	七〇〇各	三五〇
報知艦	二		
運送艦	四	二八五〇	最大 一〇〇〇 最小 三〇〇
漁艇	五	六〇〇各	一二〇

海軍人員

其海軍人員ノ現在左ノ如シ

注意 報知艦二隻噸數未詳

帆	艦	合計	帆	艦
中將	一	一	六〇	上等士官
少將	二	二	一七三	士官生徒
コムモドル	三	三	二六	技術官
大佐	二	二	二〇	機關官
少佐	四	四	一〇	准士官
大尉	三〇	三〇	八	下士官
中尉	九	九	一二九四	海兵
少尉	八一	八一	一八八〇	火夫
少尉候補生	二八	二八		匠工
合計	一四	一四	四八〇〇	